
英語学科講義概要（シラバス）について

英語学科長 阿部 一

獨協大学の全学部学科にわたって新カリキュラムが施行されて以来、はや 6 年の月日がたちました。その間、科目の選択肢も大幅に増え、授業内容も大きく様変わりしたものが増えました。英語学科においては特にその感が強いといえます。そして、それらは伝統的な学問を尊重しつつも、世の中の動きや社会のニーズに広く答えるものとなっています。

今、政治面でも経済面でもあるいは金融面でも世界は激しく揺れ動いています。環境アセスメントや地域紛争などの難問も数多くかかえています。そんな中であって、今や国際的なコミュニケーションの共通語である「英語」の重要性は日増しに強くなるばかりです。

英語学科はその英語をキーワードにして、これまで学生諸君が自分でその運用能力をレベルアップできるような環境作りを心がけてきました。そのため、「基礎科目」、「共通科目」、「専門科目」という 3 科目群と「文学文化」、「言語情報」、「国際コミュニケーション」という 3 専門分野を横軸に捉え、その上で各専門分野をコース制にして縦軸としました。そして、相互に有機的・体系的に関連を持たせて組み合わせることによって、「獨協の英語学科生」にふさわしい高度な語学力と幅の広い教養、そして時代のニーズに合った専門分野の知識を身に付けてもらうことを目指したものです。

そのため、学生諸君は絶えず自分の英語運用力のレベルアップを図りつつも、希望する専門分野を中心にクラス・アドバイザーや演習担当教員とも相談しながら、自主的にカリキュラムを編成していくことになります。

そして、その意味では本シラバスは諸君が上手に履修する上で、大切ないわば「羅針盤」の役割を果たしてくれるものといえるでしょう。

履修する科目や担当教員の項目だけを見て事足りりとするのではなく、一度はぜひ英語学科にどういった先生がおられどういった内容の授業をなさっているのか、といったことにも関心を持って読んでいただきたいと思います。

もちろん、もし読んでいて何らかの質問や相談事などがあれば、それぞれの科目担当教員に聞いてください。どの先生も喜んで諸君の質問に答えてくれるはずです。

以上、色々な意味で有意義な情報の詰まったシラバスですので、ぜひ学生諸君は主体性のある学習のために積極的かつ効果的に活用されることを望みます。

科 目 名	英 語 （ 講 読 ）	担 当 者 名	各 担 当 教 員
-------	-------------	---------	-----------

講 義 の 目 標	<p>講読の方法にはいろいろあるが、大きく分けると、ことば使いや内容をじっくり味わい検討していく読み方と大量のページ数を速く読みその概要をつかむ読み方がある。英語 では、読む目的に応じて読み方を変えることが出来るようになること、語彙を増やしていくこと、行間を読みとることなど、さまざまな形の「読む」という言語活動をとおして、現代英語で書かれた英文を読む基礎的な力を育成する。</p>		
講 義 概 要	<p>授業内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。</p>		
使 用 教 材	テキスト	各担当教員が指示する。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	各担当教員が授業時に説明する。		
受 講 者 対 する 要 望 等			

科目名	英語 (Reading)	担当者名	各担当教員
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>Objectives of this program :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) to develop intensive reading skills, such as inferring the meaning of a word from context, reading “between the lines”, and getting into the habit of using an English-English dictionary 2) to build general vocabulary as well as vocabulary in the content areas, including some slang and “culture-bound” concepts 3) to develop extensive reading skills, such as grasping the main point of a paragraph and the flow of the argument 4) to encourage students to think deeply enough about a selection of topics to give their own opinion and comments 5) to introduce students to taking responsibility for their own reading (outside readers) 6) to give students the chance to see that English reading can be both an enjoyable and interesting, as well as an informative, experience. 		
講義概要	<p>Teaching Program:</p> <p>Texts: The texts will form the core of the course. There are two types : the 'in-class text' and the 'outside readers.' The in-class text will be the main text of the class. There will be two outside readers: one for the first term, and one for the second term.</p> <p>How each instructor handles the actual week to week classroom instruction is up to the discretion of that instructor. This may include, but is not limited to, student reading, explanation of lexical or content points, supplementary reading, lectures, video, homework and in-class assignments, quizzes, etc. It is suggested that two class periods be spent on each main text selection, one class to cover the basics, such as vocabulary, and comprehension, and the other to stimulate response to the content material. Instructors may also spend time in class dealing with the 'outside reader.'</p>		
使用教材	テキスト	<p>L. C. Smith & N. N. Mare ,<i>Concepts for Today Japan Edition</i> (Heinle & Heinle ,1994) George Orwell, <i>Animal Farm</i>, Penguin Books John Steinbeck, <i>The Pearl</i>, Penguin Books</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>Scoring & Grading System :</p> <p>As the core of this program is based not just on vocabulary and comprehension but on developing good reading skills, the following guidelines are recommended in determining grades : committee-prepared midyear and final tests (40%) ; reading skills tests (40%) ; attendance and participation (20%).</p>		
受講者に対する要望など			

科 目 名	英 語 （ 講 読 ）	担 当 者 名	各 担 当 教 員
-------	-------------	---------	-----------

講 義 の 目 標	読解力を身につけるためには、できるだけ量を多く読むことが必要とされる。英語 では、英語 に引き続き、現代のさまざまな英文を読み、基礎的な読解力をさらに伸ばしていく。		
講 義 概 要	授業内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。		
使 用 教 材	テキスト	各担当教員が指示する。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	各担当教員が授業時に説明する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	英 語 (I C)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically, for this one-year course, this will entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in more advanced English conversation courses that are offered in the following years.</p>		
講 義 概 要	<p>Instructors will use their own materials in accordance with course goals and guidelines. Video, and/or text-based materials may be used that will support complementary exercises or activities relating to a linguistic topical point being covered in the material. The aim will be to build communication skills(speaking and hearing), as well as cultural knowledge, and to help students acquire the interpersonal skills necessary for discussion and the exchange of opinions.</p>		
使 用 教 材	テキスト	Left to the discretion of the individual instructor.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	Up to the discretion of the instructor.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科目名	英語 (AC)	担当者名	各担当教員
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically, for this one-year course, this will entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English courses, such as discussion and debate, offered in the following years.</p>		
講義概要	<p>Based on the results of a placement test, freshmen students will be placed in the most appropriate course for their competence level. Students who score above average on the placement test will be in the Advanced Conversation course. Many students in this course will likely be returnees, and as such will already be competent in listening skills. Much time will therefore be spent on advanced oral production using video and reading materials through discussion, debate, etc.</p> <p>As the native English-speaking staff teaching are professionals in teaching, particularly in the area of English conversation, they have been given the freedom to teach as they see best, with regard to the course goals.</p>		
使用教材	テキスト	Up to the discretion of the individual instructor.	
	参考文献		
評価方法	Up to the discretion of the instructor.		
受講者に対する要望など			

科 目 名	英 語 （文法・作文）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>文法知識を単に知識としてではなく、生きた「ことば」を表現する手段として活用し、与えられた状況にふさわしい英文が書けるようにする。また、日本語と英語の表現や発想の違いにも注意を払い、より良い表現が出来るようにする。</p> <p>学科共通科目の「英作文」を履修するための前提となる科目である。</p>		
講 義 概 要	<p>実際に英文を多く書くことによって、表現法や文体を習得していくことになるが、授業の内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。</p>		
使 用 教 材	テキスト	各担当教員が指示する。	
	参考文献		
評 価 方 法	各担当教員が授業時に説明する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>原則として、受講希望者は全員受講できるが、英語（パラグラフ・ライティング）の最初の授業に出席して英作文のテストを受け、自分の英作文能力に合ったレベルの授業を受講することを希望する。</p>		

科 目 名	英 語 （パラグラフ・ライティング）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	--------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>和文英訳ではなく、英語で考えて英語で書くことを目的とする。しかし、書くと言っても、ただ英文で書けばよいのではない。断片的な文を書くのではなく、いくつかの文を内容的に関連づけながら、論理性のある文章を書くことが求められる。</p> <p>その第1段階として、ある一つの中心となる考え（main idea）について、いくつかの英文で表現し、まとめてみることから始める。英語で文章を書く際に基本となるパラグラフの構成の仕方について学ぶ。</p> <p>学科共通科目の「エッセイ・ライティング」を履修するための前提となる科目である。</p>		
講 義 概 要	<p>実際にパラグラフを数多く書くことが要求されるが、授業の内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に説明がある。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	各担当教員が指示する。	
	参 考 文 献	各担当教員が授業時に説明する。	
評 価 方 法	各担当教員が授業時に説明する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	最初の授業で、簡単な英作文能力を図るテストを行ない、その結果により受講許可を決定する。受講許可をもらえなかった場合は、英語（文法・作文）を受講すること。		

科 目 名	英語学概論 1	担当者名	神 尾 昭 雄
-------	---------	------	---------

講義の目標	本講義の目的は、最新の英語学および言語学の成果に基づいて、できるだけわかりやすく英語という言葉について科学的に理解を深めることである。その際に、われわれの母国語である日本語とわれわれにとって外国語である英語とを比較対照しながら、英語の諸側面について理解を深めると同時に日本語についての理解をも深めることをねらいとする。		
講義概要	講義は下の教科書に基いて行なわれ、学生は毎回指定された部分をあらかじめ読んでおくことが必要である。		
使用教材	テキスト	「日英語対照による英語学概論」増補版 西光義弘編 くろしお出版 1999年 DUOの教科書販売所においてあらかじめ各自購入し、第1回の授業時に持参すること。	
	参考文献	教室で指示する。	
評価方法	前期および後期の定期試験のほかに、前期及び後期の中間に中間試験を行ない、以上4回の試験結果を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	上記のように、あらかじめ指定された教科書の部分を必ず読んでくると。		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書についての説明。授業の進め方などについての説明 2. 英語史および世界の英語について（教科書 pp.287～365 まで） 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 音声学・音韻論について（教科書 pp.1～46） 7. 同上 8. 同上 9. 形態論とレキシコンについて（教科書 pp.47～96） 10. 同上 11. 同上 12. 統語論 生成文法について（教科書 pp.97～136） 13. 同上 14. 同上 15. 統語論 機能主義について（教科書 pp.137～183） 16. 同上 17. 同上 18. 意味論について（教科書 pp.185～242） 19. 同上 20. 同上 21. 語用論について（教科書 pp.243～285） 22. 同上 23. 同上 24. まとめ 		

科 目 名	英語学概論 2	担当者名	児 玉 仁 士
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>まず、英語自体についての理解を深める前に、われわれが日常用いている言語そのものの実態をある程度明らかにしておく必要がある。この言語学的な理解・知識を基礎にして、英語が持っている言語的特性を概説するのがこの講義の目標である。</p>		
講 義 概 要	<p>英語学が一つの独立した学問体系をなすかどうかはともかくとして、英語を専攻するものが基本的・必須的知識として、当然修めなければならない英語全般に関する学問領域である。それには、英語が一つの言語として有する言語的諸相とそれに関する学問的業績すべてが包括される。ただし、この領域はあまりにも広範にわたり、限られた年間の授業数でそれをカバーすることは到底不可能である。したがって、この講義では、その中で最も中心となる課題に焦点を絞って解説することになる。言語行為、音声学・音韻論、意味論、文法論、英語史が主なトピックである。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	E.M. Heatherington ; <i>How Language Works</i> (英語学入門) 金星堂	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・石黒昭博・他著『現代の英語学』 金星堂 ・島岡丘・他著『最新の音声学・音韻論』 研究社 ・今井邦彦 編『英語変形文法』 大修館 ・ジノ・ソング著『言語学への招待』 南雲堂 	
評 価 方 法	<p>評価は、基本的には、前期・後期の定期試験の成績に基づく。なお、随時、出席をとり、それも総合評価に加味したい。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<p>1. 序論：言語の実態：言語が人・社会・文化という構図の中でどのような機能を持っているのかを、概観したい。</p> <p>2. 第1章：言語および言語行為 1) 伝達手段：言語・非言語、動物・人間の伝達手段 2) 言語の特性</p> <p>3. 3) 言語記号の2面性・恣意性・線状性 4) 言語研究の分野・方法</p> <p>4. 第2章：英語の音声 1) 言語音声 2) 言語音声の記述：音声学・音韻論</p> <p>5. 3) 音声表記・音素表記：万国表意文字、精密表記・簡略表記 4) 発音器官：どのような器官を用いて言語音は発せられるのか 5) 音声の分類：母音と子音、有声音・無声音</p> <p>6. 6) 母音の分類と種類 7) 子音の分類と種類</p> <p>7. 音節・強勢/弱勢・アクセント・音調 9) 音連続における音声変化：推移音・音連結・同化・異化</p> <p>8. 10) リズム：散文・韻文のリズム、頭韻・脚韻、詩型</p> <p>9. 第3章：英語の意味 1) 「意味」とは？ 2) 意味論：一般意味論・哲学的意味論・言語学的意味論</p> <p>10. 3) 言語学的意味論：指示的・辞書的・形式的・構造的・文脈の意味 4) 意味の分析：Osgoodの「意味微分法」とKatz/Forderの「意義素性分析」</p> <p>11. 5) 意味の同一性：外延的・内包的意味 6) 意味の多義性：辞書の語義</p> <p>12. 7) 意味の具象性と抽象性：Hayakawaの「抽象の過程」 8) 意味と文化・意味の変化：縮小・拡大・墮落・向上</p> <p>13. 第4章：英語の文法 1) 「文法」の概念・その変遷 2) 文法の研究の方法・その種類</p> <p>14. 3) 文法の記述の対象：形態論・統語論 4) 規範文法：規範性・単語・品詞分類・文、文の正用・誤用の基準</p> <p>15. 5) 科学文法：科学性・形態・機能・文法範疇：Sweet/Jespersenの文法</p> <p>16. 6) 構造主義文法：構造的・音素・形態素・語類・統語分析</p> <p>17. 7) 変形生成文法：Chomskyの理論とその変遷</p> <p>18. 第5章：英語の歴史 1) インド・ヨーロッパ語族・ゲルマン語族派の位置：Grimmの音韻法則</p> <p>19. 2) 西ゲルマン諸語(フリジア語・オランダ語・ドイツ語)と英語との比較：第2次子音推移 3) 英語とフリジア語の類似性</p> <p>20. 4) 英語史の時代区分とイギリスの歴史(特に、アングロ・サクソン期および中期)</p> <p>21. 5) 英語の階級方言・社会方言 6) 古期英語：文字・綴り・発音・文法(形態・統語)</p> <p>22. 7) 中期英語：文字・綴り・発音・文法(形態・統語)：Chaucerの英語、大母音推移</p> <p>23. 8) 近代英語：綴り・発音・文法；聖書の英語、Shakespeareの英語</p> <p>24. 9) アメリカ英語 10) 英語の辞書：編纂とその歴史</p>
----------------------------	---

科 目 名	英語学概論 3	担当者名	清 水 由理子
-------	---------	------	---------

講義の目標	<p>高校までは、コミュニケーションの道具としての英語を身につけようとして学んできたと思うが、ここでは英語自体を研究対象とする視点に立って学ぶ。まず、英語という言葉が、どのような視点から研究されてきたか、また、現在されているのか、その研究成果を知ることにより、英語という言葉に対する理解を深める。また、英語のみならず、私たちが毎日使っている「ことば」に対して関心を向け、「ことば」に対する感覚を磨いてもらいたい。</p> <p>さらに、「言語について学ぶ」ということはどのようなことを含んでいるのか紹介するので、専門のコースを選択する際に役立ててほしい。</p>		
講義概要	<p>数ある言語の 1 つである英語とは、どのような特徴を持った「ことば」であるのかを学ぶ。まず現代の英語の音・語彙・文構造及び意味の仕組みについて講義し、次に、歴史的な視点から現代英語の成り立ちとその特徴を紹介する。</p> <p>具体的なテーマについては、授業計画表を参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	石黒昭博他著『現代の英語学』 金星堂	
	参考文献	参考文献は、テキスト巻末の参考文献を活用するようにし、テーマごとに紹介する。また、必要に応じてそれ以外の文献を紹介する。	
評価方法	前期・後期の定期試験および Take-Home Quiz（不定期）により評価を出す。		
受講者に対する要望など	必ず前もってテキストの関連した章を読んだ上で、講義に出席すること。		
年 間 授 業 計 画	[前期]		
	1 . 英語学とは、どのようなことを研究する分野か。(テキスト第 1 章参照)		
	2 . 人間のことばの特徴		
	3 . 英語の音構造	音声学 (1) 音声学について	
		英語音の特徴	(第 3 章の 1)
	4 .	音声学 (2) 英語音の特徴	(")
	5 .	音韻論 (1) 音素について	(第 3 章の 2)
	6 .	音韻論 (2) 超文節音素について	(")
	7 . 英語の語構造	形態論 (1) 形態素について	(第 4 章の 1)
	8 .	形態論 (2) 語の形成	(第 4 章の 2)
	9 . 英語の文構造	統語論 (1) 科学的伝統文法での考え方	(第 5 章の 1)
	10 .	統語論 (2) 構造主義文法での考え方	(第 5 章の 2)
	11 .	統語論 (3) 生成文法での考え方	(第 6 章)
	12 .	統語論 (4) 文法と意味	(第 7 章)
	[後期]		
	13 . 英語の意味構造	意味論 (1) 意味とは何か。語の意味	(第 8 章の 1 と 2)
	14 .	意味論 (2) 文の意味	(第 8 章の 3)
	15 .	語用論 発話と談話	(第 8 章の 4)
	16 . 英語の歴史	(1) プリテン島の歴史と言語	(第 9 章の 1 と 2)
	17 .	(2) 古期英語の文字と発音	(")
	18 .	(3) 古期英語の語彙と文法	(")
	19 .	(4) 中期英語の時代的背景	(第 9 章の 3)
	20 .	(5) 中期英語の綴りと発音	(")
	21 .	(6) 中期英語の語彙と文法	(")
22 .	(7) 近代英語の特徴	(第 10 章)	
23 .	(8) アメリカ英語の特徴	(第 11 章)	
24 .	まとめ		

科 目 名	英語学概論 4	担当者名	長谷川 欣 佑
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	英語の多様な言語事象の分析を通して言語研究の面白さを伝えたい。具体的にはデータに基づいて仮説を立て、それをより広汎なデータに照らして検証していくなかで、文法構造の規則性や一般的原理を発見していく統語分析の方法に重点を置いて述べる。この興味ある発見の過程と、着実な論証の仕方を理解することは、英語の学習に役立つだけでなく、ことば（更には自然、社会）の問題を自分の頭で考え、自主的に判断する能力を養う上でも役に立つと思う。		
講 義 概 要	人間の言語使用は「創造的」（いくらでも新しい文を創りそれを理解することができる）であり、そのために思考・感情の自由な表現が可能になる。これを可能にしている「ことばの仕組」を明らかにすることを目標とする（生成）文法理論の基本的な考え方と方法を概説し、それに基づいて英語の主要な統語現象の背後にあるさまざまな規則性を明らかにする。		
使 用 教 材	テキスト	特に指定しないが下記の参考書（のいずれか）を読んでおくことが望ましい。講義の主要な内容はプリントして配布する。	
	参考文献	Akmajian - Heny (1975), An Introduction to the Principles of Transformational Syntax (MIT Press) ; Akamajian - Demers - Farmer - Harnish (1995), Linguistics (MIT Press) ; L . Haegeman (1994 ²), Introduction to Government and Binding Theory (Blackwell) ; 西光（編）「英語学概論」（くろしお出版）	
評 価 方 法	前・後期一回づつのテストと授業への参加度		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	連続した体系をなすので毎回出席すること。		

1～3．前期は「序論」と「第Ⅰ部：文の組み立て方についての一般原理」について述べる。

まず序論として人間の言語の基本的性質である、言語使用の創造性をデータに基いて例証し、文法研究の目標を設定する。ここで英語の代名詞や再帰代名詞の用法について簡単な原則を提示する。

4・5．「文の組み立て方」に関する第1の原理としての「句構造規則」の必要性とその説明。文法上の単位（文法カテゴリー）を立てる根拠について「動詞句」などを例にとり、やや詳しく解説。

6～11．「文の組み立て方」に関する第2の原理としての「変形」の概念を導入。典型的な例に基いてこの仕組の必要性をわかりやすく解説。さらに英語のいくつかの構文を取り挙げ、それらの説明のために変形が必要であることを示し、同時にこれらの構文自体の構文分析によって文法解析の方法を理解してもらう。取り挙げる事象は、wh-句移動変形、外置変形（以上6-7週）、Tough 構文移動変形（8週）、繰り上げ変形（Raising）（9週）、助動詞成分の分析（10-11週）など。（10-11週）では音韻論・形態論の基礎にも触れる。

12．試験

13．後期「第2部：英語統語構造の概要」前期の講義に立脚し、主要な文法単位（カテゴリー）の内部構造と、それらに関連する構文分析の典型例について述べる。

14・15．「動詞句」の内部構造。補語（Complement）と副詞的要素（Adjunct）の区別の根拠・重要性について do so テストなどを用いて解説。

16～18．「動詞＋小辞」、「動詞＋前置詞」などの複合動詞の分析。小辞（Particle）移動変形、間接目的語・直接目的語構文の構造と意味。VNP to VP 形の構造分析、表層フィルターの必要性など。

19・20．受動構文の分析。文法分析の一典型例として、古典的分析から比較的妥当な分析へ至る過程をデータに基いて解説し、受動文の構造と意味を明らかにする。

21．名詞句の内部構造

22・23．Wh-句移動変形などへの「一般的制約」

24．試験

科 目 名	英米文学概論 1	担当者名	(前期) 島田 啓一 (後期) 藤田 永澗
-------	----------	------	--------------------------

前 期

講義の目標	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品に出来るだけ直接触れる（小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。		
講義概要	米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム（文化多元主義）に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって講義を進める予定。		
使用教材	テキスト	板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）	
	参考文献	福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』＜増補版＞（中京出版、1985）	
評価方法	中間試験と定期試験 90%、不定期に課す課題 10%の予定。		
受講者に対する要望など	島田ゼミホームページ内に「英米文学概論」のページ (http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit.htm) を作成しましたので参照して下さい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ文学概説（授業のやり方、注意事項などの説明を含む）：必ず出席すること。 2. Multiculturalism (1) : 概説。Multiculturalism の背景 <以下、() 内は授業で読む予定の作品名> 3. Multiculturalism (2) : African American Writers と Jewish Writers (Bernard Malamud, "The First Seven Years") 4. Multiculturalism (3) : Jewish Writers ("The First Seven Years") [中間試験 1] 5. Modernism (1) : Post Modernism と Modernism の作家たち : John Barth, Thomas Pynchon, Anderson, Hemingway, Fitzgerald, etc. 6. Modernism (2) : William Faulkner と Yoknapatawpha County ("That Evening Sun") 7. Modernism (3) : William Faulkner と Yoknapatawpha County (<i>The Sound and the Fury</i>) [中間試験 2] 8. Realism (1) : Mark Twain, William Dean Howells, Henry James, Stephen Crane, Frank Norris, Theodore Dreiser 9. Realism (2) : "gender/class/race" – Mark Twain の場合 (<i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>) 10. American Renaissance (1) : Emerson, Thoreau, E.A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson, etc. (詩を数編) 11. American Renaissance (2) : Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc 12. 創世記のアメリカ文学 : Benjamin Franklin, Charles Brockden Brown, Washington Irving, James Fenimore Cooper, etc. 		

後 期

講義の目標	文学は時代時代の精神風土から養分を得て生みだされるもの。したがって、時代の経済や文化一般などと緊密につながっています。抽象性をおびた知識としてではなく、生きたものとしてイギリス文学を捉えていくこと、それが目的です。	
講義概要	テキストは十八世紀のイギリスの主要な小説家たちと小説が勃興した原因の解明に焦点をあてて、ホーマーからジェイズ・ジョイスに至るまで視野におさめ、また、経済や哲学や思想とからめて文学を生き生きと捉えたもの。ペイオウルフの昔から20世紀に至るイギリス文学の概観は具体的に作家や作品を例にとり考察し、解説する。	
使用教材	テキスト	『小説の勃興』イアン・ワット著、藤田永祐訳（南雲堂，1999）
	参考文献	授業中に必要に応じ紹介する。
評価方法	期末各1回の試験と授業中の課題で決める。	
受講者に対する要望など		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス文学の解説、リアリズムと小説形式（その1） 2. リアリズムと小説形式（その2） 3. アングロ・サクソン時代の文学 4. シェークスピアについて 5. シェークスピアについて 6. 読者層と小説の勃興 7. 『ロビンソン・クルーソー』個人主義と小説（その1） 8. 『ロビンソン・クルーソー』個人主義と小説（その2） 9. 私的経験と小説 10. ジェイン・オースティン——写実文学の最高峰 11. ヴィクトリア朝文学——ディケンズ・サッカレー 12. 20世紀文学 	

科 目 名	英米文学概論 2	担当者名	(前期)白鳥 正孝 (後期)原 成吉
-------	----------	------	-----------------------

前 期

講義の目標	本講義は、イギリスの文学を概観することによって、英語そのものの持つ精髓（エッセンス）を学ぶことを目的とする。		
講義概要	講義のあらましを、先ず 3 つの主要テーマに分ける。それは 1. ルネッサンス 2. 近代とは何か 3. 英文学の学び方である。 上記テーマに沿って、それを代表する作家・作品によって講ずる。		
使用教材	テキスト	プリント（随時）	
	参考文献	その都度、教室にて示す。	
評価方法	期末レポート（4000 字程度）と平常のマナーによる。		
受講者に対する要望など	提示されている作品群の幾つかを事前に読んでおいてもらいたい。		
年間授業計画	<ul style="list-style-type: none"> . ルネッサンス (Early Modern Literature) <ul style="list-style-type: none"> A. チョーサー (Geoffrey Chaucer, C. 1340 - 1400) 『カンダベリ物語』 他 B. シェークスピア (William Shakespeare, 1564 - 1616) 『ハムレット』 他 C. ミルトン (John Milton, 1608 - 1674) 『失楽園』 他 . 近代とは何か (Versions of Modernity) <ul style="list-style-type: none"> A. 小説 <ul style="list-style-type: none"> a. 小説の勃興 リチャードソン (Samuel Richardson, 1689 - 1761) b. エミリー・ブロンテ (Emily Brontë, 1818 - 48) 『嵐ヶ丘』 他 c. デイケンズ (Charles Dickens, 1812 - 70) 『二都物語』 他 バーディ (Thomas Hardy, 1840 - 1928) 『テス』 他 B. 詩 <ul style="list-style-type: none"> a. ロマン派 ワーズワス (William Wordsworth, 1770 - 1928) 他 b. ヴィクトリア朝 テニスン (Alfred Tennyson 1809 - 1850) 他 c. 現代 エリオット (Thomas S. Eliot, 1888 - 1965) 『荒地』 他 . 方法 (Approaches to Text) <ul style="list-style-type: none"> A. ニュークリティシズム B. ポストモダン C. フェミニズム 		

後 期

講義の目標	アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題をテーマごとに論じながら、アメリカ文学の魅力伝える。	
講義概要	このクラスでは、現在アメリカが抱えているさまざまな問題 (Native American, Feminism, Multiculturalism... etc.) を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそしていま」の視点からアメリカの (異) 文化を紹介する。	
使用教材	テキスト	板橋好枝 / 高田賢一 編著 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 ミネルヴァ書房
	参考文献	各テーマごとに紹介する。
評価方法	前期・後期の定期試験と授業中の課題で決める。	
受講者に対する要望など	教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> 『ハックルベリー・フィンの冒険』 (講談社文庫) と Jack Kerouac, <i>On the Road</i> 『路上』 (河出文庫) を読んでおくことが望ましい。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ文学の特徴について (序論) 2. ネイティブ・アメリカンの文学 3. 土地が作る文学 4. デモクラシーと文学 5. 戦争と文学 6. マルチ・カルチャリズムと文学 (1) 7. マルチ・カルチャリズムと文学 (2) 8. マルチ・カルチャリズムと文学 (3) 9. カウンター・カルチャと文学 10. フェミニズムと文学 11. 現代詩を読む 12. 作品研究の方法 	

科 目 名	英米文学概論 3	担当者名	(前期)原 成吉 (後期)白鳥 正彦
-------	----------	------	-----------------------

前 期

講義の目標	アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題をテーマに論じながら、アメリカ文学の魅力を伝える。		
講義概要	このクラスでは、現在アメリカが抱えているさまざまな問題(Native American, Feminism, Multiculturalism... etc.)を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそしていま」の視点からアメリカの(異)文化を紹介する。		
使用教材	テキスト	板橋好枝 / 高田賢一 編著 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 ミネルヴァ書房	
	参考文献	各テーマごとに紹介する。	
評価方法	前期・後期の定期試験と授業中の課題で決める。		
受講者に対する要望など	教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> 『ハックルベリー・フィンの冒険』(講談社文庫)と Jack Kerouac, <i>On the Road</i> 『路上』(河出文庫)を読んでおくことが望ましい。		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ文学の特徴について(序論) 2. ネイティブ・アメリカンの文学 3. 土地が作る文学 4. デモクラシーと文学 5. 戦争と文学 6. マルチ・カルチャリズムと文学(1) 7. マルチ・カルチャリズムと文学(2) 8. マルチ・カルチャリズムと文学(3) 9. カウンター・カルチャと文学 10. フェミニズムと文学 11. 現代詩を読む 12. 作品研究の方法 		

後 期

講義の目標	本講義は、イギリスの文学を概観することによって、英語そのものの持つ精髓（エッセンス）を学ぶことを目的とする。	
講義概要	講義のあらましを、先ず 3 つの主要テーマに分ける。それは 1. ルネッサンス 2. 近代とは何か 3. 英文学の学び方である。 上記テーマに沿って、それを代表する作家・作品によって講ずる。	
使用教材	テキスト	プリント（随時）
	参考文献	その都度、教室にて示す。
評価方法	期末レポート（4000 字程度）と平常のマナーによる。	
受講者に対する要望など	提示されている作品群の幾つかを事前に読んでおいてもらいたい。	
年間授業計画	<ul style="list-style-type: none"> . ルネッサンス（Early Modern Literature） <ul style="list-style-type: none"> A. チョーサー（Geoffrey Chaucer, C. 1340 - 1400）『カンダベリ物語』他 B. シェイクスピア（William Shakespeare, 1564 - 1616）『ハムレット』他 C. ミルトン（John Milton, 1608 - 1674）『失楽園』他 . 近代とは何か（Versions of Modernity） <ul style="list-style-type: none"> A. 小説 <ul style="list-style-type: none"> a. 小説の勃興 リチャードソン（Samuel Richardson, 1689 - 1761） b. エミリー・ブロンテ（Emily Brontë, 1818 - 48）『嵐ヶ丘』他 c. デイケンズ（Charles Dickens, 1812 - 70）『二都物語』他 バーディ（Thomas Hardy, 1840 - 1928）『テス』他 B. 詩 <ul style="list-style-type: none"> a. ロマン派 ワーズワス（William Wordsworth, 1770 - 1928）他 b. ヴィクトリア朝 テニスン（Alfred Tennyson 1809 - 1850）他 c. 現代 エリオット（Thomas S. Eliot, 1888 - 1965）『荒地』他 . 方法（Approaches to Text） <ul style="list-style-type: none"> A. ニュークリティシズム B. ポストモダン C. フェミニズム 	

科 目 名	英米文学概論 4	担当者名	(前期) 藤田 永澗 (後期) 島田 啓一
-------	----------	------	--------------------------

前 期

講義の目標	文学は時代時代の精神風土から養分を得て生みだされるものです。したがって、時代の経済や文化一般などと緊密につながっています。抽象性をおびた知識としてではなく、生きたものとしてイギリス文学を捉えていくこと、それが目的です。		
講義概要	テキストは十八世紀のイギリスの主要な小説家たちと小説が勃興した原因の解明に焦点をあてて、ホーマーからジェイムズ・ジョイスに至るまで視野におさめ、又、経済や哲学や思想とからめて文学を生き生きと捉えたもの。ペイオウルフの昔から20世紀に至るイギリス文学の概観は具体的に作家や作品を例にとり考察し解説する。		
使用教材	テキスト	『小説の勃興』イアン・ワット著 藤田永祐訳(南雲堂・1999)	
	参考文献	授業中に必要に応じ紹介する	
評価方法	期末各1回の試験と授業中の課題で決める		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス文学の解説とリアリズムと小説形式(その1) 2. リアリズムと小説形式(その2) 3. アングロ・サクソン時代の文学 4. シェークスピアについて 5. シェークスピアについて 6. 読書層と小説の勃興 7. 『ロビンソン・クルーソー』個人主義と小説(その1) 8. 『ロビンソン・クルーソー』個人主義と小説(その2) 9. 私的経験と小説 10. ジェイン・オースティン——写実文学の最高峰 11. ヴィクトリア朝文学——ディケンズ・サッカレー 12. 20世紀文学 		

後 期

講義の目標	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。				
講義概要	米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム（文化多元主義）に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="271 614 312 730">テキスト</td> <td data-bbox="312 614 1233 730">板橋好枝・高田健一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="271 730 312 846">参考文献</td> <td data-bbox="312 730 1233 846">福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』＜増補版＞（中京出版、1985）</td> </tr> </table>	テキスト	板橋好枝・高田健一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）	参考文献	福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』＜増補版＞（中京出版、1985）
テキスト	板橋好枝・高田健一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）				
参考文献	福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』＜増補版＞（中京出版、1985）				
評価方法	中間試験と定期試験 90%、不定期に課す課題 10%の予定。				
受講者に対する要望など	島田ゼミホームページ内に「英米文学概論」のページ（ http://www2.dokkyo.ac.jp/~semi006/others/amlit.htm ）を作成しましたので参照して下さい。				
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ文学概説（授業のやり方、注意事項などの説明を含む）：必ず出席すること。 2. Multiculturalism（1）：概説。Multiculturalism の背景 <以下、（ ）内は授業で読む予定の作品名> 3. Multiculturalism（2）：African American Writers と Jewish Writers（Bernard Malamud, “The First Seven Years”） 4. Multiculturalism（3）：Jewish Writers（“The First Seven Years”）〔中間試験1〕 5. Modernism（1）：Post Modernism と Modernism の作家たち：John Barth, Thomas Pynchon, Anderson, Hemingway, Fitzgerald, etc. 6. Modernism（2）：William Faulkner と Yoknapatawpha County（“That Evening Sun”） 7. Modernism（3）：William Faulkner と Yoknapatawpha County（<i>The Sound and the Fury</i>）〔中間試験2〕 8. Realism（1）：Mark Twain, William Dean Howells, Henry James, Stephen Crane, Frank Norris, Theodore Dreiser 9. Realism（2）：“gender/class/race” – Mark Twain の場合（<i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>） 10. American Renaissance（1）：Emerson, Thoreau, E.A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson, etc.（詩を数編） 11. American Renaissance（2）：Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc. 12. 創世記のアメリカ文学：Benjamin Franklin, Charles Brockden Brown, Washington Irving, James Fenimore Cooper, etc. 				

科 目 名	国際コミュニケーション概論 1	担当者名	(前期)板場 良久 (後期)永野 隆行
-------	-----------------	------	------------------------

前 期

講義の目標	コミュニケーションとは単なる情報や感情、意見の伝達ではありません。人間の存在の根源と深く結びついた複雑な現象です。このクラスでは、社会における複雑なコミュニケーションの諸現象を多角的に考察することができ、それに基づいて、賢慮ある判断のできるコミュニケーターになることを目指します。学問的には、今世紀の初頭から始まったコミュニケーション学における諸々の理論を学びながら、言語学や言語教育あるいは文学研究との本質的相違点や接点などを理解することを目指します。		
講義概要	これまで提唱されてきたコミュニケーションの見方や考え方を理解し、同時にその限界や問題点も浮き彫りにし、今後どのようにコミュニケーションを考えるべきかというテーマを探っていきます。なお、各回の講義の要約をその次の講義の冒頭に英語で行ない、英語での講義に少しずつ慣れていただくようにします。		
使用教材	テキスト	プリント配布予定。	
	参考文献	橋本満弘、石井敏編著『コミュニケーション論入門』第1巻(桐原書店)、石井敏他編『異文化コミュニケーション・ハンドブック』(有斐閣)、岸田秀『ものぐさ精神分析』(中公文庫)	
評価方法	小テスト(不定期・予告なしで学期中に5回) 100%		
受講者に対する要望など	この講義で取り上げる問題を、単なる知識としてではなく、自分と深く関係のある問題として捉えるようにしてください。なお、真面目な受講生の妨げとなる、授業内容と無関係の私語は厳しく取り締まります。また、講義内容に関係のある質問は積極的にするようにしてください。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. この講義の概要と受講上の諸注意。コミュニケーション研究の特徴(他の学問分野との比較) 2. コミュニケーションの見方(1)~伝統的なコミュニケーション・モデルと種類~ 3. コミュニケーションの見方(2)~「機械」としてのコミュニケーター~ 4. コミュニケーションの見方(3)~「演技」としてのコミュニケーション~ 5. コミュニケーションの見方(4)~コミュニケーション教育と言語教育との相違点~ 6. コミュニケーションの見方(5)~コミュニケーション研究と文化研究との接点~ 7. コミュニケーションの見方(6)~ステレオタイプ、偏見からの脱却~ 8. コミュニケーションを思索する(1)~コミュニケーション理論の種類と混同の問題~ 9. コミュニケーションを思索する(2)~コミュニケーションと本能, 言語, 文化, 歴史との関係について~ 10. コミュニケーションを思索する(3)~21世紀の日本人とコミュニケーション~ (さらに詳しい授業計画を初回の講義で配布します。) 		

後 期

<p>講 義 の 目 標</p>	<p>冷戦現代の国際関係の特徴を明らかにし、それを現代の複雑な国際関係を理解する一助とする。以上のテーマを通じて、そもそも国際関係研究（study of international relations）とはどのような学問なのかを、この半年間の講義を通じて理解してもらいたい。他の社会科学と同様に、国際関係についても十人十色の解釈や理解が可能である。担当教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p>				
<p>講 義 概 要</p>	<p>冷戦期の国際関係の特徴を学ぶと聞いて、「今さら冷戦の歴史なんて勉強してどうする」という学生諸君からの陰口が聞こえそうであるが、冷戦が終焉した今こそ、第二次世界大戦後まもなく始まり、50年近く続いた「冷戦」とはいったい何であったのかを、あらためて考える絶好の機会であると考え。混沌とした現代の国際関係はまぎれもなく冷戦期の国際政治の産物であり、冷戦期の国際関係を理解せずして、現代世界の理解はできず、しかも将来像も浮き上がってこないだろう。授業では細かい事象にあまりこだわらず、冷戦時代という一時代の全体像を把握することにつとめたい。</p> <p>下記に示す「年間授業計画」にそって授業を進める。ただし学生諸君の反応を見て、予定を変更する場合がある。時に応じて、ビデオ教材などを利用する。毎回の講義の冒頭では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設ける。</p>				
<p>使 用 教 材</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="271 1008 312 1112"> <p>テキスト</p> </td> <td data-bbox="312 1008 1233 1112"> <p>田中明彦『新しい「中世」』日本経済新聞社、1997年。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="271 1112 312 1418"> <p>参 考 文 献</p> </td> <td data-bbox="312 1112 1233 1418"> <p>有賀貞ほか編著『講座国際政治』全5巻、東京大学出版会、1989年。 岡部達味『国際政治の分析枠組』東京大学出版会、1992年。 高坂正堯『国際政治 恐怖と希望』中公新書、1996年。 蛸山道雄編著『激動期の国際政治を読み解く本』学陽書房、1992年。 講義第一回に詳しい参考文献リストを配布する予定。</p> </td> </tr> </table>	<p>テキスト</p>	<p>田中明彦『新しい「中世」』日本経済新聞社、1997年。</p>	<p>参 考 文 献</p>	<p>有賀貞ほか編著『講座国際政治』全5巻、東京大学出版会、1989年。 岡部達味『国際政治の分析枠組』東京大学出版会、1992年。 高坂正堯『国際政治 恐怖と希望』中公新書、1996年。 蛸山道雄編著『激動期の国際政治を読み解く本』学陽書房、1992年。 講義第一回に詳しい参考文献リストを配布する予定。</p>
<p>テキスト</p>	<p>田中明彦『新しい「中世」』日本経済新聞社、1997年。</p>				
<p>参 考 文 献</p>	<p>有賀貞ほか編著『講座国際政治』全5巻、東京大学出版会、1989年。 岡部達味『国際政治の分析枠組』東京大学出版会、1992年。 高坂正堯『国際政治 恐怖と希望』中公新書、1996年。 蛸山道雄編著『激動期の国際政治を読み解く本』学陽書房、1992年。 講義第一回に詳しい参考文献リストを配布する予定。</p>				
<p>評 価 方 法</p>	<p>学期中のブックレポート、ならびに学期末のレポートによる評価。</p>				
<p>受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど</p>	<p>他の学生の迷惑となるので、私語は厳禁。場合によっては登録を抹消する権利を教員は持つ。</p>				

1. 導入 / 国際関係論とは何か ~ 国際社会の諸現象を見る時の視点としての国際政治
2. 国際関係論とは何か ~ 国際社会の誕生とその特質、国内社会との違い
3. 現代国際関係の問題点 ~ ビデオ上映
4. 冷戦の起源について ~ 戦後出発点としてのヤルタ会議、マーシャルプランとトリーマンドク
トリン
5. 冷戦の起源について ~ 冷戦対立の理論的考察、国際政治における3つの見方
6. 冷戦と核兵器 ~ 核時代の国際関係
7. 冷戦と核兵器 ~ 軍備管理・軍縮
8. 冷戦の第二、第三の戦場 ~ 戦後欧州の安全保障、イデオロギー対立 / 国際政治における覇権の
役割 ~ パックスアメリカナの時代
9. 覇権とは(続き) / 相互依存の深化する世界 ~ 国際関係の質的な変容
10. 相互依存の深化する世界 ~ 脆弱性相互依存と国際政治における力
11. 冷戦後の世界を考える ~ 頻発する地域紛争と人間の安全保障
12. 総括 / 国際関係論をこれから学ぶには、質疑応答

科 目 名	国際コミュニケーション概論 2	担当者名	(前期)永野 隆行 (後期)板場 良久
-------	-----------------	------	------------------------

前 期

講 義 の 目 標	<p>冷戦時代の国際関係の特徴を明らかにし、それを現代の複雑な国際関係を理解する一助とする。以上のテーマを通じて、そもそも国際関係研究 (study of international relations) とはどのような学問なのかを、この半年間の講義を通じて理解してもらいたい。他の社会科学と同様に、国際関係についても十人十色の解釈や理解が可能である。担当教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p>		
講 義 概 要	<p>冷戦期の国際関係の特徴を学ぶと聞いて、「今さら冷戦の歴史なんて勉強してどうする」という学生諸君からの陰口が聞こえそうであるが、冷戦が終焉した今こそ、第二次世界大戦後まもなく始まり、50年近く続いた「冷戦」とはいったい何であったのかを、あらためて考える絶好の機会であると考え。混沌とした現代の国際関係はまぎれもなく冷戦期の国際政治の産物であり、冷戦期の国際関係を理解せずして、現代世界の理解はできず、しかも将来像も浮き上がってこないだろう。授業では細かい事象にあまりこだわらず、冷戦時代という一時代の全体像を把握することにつとめたい。</p> <p>下記に示す「年間授業計画」にそって授業を進める。ただし学生諸君の反応を見て、予定を変更する場合がある。時に応じて、ビデオ教材などを利用する。毎回の講義の冒頭では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設ける。</p>		
使 用 教 材	テキスト	田中明彦『新しい「中世」』日本経済新聞社、1997年。	
	参 考 文 献	<p>有賀貞ほか編著『講座国際政治』全5巻、東京大学出版会、1989年。 岡部達味『国際政治の分析枠組』東京大学出版会、1992年。 高坂正堯『国際政治 恐怖と希望』中公新書、1996年。 蛸山道雄編著『激動期の国際政治を読み解く本』学陽書房、1992年。 講義第一回に詳しい参考文献リストを配布する予定。</p>	
評 価 方 法	<p>学期中のブックレポート、ならびに学期末のレポートによる評価。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>他の学生の迷惑となるので、私語は厳禁。場合によっては登録を抹消する権利を教員は持つ。</p>		

1. 導入 / 国際関係論とは何か ~ 国際社会の諸現象を見る時の視点としての国際政治
2. 国際関係論とは何か ~ 国際社会の誕生とその特質、国内社会との違い
3. 現代国際関係の問題点 ~ ビデオ上映
4. 冷戦の起源について ~ 戦後出発点としてのヤルタ会議、マーシャルプランとトリーマンドクトリン
5. 冷戦の起源について ~ 冷戦対立の理論的考察、国際政治における3つの見方
6. 冷戦と核兵器 ~ 核時代の国際関係
7. 冷戦と核兵器 ~ 軍備管理・軍縮
8. 冷戦の第二、第三の戦場 ~ 戦後欧州の安全保障、イデオロギー対立 / 国際政治における覇権の役割 ~ パックスアメリカナの時代
9. 覇権とは(続き) / 相互依存の深化する世界 ~ 国際関係の質的な変容
10. 相互依存の深化する世界 ~ 脆弱性相互依存と国際政治における力
11. 冷戦後の世界を考える ~ 頻発する地域紛争と人間の安全保障
12. 総括 / 国際関係論をこれから学ぶには、質疑応答

後 期

<p>講 義 の 目 標</p>	<p>コミュニケーションとは単なる情報や感情、意見の伝達ではありません。人間の存在の根源と深く結びついた複雑な現象です。このクラスでは、社会における複雑なコミュニケーションの諸現象を多角的に考察することができ、それに基づいて、賢慮ある判断のできるコミュニケーターになることを目指します。学問的には、今世紀の初頭から始まったコミュニケーション学における諸々の理論を学びながら、言語学や言語教育あるいは文学研究との本質的相違点や接点などを理解することを目指します。</p>	
<p>講 義 概 要</p>	<p>これまで提唱されてきたコミュニケーションの見方や考え方を理解し、同時にその限界や問題点も浮き彫りにし、今後どのようにコミュニケーションを考えるべきかというテーマを探っていきます。なお、各回の講義の要約をその次の講義の冒頭に英語で行ない、英語での講義に少しづつ慣れていただくようにします。</p>	
<p>使 用 教 材</p>	<p>テキスト</p>	<p>プリント配布予定。</p>
<p>参 考 文 献</p>	<p>橋本満弘、石井敏編著『コミュニケーション論入門』第1巻（桐原書店）石井敏他編『異文化コミュニケーション・ハンドブック』（有斐閣）岸田秀『ものぐさ精神分析』（中公文庫）</p>	
<p>評 価 方 法</p>	<p>小テスト（不定期・予告なしで学期中に5回） 100%</p>	
<p>受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど</p>	<p>この講義で取り上げる問題を、単なる知識としてではなく、自分と深く関係のある問題として捉えるようにしてください。なお、真面目な受講生の妨げとなる、授業内容と無関係の私語は厳しく取り締まります。また、講義内容に関係のある質問は積極的にするようにしてください。</p>	

1. この講義の概要と受講上の諸注意。コミュニケーション研究の特徴（他の学問分野との比較）
 2. コミュニケーションの見方（1）～伝統的なコミュニケーション・モデルと種類～
 3. コミュニケーションの見方（2）～「機械」としてのコミュニケーター～
 4. コミュニケーションの見方（3）～「演技」としてのコミュニケーション～
 5. コミュニケーションの見方（4）～コミュニケーション教育と言語教育との相違点～
 6. コミュニケーションの見方（5）～コミュニケーション研究と文化研究との接点～
 7. コミュニケーションの見方（6）～ステレオタイプ、偏見からの脱却～
 8. コミュニケーションを思索する（1）～コミュニケーション理論の種類と混同の問題～
 9. コミュニケーションを思索する（2）～コミュニケーションと本能，言語，文化，歴史との関係について～
 10. コミュニケーションを思索する（3）～21世紀の日本人とコミュニケーション～
- （さらに詳しい授業計画を初回の講義で配布します。）

科 目 名	英語音声学 1,2	担当者名	大 竹 孝 司
-------	-----------	------	---------

半 期 完 結

講義の目標	本講義は、アメリカ英語の音声の基礎的な知識を得ることを目的とする。英語音声の生成（発音）と知覚（リスニング）の両側面を扱うことで音声の全体が理解できるようにする。		
講義概要	音声学は、他の講義科目と異なり、本に書かれたことを理解するだけでは十分でない。自分で実際に発音できるようになるためには練習が不可欠である。本講義では、英語音声に関する基礎知識を学ぶことが中心となるので、授業外で多くの英語を聞く作業を課したい。なお、外国語の音声を理解することは音声をどのように認識するかという問題と密接な関係があるので、様々な音声の実験を通して理解を深めてもらう予定である。		
使用教材	テキスト	R.M. Dauer "Accurate English : A Complete Course in Pronunciation"	
	参考文献	授業時に指示する。	
評価方法	試験、課題、実験の三つで総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	ラジオなどで英語音声を常に耳にできるようにして欲しい。発音やリスニングの上達法はとにかく時間を費やすこと。		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要の説明。 2. 音声言語と文字言語の違い、発音記号と音について学ぶ。 3. 調音器官の説明。 4. 英語の母音（英語の母音の分類） 5. 英語の母音（英語の母音の実際の発音と知覚） 6. 英語の子音（英語の子音の分類） 7. 英語の子音（英語の子音の実際の発音と知覚） 8. 英語の音節構造の特徴 9. 英語のアクセントの構造と実際の発音と知覚 10. 英語のリズムの構造と実際の発音と知覚 11. 英語のリズムの構造と実際の発音と知覚 12. 日本人の英語学習の問題点 		

科 目 名	英語音声学 3,4,5	担当者名	大 西 雅 行
-------	-------------	------	---------

半 期 完 結

講義の目標	英語に現れる一般的な音声現象、英語の特徴的な音声変化、音声の規則性を解説し、英語を聞く、話す能力の向上に役立て、更に、言語研究やその応用研究の基礎とする。		
講義概要	音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類、英語音の各論、日英米音の差異、英語の韻律特徴など通常の発話に必要な現象を講義する。映像（LD, PC, OHP, ビデオ）と音声（オーディオテープ）を利用し、理論と実際音との両面から習得しやすく授業を進める。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	試験による。		
受講者に対する要望など			
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の標準語と標準音（アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアの英語の比較） 2. 発音器官の部位と機能 3. 音声の表記法（音声表記と音韻表記。精密表記と簡易表記） 4. 母音の定義と分類法 5. 英語の単母音（日本語の母音との比較。アメリカ英語とイギリス英語の母音比較） 6. 英語の二重母音、三重母音 7. 英語の子音分類法 8. 破裂音、破擦音、半母音 9. 鼻音、側音、摩擦音、半母音 10. 連続音中の音変化 11. 強勢、リズム 12. イントネーション、プロミネンス 		

科 目 名	スピーチ・クリニック 1,2,4,5	担当者名	浅 岡 千利世
-------	--------------------	------	---------

半 期 完 結

講 義 の 目 標	英語の音を聞き取り、発音できるようにする。また後々自分で辞書を使って発音記号から正確な発音ができるようになる。		
講 義 概 要	実際に音を聞き、聞き取り、自分でも正確に発音できるような訓練を行う。前半は単語レベル、徐々にセンテンスレベル、パラグラフレベルの発音を練習する。実際の会話の流れの中での発音の重要性を学ぶ。		
使 用 教 材	テキスト	授業開始時に案内。	
	参考文献	授業開始時に案内。	
評価方法	出席、小テスト、宿題、授業参加態度などを総合して評価する。		
受講者に対する要望など	英英辞書を持参すること。		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . pronunciation in communication 2 . reading phonetic symbols 3 . consonants 4 . vowels 5 . word stress 6 . reduction 7 . linking 8 . ellipsis and assimilation 9 . sentence stress and rhythm 10 . contrastive stress 11 . thought groups: pause and pitch 12 . wrap-up 		

科 目 名	スピーチ・クリニック 3	担当者名	大 西 雅 行
-------	--------------	------	---------

半 期 完 結

講義の目標	英語の発音が身につくように徹底的な発音矯正と発音訓練を行う。		
講義概要	クラスは小人数で構成し、LL教室の視聴覚機器を使い、音声の聴取や映像母語話者の発音口形を観察・確認し、しかし、機器使用はあくまで補助的で、各自の発音矯正と英語発音の訓練を主とする。毎週ディクテーションの宿題を課し、タイプで清書し、提出する。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	試験と平常点（発音の上達と、宿題状況）		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腹式呼吸と英語の韻律法 2. 有声破裂音と無声破裂音 3. 唇歯音と歯音 4. 歯茎摩擦音 5. [l] と [r] 6. 日本語の「ア」と英語の 5 母音 7. 閉母音、半閉母音とストレス 8. 半開母音、開母音とストレス 9. リズム 10. リズム 11. イントネーション 12. イントネーション 		

科 目 名	スピーチ・クリニック 6,7 (2年生以上)	担当者名	清 水 由 里 子
-------	------------------------	------	-----------

半 期 完 結

講義の目標	<p>2年生以上で教職を目指す人が対象となる授業である。 英語の発音矯正を主な目的とする。発音矯正といっても、まず耳で音などを聞き分けられなければならないので、特に日本人が苦手な音の聞き取りを含めて発音の仕方を訓練する。 将来、英語教員になる人のためのコースであるので、英語の発音に関することを教室で教える際にも役立つようにする。</p>		
講義概要	<p>英語音の単音からはじまり、音のつながり、リズム、抑揚について学ぶ。英語の発音の仕方の要点を把握し、それを実践出来るようにテープ等を使いながら練習する。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>New Approach to English Pronunciation</i> (愛育社)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>日常点 (毎時間行う Achievement Test の結果と出席状況) および定期試験 (Listening と Speaking) の結果による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>英語音声学を既習していることが望まれる。少なくとも発音記号は読めることが必要である。前期・後期各20名の定員制である。毎回の練習の積み上げが必要なので、欠席をしないように。また、60分テープ1本を必ず毎回持参すること。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction and Pre-Test, Lesson 1: Stress 2 . Lessons 2-3: Stops (1) and (2) 3 . Lessons 4-5: Stops (3) and Fricatives (1) 4 . Lessons 6-7: Fricatives (2) and (3) 5 . Lessons 8-9: Nasals and Liquids (1) 6 . Lessons 10-11: Liquids (2) and Semivowels 7 . Lessons 12-13: Consonant Clusters and Stress & Rhythm 8 . Lessons 14-15: Front Vowels (1) and (2) 9 . Lessons 16-17: Central Vowels (1) and (2) 10 . Lessons 18-19: Back Vowels (1) and (2) 11 . Lessons 20-21: Diphthongs and Obscure Vowels & Rhythm 12 . Lessons 22-23: Intonation (1) and (2) 		

科 目 名	専門講読（アメリカ文学）1	担当者名	秋 山 武 夫
-------	---------------	------	---------

講義の目的	アメリカを文学を通して比較文化の立場から現代のアメリカを概観してみたい。		
講義概要	移民の国アメリカのかかえている葛藤を考え、論じあいたい。原住民インディアンの現状、黒人の苦悩、日本、中国、イギリス、ドイツなどさまざまな国から移民した人々の異文化体験、一世と二世の葛藤、日系アメリカ人の太平洋戦争時の苦難などの文章（短編小説、詩、エッセイ）を読んでいく。		
使用教材	テキスト	<i>Crossing Cultures</i> by Henry and Myma Knepler (ed.) のプリントを使用する。	
	参考文献	特にない。	
評価方法	出席、提出レポート及びテスト。		
学生に対する要望など		多くの本を読んでほしい。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Henry Mark Petrakis, "Barba Nikos" 2 . Marcus Mabry, "Living in Two Worlds" 3 . Alfred Kazin, "The Kitchen" 4 . Malcolm X, "Hair" 5 . Jeanne and James Houston, "Arrival at Manzanar" 6 . Dwight Okita, "In Responsee to Executive Order 9066" 7 . Michel St. Jean de Crivecoeur "What Is an American?" 8 . Alistair Cooke, "The Huddled Masses" 9 . Joseph Bruchac, "Ellis Island" 10 . Mark Salzman, "Teacher Mark" 11 . George Orwell, "Shooting an Elephant" 12 . Ian Buruma, "Conformity & Individuality in Japan" 13 . Laura Bohannon, "Shakespeare in the Bush" 14 . Robin Lakoff, "You Are What You Say" 15 . Jack Shabean, "The Media's Image of Arabs" 16 . Donna Cross, "Sin, Suffer and Repent" 17 . Bernard Malamud, "The German Refugee" 18 . Alan Devenish, "After the Beep" 19 . Christopher Columbus, "Journal of Discovery" 20 . Michael Dorris, "For the Indians, No Thanksgiving" 21 . Piri Thomas, "Alian Turf" 22 . Beete Lord, "Walking in Lucky Shoes" 23 . Brent Staples, "Night Walker" 24 . Walter White, "I Learn What I Am" 		

科 目 名	専 門 講 読 (英 米 文 化) 2	担 当 者 名	阿 部 純 一
-------	-----------------------	---------	---------

講 義 の 目 標	アメリカの東アジア外交の現状分析をおこなう。		
講 義 概 要	クリントン政権は、ヨーロッパにおいてはNATOの東方拡大をはかり、東アジアにおいては日米同盟を基盤に軍事プレゼンスを確保することで、冷戦後の国際秩序の安定をめざすうえで中心的な役割を担う態勢を整えてきた。今年で任期が切れるクリントン大統領の政策評価は、今後の大統領選挙の過程で様々に議論されることになる。クリントン政権が東アジアにおいて追求してきた諸政策、すなわち朝鮮半島4者協議、中国との「建設的かつ戦略的パートナーシップ」の構築、拡大するASEANへの対応、経済危機の拡大防止などを通して試みられてきたアメリカの関与する地域秩序形成への努力の成否が問われるのである。こうした問題意識に関連した文献を選択し、アメリカの東アジア外交の実績と現状について分析する。		
使 用 教 材	テキスト	インターネットからアメリカの公式外交文書、政府高官の議会証言およびシンクタンクのレポート等、最新のサキストを入手し、毎回配布する。	
	参考文献		
評価方法	成績は授業時の学生による報告（詳細なレジュメを必ず使用すること）と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。そのためには授業への出席が最低条件となる。出席率70%以下は不可。		
受講者に対する要望など	現代国際関係、とくに最近の東アジア情勢について基礎的な知識を持っていることが履修の最低条件。		
年 間 授 業 計 画	その時々的情勢と政策展開により、取り上げるトピックス、テキストを考えるので未定。		

科 目 名	専 門 講 読 (応用言語学) 3	担当者名	阿 部 一
-------	-------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>本講座は応用言語学の中核を占める「第二言語学習」についてその基本的な考え方を定評のある入門書を味読することで理解するとともに、学術的な英文の読解力を高めようというものである。</p>		
講 義 概 要	<p>受講生は基本テキストを読んだ上で発表を行ない、その上で担当講師が解説や補足を行なう。英文理解を正確に行なう必要性とともにある用語や概念についてより詳しい説明や具体例などを参考文献をもとに全員で検討・論議する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>M. Sharwood Smith (1997) <u>Second Language Learning: Theoretical Foundations</u>. Longman.</p>	
	参 考 文 献	<p>D. Nunan (1999) <u>Second Language Teaching & Learning</u>, Newbury House.他にも第二言語学習関係の書籍や資料(詳しくは4月に発表する)</p>	
評 価 方 法	<p>前・後期試験もしくは前・後期レポート ---- 20%×2; クラス発表 ---- 20%×2; 出席 ---- 10%; 復習小テスト ---- 10%</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>クラスでの発表が重要な部分を占めるので欠席や準備不足は大幅に減点される。注意して受講のこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. オリエンテーション ---- General Editor's Preface をもとに概説と発表方法についての説明</p> <p>2. PART TOWARDS THEORY ---- 1 A quick round tour(1) (はじめに; 術語解説など)</p> <p>3. PART TOWARDS THEORY ---- 1 A quick round tour(2) (中間言語; 習得と学習など)</p> <p>4. PART TOWARDS THEORY ---- 2 Learner Systems(1) (語り分析から中間言語へ)</p> <p>5. PART TOWARDS THEORY ---- 2 Learner Systems(2) (中間言語ストラテジーの諸問題)</p> <p>6. PART TOWARDS THEORY ---- 3 Creative construction (創造建設仮説の考え方)</p> <p>7. PART TOWARDS THEORY ---- 4 Analysing interlanguage(1) (中間言語の検証)</p> <p>8. PART TOWARDS THEORY ---- 4 Analysing interlanguage(2) (データと理論の関係)</p> <p>9. PART の復習小テスト</p> <p>10. PART REVISIONS AND ALTERNATIVES ---- 5 Early refinements(1) (発達初期段階について)</p> <p>11. PART REVISIONS AND ALTERNATIVES ---- 5 Early refinements(2) (知識のモデルを検討する)</p> <p>12. PART REVISIONS AND ALTERNATIVES ---- 6 Theoretical developments(1) (創造建設理論を再検討する)</p> <p>13. PART REVISIONS AND ALTERNATIVES ---- 6 Theoretical developments(2) (他の理論の可能性)</p> <p>14. PART の復習小テスト</p> <p>15. PART THE COMING OF AGE ---- 7 Theoretical applications of linguistics(1) (有標性の問題)</p> <p>16. PART THE COMING OF AGE ---- 7 Theoretical applications of linguistics(2) (言語のモジュール性)</p> <p>17. PART THE COMING OF AGE ---- 8 The role of UG in second language learning(1) (普遍文法の問題 ---- その1)</p> <p>18. PART THE COMING OF AGE ---- 8 The role of UG in second language learning(2) (普遍文法の問題 ---- その2)</p> <p>19. PART THE COMING OF AGE ---- 8 The role of UG in second language learning(3) (普遍文法の問題 ---- その3)</p> <p>20. PART THE COMING OF AGE ---- 9 Implications and applications(1) (まとめとその応用 ---- その1)</p> <p>21. PART THE COMING OF AGE ---- 9 Implications and applications(2) (まとめとその応用 ---- その2)</p> <p>22. PART THE COMING OF AGE ---- 9 Implications and applications(3) (まとめとその応用 ---- その3); 文献発表会(1)</p> <p>23. 文献発表会(2)</p> <p>24. 文献発表会(3) + PART の復習小テスト</p>
----------------------------	--

科 目 名	専 門 講 読 (音、文字そしてコミュニケーション) 4	担当者名	板 場 良 久
-------	------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>コミュニケーションにおいて、「話す」ということ、「書く」ということは何か。この問に関する西欧のスピーチ・コミュニケーション研究の基本書を英語で読み、批評的に考え、それを英語で表現するためのスキルと語彙を増やしていくことを目指します。スピーチ・コミュニケーション研究やメディア・コミュニケーション研究に関心のある学生の基礎コースです。</p>		
講 義 概 要	<p>課題読書は授業時間を使って読むことはせず、指定された時間までに各自で読んできていただきます。各授業時間では、まず最初に指定箇所を読んできたかどうかの「確認クイズ」を行ない、次に担当講師が簡単な講義を行ないます。その後で、小グループに分かれて読書と講義の内容に関してディスカッションを行なっていただきます。また年間2回、簡単な「グループ発表」(英語)を行なっていただきます。講義はすべて平易な英語で行ないます。授業中の「グループ・ディスカッション」も英語で進めていただきます。また「確認クイズ」を受けなかった場合、その理由にかかわらず make-up test は行ないませんので注意してください。学期末試験を行わないかわりに、その分だけ「確認クイズ」の比重が高くなります。結構きつそうだと感じられるかもしれませんが、たぶんその通りです。西欧のスピーチ・コミュニケーション研究の基礎となる、話すことや書くことのコミュニケーション学的意味の探求を始めてみたいという学生に向けた授業を目指します。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>(1) Plato, <u>Phaedrus and Letters VII and VIII</u> (Penguin; paperback); (2) Drew A. Hyland, "Why Plato Wrote Dialogues," <u>Philosophy & Rhetoric</u> 1 (1968): 38-50 (a photocopied article to be provided in mid-May); (3) Walter J. Ong, <u>Orality and Literacy</u> (Routledge; paperback); (4) a few other handouts may be provided later.</p>	
	参考文献	<p>必要に応じてクラスで紹介します。</p>	
評 価 方 法	<p>確認クイズ 70%、 グループ発表 20%、 グループ・ディスカッション 10%</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業中にテキストを訳読することは行ないませんので、指定箇所をよく読んで理解してから授業に出席してください。わからないことは、遠慮なく質問してください。</p>		

・前期

前半 Plato, Phaedrus and Letters VII and VIII, を中心とした講義と討論。

後半 Drew, Hyland, “Why Plato Wrote Dialogues,” を中心とした講義と討論。

前期末 グループ発表

・後期

Walter J. Ong, Orality and Literacy, を中心とした講義と討論。

後期末 グループ発表

(さらに詳しい授業計画を初回の講義で配布します。)

科 目 名	専 門 講 読 (コンピュータによる音声分析) 5	担当者名	大 竹 孝 司
-------	-----------------------------	------	---------

講義の目標	マルチメディア対応のコンピュータが出回るようになり、人間がコミュニケーションに用いる音声言語を分析することが誰にでも容易にできるようになった。今や音声言語を理解するためには、その音響特性の知識が不可欠である。この講義では人間が発話する音声言語の音響的特性の基本的な問題を教科書によって学びながら、コンピュータ・ソフトを利用して分析方法について学び、人間が作り出す音声言語の特性について理解を深めることを目標とする。使用する教科書は入門用であるので、比較的平易な英語で書かれているので難しくはないはずである。		
講義概要	授業の進め方は、毎時間担当者が作成したレジュメをもとに発表し、内容の討論を行うことによって理解を深める。音声言語の特性を理解する学習を通じて、英文を速やかに読んでまとめる力、思考力、論理的な議論を展開する発表力が確実に身に着くよう授業では指導する。授業と共に音声言語の特性に関するプロジェクトを実施し、リサーチ・ペーパーの書き方も同時に学習する。		
使用教材	テキスト	R. D. Kent and C. Read "The Acoustic Analysis of Speech"	
	参考文献	授業時に紹介する。	
評価方法	発表とリサーチ・ペーパーの質によって決める。		
受講者に対する要望など	この授業を 2 年生で登録する者は音声・音韻論の講義を併せて受講することを勧める。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業全体の概要の説明と音声言語を分析するとは？ 2. 音声言語の音響特性入門：音声の生成、音声の音響特性とその分析 3. 音声の生成と音響理論：母音の音響理論を学ぶ。 4. 音声の生成と音響理論：母音の音響理論を学ぶ。 5. 音声の生成と音響理論：子音の音響理論を学ぶ。 6. 音声の音響分析入門：音響分析の歴史、デジタル信号の特性 7. 音声の音響分析入門：デジタル信号の特性 8. 音声信号の特性と音声分析：音声波形と具体的な音声分析 9. 音声信号の特性と音声分析：スペクトラル分析、スペクトログラム分析 10. 音響分析の実際：音声の編集と分析 11. 音響分析の実際：音声の編集と分析 12. 前期のプロジェクトについて 13. 母音と二重母音の音響分析 14. 母音と二重母音の音響分析 15. 母音と二重母音の音響分析の実際 16. 子音の音響分析 17. 子音の音響分析 18. 子音の音響分析 19. 子音の音響分析の実際 20. いろいろな声：性、年齢、速さ、言語障害 21. いろいろな声：性、年齢、速さ、言語障害 22. 音声合成：人間の声とロボットの声 23. 音声合成：音声合成の実際 24. 後期のプロジェクトについて 		

科 目 名	専 門 講 読 (英 語 学) 6	担 当 者 名	大 西 雅 行
-------	---------------------	---------	---------

講 義 の 目 標	英語の音声を最新の音声学と音韻論の立場より探る。		
講 義 概 要	今年度は連続音中の諸現象とリズム、イントネーションを読む。なお、テキストが薦めている参考書のうちからいくつかを選び、プリントにし、それも読む。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Peter Roach, <u>English Phonetics and Phonology</u>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	前期、後期の試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. リズム 2. 同化作用 3. 省略作用 4. 連続作用 5. プリント 6. プリント 7. ピッチの変化と観察 8. 音調言語 9. 音の高さと音調 10. 音調現象の重要性 11. 複合の音調 12. 音調の機能 13. プリント 14. プリント 15. 音調の単位 16. 音調の構造 17. 降昇調と上昇調 18. 高頭と低頭 19. プリント 20. プリント 21. イントネーションの状況機能 22. イントネーションの強勢機能 23. イントネーションの文法機能 24. イントネーションの談話機能 		

科 目 名	専 門 講 読 (アメリカにおける黒人文化の流れ) 7	担当者名	岡 田 誠 一
-------	-----------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>アメリカ黒人文学の背景となっている、黒人文化の流れを学ぶのが、この講義の目標である。絵、風刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストとして使う予定。英文をじっくり読む訓練をすることにより、将来必ず役立つような英語力も培ってほしい。</p>		
講 義 概 要	<p>黒人はどのようにしてアメリカに連れてこられたのか。南部の大農園主たちがどうしても解けなかった問題、綿の種をいかに効率的に取り除くか、を簡単に解決し、南部に奴隷制をしっかりと根付かせた男は誰だったのか。</p> <p>その他、アメリカ黒人の文化には我々日本人に知られていないことがたくさんある。そして、これらを知らなければ、アメリカ黒人文学を十分に理解することはできない。</p> <p>今年度も、このような文学の背景を学んでいく予定。</p> <p>なお、アメリカ文学を知るための一助として、年間数本の米文学・文化に関する映画を鑑賞する計画である。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	プリントを使用する予定。	
	参 考 文 献	授業にて適宜指示する。	
評 価 方 法	<p>評価は前後期の試験と出席状況、及び、どの程度予習をして授業に臨んだか、などによって決定される。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎回当たるものと考え、必ず予習をして授業に出ること。</p>		

- 1 . First, We Were Africans
- 2 . How We Came to America
- 3 . Black Gold
- 4 . Slaves in the New World
- 5 . Invention of the Cotton Gin
- 6 . King Cotton
- 7 . Slaves as Skilled Workers
- 8 . Slave Domestic
- 9 . An Omission from the Declaration
- 10 . Slavery and the Law
- 11 . The Entrenchment of Bondage
- 12 . Corn Shucks, Fat back and Malaria
- 13 . Slave Revolts
- 14 . Refuge among the Indians
- 15 . Reading, Writing - and Thinking
- 16 . Famous Bondsmen
- 17 . The Roots of Jim Crow
- 18 . Firebell in the Night
- 19 . Compromise and Crisis
- 20 . The Fugitive Slave Law
- 21 . The Kansas-Nebraska Bill
- 22 . 'Bleeding Kansas'
- 23 . The Dred Scott Decision
- 24 . Free Men of Color

科 目 名	専 門 講 読 (アメリカ小説) 8	担当者名	香 取 豊
-------	--------------------	------	-------

講義の目標	小説を通して情感や想像力を養うことが出来、また対話を通して人の世の複雑さを感じることができれば、と思います。		
講義概要	一つの小説を、語学を中心に読み進めていきますが、試験等を考えると結局は一つの文学作品として扱うことになります。		
使用教材	テキスト	未定。20世紀のアメリカ小説。	
	参考文献		
評価方法	学生が訳読をあてられた時の状況、出席状況、及び試験の結果などを総合的に判断し評価します。		
受講者に対する要望など	出来る限り出席すること、及び授業の予習を強く望んでいます。とくに4年生の場合、就職その他で欠席せざるを得ない時は、その旨担当者に伝えて下さい。		
年間授業計画	1. テキストの小説を中心に、一定の範囲を学生にあてて訳させ、加えるべき説明をしていきます。同じ形式の進め方で学生の能力に応じて随時判断していきます。		

科 目 名	専 門 講 読 (英 語 学 ・ 英 語 聖 書) 9	担 当 者 名	川 崎 潔
-------	-------------------------------	---------	-------

講義の目標	英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、特に The Authorized Version (1611 年出版) は W. Shakespeare の戯曲と共に必読書と言えよう。AV は先行する英訳聖書の粹を集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与え、英語史家達からは「英語散文の金字塔」と言われるに至ったからである。授業ではその The Authorized Version からの抜粋を精読する。		
講義概要	テキストを語学的に精読することに重点をおきたいと思う。1611 年出版ではあるが、その英語は概ね 16 世紀前半の英語を表していると言われる。これを現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version (新約 1946、新旧両訳 1952、外典 1957) や New English Bible (新約 1961、新旧両訳・外典 1970) と読み比べることによって、両者の英語の違いを具体的に知ることができ、また RSV は AV の改訂訳なので、一種の注釈書としても役立つであろう。		
使用教材	テキスト	舟橋雄注解 : “ Readings From The Bible ” (英訳聖書抄) 研究社、¥2200	
	参考文献	・寺沢芳雄ほか『英語の聖書』富山房、1969 ・市河三喜『聖書の英語』研究社、1937 ・齋藤勇『文学としての聖書』研究社、1944 ・荒木一雄・宇賀治正朋『英語史 A』、英語学体系第 10 巻、大修館、1984 ・井上良雄『山上の説教』新教出版社、1994	
評価方法	前期末と後期末にテストを行なう。		
受講者に対する要望など	授業に出席し、予習と復習を実行してもらいたい。		
年間授業計画	1 . Chapter	The Creation	
	2 . Chapter	The Creation	
	3 . Chapter	The Garden of Eden	
	4 . Chapter	The Garden of Eden	
	5 . Chapter	The Garden of Eden	
	6 . Chapter	The Word Become Flesh	
	7 . Chapter	Abraham, the Patriarch	
	8 . Chapter	Abraham, the Patriarch	
	9 . Chapter	Joseph the Dreamer	
	10 . Chapter	Joseph the Dreamer	
	11 . Chapter	Joseph the Dreamer	
	12 . Chapter	Joseph the Dreamer	
	13 . Chapter	Joseph the Ruler	
	14 . Chapter	Psalms xix, xxiii	
	15 . Chapter	The Sermon on the Mount	
	16 . Chapter	The Sermon on the Mount	
	17 . Chapter	The Sermon on the Mount	
	18 . Chapter	The Good Samaritan	
	19 . Chapter	The Garden of Gethsemane	
	20 . Chapter XL	The Greatest Thing	
	21 . Chapter	The Birth of Jesus	
	22 . Chapter	The Birth of Jesus	
	23 . Chapter	The Birth of Jesus	
	24 . 予備日		

科 目 名	専 門 講 読 (イギリス文学) 10	担当者名	北 澤 滋 久
-------	---------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>従来からこの授業の日標を、文学作品をどう読みいかに理解して、自己の感性に照らし心の糧とするかという点に置いている。言語芸術としての文学の表現の妙を味わい、象徴的意味を把握して、作家がそこに注ぎこんだテーマを吟味、解明、思考するのである。従って単に英文を日本語に読み替えて、それでこと足りるというわけにはゆかない。</p>		
講 義 概 要	<p>今回のテキストは、James Joyce (1882-1941) の初期の短編集である。後の、今世紀最大の問題作、<i>Ulysses</i> の芽生えは、既にしてここに存在すると担当者は観ている。例えば、stream of consciousness の文体の妙、円環的思考法等々、この比較的読みやすい作品集の中の、特に“<i>The Dead</i>”を解説・精読いたすことによって、受講者とさまざまな議論が展開できればと思っている。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	James Joyce, <i>Dubliners</i> .	
	参 考 文 献	<p>Richard Ellmann, <i>James Joyce</i>. Oxford University Press, 1982. Don Gifford, <i>Joyce Annotated</i>. 2nded. University of California, 1982. A Nicholas Farfnoli & Michael Patrick Gillespie, <i>James Joyce A to Z</i>. Facts On File, 1995. 北澤慈久他、『ジョイスからジョイスへ』。東京堂出版、1982。 その他随時教室で紹介する。</p>	
評 価 方 法	<p>平常点・前後期の試験・夏休み期間の小論文において評価する予定である。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>文字通りの「専門」講読である。上記の主旨に賛同・納得の学生<u>のみ</u>の参加を切に求めている。単に単位取得を目的とすることはこの授業では不可能であるばかりではなく、真面目な受講者の邪魔ともなるのでご遠慮願いたい。開講初日の欠席者は、理由のいかんを問わず絶対に受講を認めないことは当然である。</p>		

科 目 名	専 門 講 読 (アイルランド文学 - 現代演劇) 11	担当者名	児 嶋 一 男
-------	------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	英文の精読。戯曲テキストから会話の英語表現を学ぶ。舞台上で交される話し言葉を意識して、日本語の翻訳表現を考える。一回に約 10 ページ進み、英文を読む量を増やす。戯曲というひとつの文学作品を解釈する。		
講 義 概 要	C. McPherson は 1999 年から 2000 年にかけて全米 30 箇所での作品が上演されている若手の人気劇作家で、 <i>The Weir</i> は 1999 年のロンドンで大きな話題となったアイルランド西海岸を舞台にした戯曲です。英米でこの作品が受け入れられる理由を考えながらロールプレイ方式で読んでいきます。11 月下旬に上演される舞台を団体に鑑賞します (有料)。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	C. McPherson : <i>The Weir</i> (プリント)	
	参 考 文 献	授業中に話す。	
評 価 方 法	毎回の簡単な vocabulary テスト。前期・後期の定期試験。前期・後期の観劇レポート。		
受 講 者 対 する 要 望 等	第一回目の授業から読み始め、vocabulary のテストをするので、最初の 5 ページ分を準備した者のみ出席すること。テキストは中央棟 5 階 504 室前に用意しておきます。		

科 目 名	専 門 講 読 (コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論) 12	担 当 者 名	佐 々 木 輝 美
-------	------------------------------------	---------	-----------

講 義 の 目 標	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (と く に マ ス コ ミ) に 関 わ る モ デ ル を 理 解 し、 そ れ ら の モ デ ル を 利 用 し て 実 際 の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 現 象 を 分 析 で き る よ う に な る こ と を 目 的 と す る。		
講 義 概 要	過 去 の 研 究 者 に よ っ て 提 出 さ れ た 主 な コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ モ デ ル に つ い て の 英 文 を 読 み、 具 体 的 な 例 を 当 て は め な が ら 個 々 の モ デ ル を 理 解 し て い く。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	McQuail, D. & Windahl, S. (1981). <i>Communication models for the study of mass communication</i> . Longman.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	授 業 参 加、 レ ポ ー ト、 前 期 ・ 後 期 試 験 の 総 合 評 価 を 行 う。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	発 表、 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 中 心 に 授 業 を 進 め て い き ま す の で、 活 発 な 質 疑 応 答 に 備 え て 下 さ い。		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導 入、 お よ び モ デ ル の 長 所 と 短 所 に つ い て 2. 初 期 の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ モ デ ル 3. 基 本 的 な コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ モ デ ル ラ ス ウ ェ ル、 シ ャ ノ ン と ウ ィ ー バ ー の モ デ ル 4. 基 本 的 な コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ モ デ ル オ ズ グ ャ ッ ド、 ダ ン ス の モ デ ル 5. 基 本 的 な コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ モ デ ル ガ ー ブ ナ ー、 ニ ュ ー カ ム の モ デ ル 6. 基 本 的 な コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ モ デ ル ウ ェ ス リ ー と マ ク リ ー ン の モ デ ル 7. 基 本 的 な コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ モ デ ル シ ェ ラ ム、 ラ イ リ ー と ラ イ リ ー の モ デ ル 8. 基 本 的 な コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ モ デ ル マ レ ッ ケ の モ デ ル 9. パ ー ソ ナ ル ・ イ ン フ ル エ ン ス 導 入 10. パ ー ソ ナ ル ・ イ ン フ ル エ ン ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 2 段 階 の モ デ ル 11. パ ー ソ ナ ル ・ イ ン フ ル エ ン ス イ ノ ベ ー シ ョ ン ・ モ デ ル 12. 前 期 の ま と め 13. マ ス コ ミ の 文 化 ・ 社 会 へ の 影 響 効 果 概 念 に つ い て 14. マ ス コ ミ の 文 化 ・ 社 会 へ の 影 響 議 題 設 定 モ デ ル、 メ デ ィ ア 依 存 モ デ ル 15. マ ス コ ミ の 文 化 ・ 社 会 へ の 影 響 沈 黙 の ら せ ン モ デ ル、 知 識 ギ ャ ッ プ ・ モ デ ル 16. 受 け 手 に 視 点 を 置 い た モ デ ル 利 用 と 満 足 モ デ ル 17. 受 け 手 に 視 点 を 置 い た モ デ ル 利 用 と 効 果 モ デ ル 18. 受 け 手 に 視 点 を 置 い た モ デ ル 情 報 追 求 モ デ ル 19. ビ デ オ 視 聴 (レ ポ ー ト 用) 20. マ ス ・ メ デ ィ ア ・ シ ス テ ム 自 由 市 場 モ デ ル 21. マ ス ・ メ デ ィ ア ・ シ ス テ ム パ ブ リ ッ ク ・ リ レ ー シ ョ ン ズ ・ モ デ ル (レ ポ ー ト 提 出、 B5 用 紙 で 千 字 以 内) 22. マ ス ・ メ デ ィ ア ・ シ ス テ ム ゲ ー ト ・ キ ー パ ー ・ モ デ ル 23. マ ス ・ メ デ ィ ア ・ シ ス テ ム ニ ュ ー ス の 流 れ モ デ ル 24. 後 期 の ま と め 		

科 目 名	専 門 講 読 (イギリス児童文学) 13	担当者名	白 鳥 正 孝
-------	-----------------------	------	---------

講義の目標	「習うより慣れよ」(Use makes perfect.)の観点から、面白くて易しい英語を多読することを目的とする。		
講義概要	Lang (Andrew, 1844-1912) の『色分昔話集』(全 12 巻)の内、『青色昔話集』を読む。本書は英語圏の児童文学の古典として必須のもの、諸君になじみの話も多い。例えば「眠れる森の美女」「美女と野獣」など。(一回 20 頁を 2 人の共同責任で読む。)		
使用教材	テキスト	Lang, A. ed. <i>The Blue Fairy Book</i> , Dover, 1965 (受講数が決定次第海外発注するので、初めはプリント使用。)	
	参考文献	その都度、教室で指示する。	
評価方法	期末のペーパーテストと、発表(平常授業での)具合と別に夏の課題を課す(詳細は教室にて指示する。)が、それらの総合で評価する。		
受講者に対する要望など	アニメや芝居や音楽などにも案外、昔話に材をとっているものが多い。易しいなどといって馬鹿にするなかれ。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 'The Bonze Ring,' 'Prince Hyacinth and the Dear Little Princess' 2. 'East of the Sun and West of the Moon' 'The Yellow Dwarf' 3. 'Little Red Riding Hood', 'The Sleeping Beauty in the Wood' 4. 'Cinderella; or, the Little Glass Slipper' 'Aladdin and the Wonderful Lamp' 5. 'The Tale of a Youth who Set out to Learn what Fear was' 'Rumpelstilzkin' 6. 'Beauty and the Beast' 7. 'The Master Maid' 'Why the Sea is Salt' 8. 'The Master Cat; or, Puss in Boots' 9. 'Felicia and the Pot of Pinks' 10. 'The White Cat', 'The Water-lily, The Gold-supinners' 11. 'The Terrible Head', 'The Story of Pretty Goldilocks' 12. 'The History of Wittington,' 'The Wonderful Sheep' 13. 'Little Thumb' 14. 'The Forty Thieves' 'Hansel and Grettel' 15. 'Snow-white and Rose-red' 'The Goose-girl' 'Toads and Diamonds' 16. 'Prince Darling' 'Blue Beard' 'Trusty John' 17. 'The Brave Little Tailor,' 'A Voyago to Lilliput' 18. 'The Princess on the Glass Hill,' 19. 'The Story of Prince Ahmed and the Fairy Paribanou' 'The History of Jack the Giantkiller' 20. 'The Black Bull of Norrway' 'The Red Etin' 21. 'What the Rose did to the Cypress', <i>The Brown Fairy Book</i> (プリント) 22. [Continued.] 23. 'Ball-Carrier and the Bad One' 'How Ball-Carrier finished his Task' 24. 'The Bunyip,' 'Father Grumbler' 		

科 目 名	専 門 講 読 (各種英文ビジネス文書の読み方と実務) 14	担当者名	杉 山 晴 信
-------	--------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ビジネス通信文 (Business Correspondence) のみを扱う狭義のビジネス英語から脱却し、他の領域の英文ビジネス文書にまで学習範囲を拡大して、国際ビジネスに従事する者にとって不可欠な実務能力とリーガルマインドの早期涵養を目指します。具体的には、法律文書 (契約書、定款等) と英文財務諸表の「現物」をテキストとして読み、当該分野に用いられる英語を言語的知識として学ぶと同時に、ビジネスに関する実務的知識を習得することを目標とします。</p>		
講 義 概 要	<p>今年度は、前期に一手販売契約 (Exclusive Distributorship Agreement) の英文契約書と米国法に基づく株式会社の設立定款を、後期に米国企業が作成した英文財務諸表をそれぞれ教材として扱います。前期の授業では、法律英語の文体や語法、英文契約書の構造、定款の記載事項などについて若干の説明を行った後、履修者に担当箇所を順次発表していただく予定です。後期の授業では、貸借対照表と損益計算書の意義、表示区分と読み方、各種の分析指標などについて十分な講義を行ってから、実在の企業の直近の財務諸表を読み、業績を検討します。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。</p>	
	参 考 文 献	<p>小中信幸監修・中谷栄一郎著『契約の英語』(荒竹出版、1994) 長谷川俊明『法律英語のカギ』(正・続)(東京布井出版、1985,1988) 菊地義明『英和契約・法律基本用語辞典』(洋販出版、1997) 本郷孔洋・永峰潤『よくわかる英文会計』(税務経理協会、1997) 小川洌・鎌田信夫『現代英和会計用語辞典』(同文館、1991)</p>	
評 価 方 法	<p>出席や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験 (またはレポート) の結果を加味して決定します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間の授業契約と学習内容について詳しく説明し、履修上の注意事項を伝達します。 2. 「契約」の概念、英米契約法における主要原則、代表的な国際契約類型の概要と特色について講義します。 3. 英文契約書の標準的構成と用語法について、実例を用いて説明します。 4. 一手販売契約について全体的な説明を行った後、契約書の前文を読みます。 5. 当事者の指定、当事者関係、販売地域、および取扱製品の各条項を読みます。 6. 排他独占権、最低保証、個々の契約、および情報と報告の条項を読みます。 7. 販売促進と工業所有権の条項を読みます。 8. 地域外販売禁止、および費用の条項を読みます。 9. その他の一般条項を読みます。 10. 米国における株式会社の設立手順と定款の記載事項について、日本の場合と比較して詳しく講義します。 11. 日本企業の米国子会社（現地法人）の設立定款を読みます。 12. 同 上 13. 財務諸表（特に貸借対照表と損益計算書）の意義について詳しく講義します。 14. 英文財務諸表の表示区分と読み方、および主要な勘定科目について、日本語版のそれらと比較しながら詳しく説明します。 15. 同 上 16. 実在の企業の英文財務諸表をテキストとして、実務知識を習得しながら読みます。 17. 同 上 18. 同 上 19. 同 上 20. 同 上 21. 財務分析について講義し、流動性、健全性、収益性、効率性、および成長性の各々に関する主要な分析指標を紹介します。 22. テキストとして扱った企業の業績を上記の分析指標を用いて検討します。 23. 同 上 24. 1年間の授業を総括し、質疑応答と討議を行います。
----------------------------	--

科 目 名	専 門 講 読 (- ドライデン -) 15	担当者名	園 部 明 彦
-------	--------------------------	------	---------

講義の目標	<p>教養英語の時間そのままに、一言一句疎かにせず読み進めながら、ドライデンという作家の文章の妙味を味わってみたい。これが、人間の複雑な感情の動きを僅か数語の決まり文句で処理しようという昨今の安易な風潮への反省の一步となればと考えている。このところ軽視されがちな<文法的に読む>という退屈な作業を通して、知らず知らず言葉を大切に、同時に英語をきちんと読む習慣を先ず身につけてから、次の段階で初めて、いわゆる<実用性>を考えてみてはどうだろうか。</p>		
講義概要	<p>かつては最良の訳が出来るまで何度も試みてもらったが、多人数となった現在では、不本意ながら、一回のみのテスト形式とならざるを得ない。そのため、総合評価の低下が懸念されるので、その一助として質問の時間を設ける予定である。(当園部ゼミ受講者は、必ず受講されたい。)</p>		
使用教材	テキスト	John Dryden: ' <i>A Parallel of Poetry and Painting</i> ' (北星堂) 29 ページから	
	参考文献		
評価方法	<p>評価法は、一回 10 点満点として、その合計点が成績となる。そのため、欠席は非常に不利になる。遅刻は認めないのも例年通り。</p>		
受講者に対する要望など	<p>語学は毎回の積み重ねが重要である。ここでは<レポート>などという姑息な手段は通用しない。辞書は必ず用意してもらいたい。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「関係代名詞」の用法 2. 「比較構文」について 3. 「省略構文」について 4. 「目的語」の省略について 5. 「比較構文」について 6. 「比喩的表現」について 7. 「関係代名詞」について 8. 「比較構文」について 9. pull の用法について 10. intend の用法について 11. cut の用法について 12. of の用法について 13. 「仮定法」について 14. 「部分否定」について 15. be 動詞について 16. otherwise の特殊用法について 17. 「省略構文」について 18. 「比較構文」について 19. passable について 20. 「省略構文」について 21. 「仮定法」について 22. 「代名詞」について 23. leave の用法について 24. 「比較構文」について 		

科 目 名	専 門 講 読 （文化的パフォーマンスの考察）16	担当者名	高 橋 雄 一 郎
-------	---------------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>ディズニーランドをパフォーマンス研究の方法論を使って批判的に考察します。ディズニーランドへ行って楽しかったという人は多いと思いますが、ごみ一つ落ちていない「魔法の王国」に、どこか空虚さを感じた人もいないのでしょうか。全てがディズニーによって作り出され、管理される世界では、私たちの気分や印象まで操作されてしまいます。ディズニーランドという文化装置が祝祭的なパフォーマンスによって入場者の主体を構築する過程について、学生諸君と議論をしていきたいと思ひます。</p>		
講 義 概 要	<p>海外に留学すると、一週間に何冊もの英語の本を課題として読まされ、授業では発言を求められる、ペーパーは何本も書かされるという、四苦八苦の体験をするのが普通です。そんな体験を日本で味わうことができるのが、この授業の特徴です。英文のテキストをしっかりと読みこなし、文化的背景についてリサーチする、クラスでは積極的に議論に参加する、独自の視点で説得力のあるレポートを書く、この4つが出来ることが受講の前提になります。十分な予習をした上で毎回授業に出席することが当然なのは言うまでもありません。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>The Project on Disney, <u>Inside the Mouse: Work and Play at Disney World</u> (Duke University Press, 1995)及びプリント</p>	
	参 考 文 献	<p>能登路雅子『ディズニーランドという聖地』(岩波新書 132、1990、¥640) トム・コネラン(仁平和夫訳)『ディズニー7つの法則』(日経BP社、1997、¥1400) 桂英史『東京ディズニーランドの神話学』(青弓社、1999、¥1600)その他</p>	
評 価 方 法	<p>前後期に各1回提出する4000字程度のレポートに、授業での発表、発言などを加味する。</p>		
受 講 者 対 する 要 望 等	<p>能登路雅子『ディズニーランドという聖地』を読んで考えたことを、1000字程度のレポートにして2回目の授業までに提出してもらいます。早速テキストを購入して準備を始めて下さい。</p>		

科 目 名	専 門 講 読 (イギリス文学 生命へのまなざし) 17	担当者名	珍 田 弥一郎
-------	------------------------------	------	---------

講義の目標	William Blake (1757 - 1827) の詩と散文を読み、一年間でともかくこの詩人の大まかな全体像をつかむ。		
講義概要	ブレイクの全体像をつかむために、初期の Poetical Sketches から Songs of Innocence , Songs of Experience まで、その他 Rossetti Ms., Pickering Ms. を含め手紙類、< 予言書 > の一部も考察の範囲に入れるつもりである。		
使用教材	テキスト	(1) 『ブレイク詩選』(新装版) 山宮允解説・注釈 (研究社) (2) プリント	
	参考文献		
評価方法	授業における発言と議論、それに年 2 回のペーパーの提出による。もちろん出席は重要である。		
受講者に対する要望など	かならず出席して自分の考えを明確に述べること。		
年間授業計画	1 . 2 . 3 . 4 . 5 . 6 . 7 . 8 . 9 . 10 . 11 . 12 . 13 . 14 . 15 . 16 . 17 . 18 . 19 . 20 . 21 . 22 . 23 . 24 .		

科 目 名	専 門 講 読 (現代国際政治史) 18	担当者名	永 野 隆 行
-------	----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>テーマ：冷戦時代の国際政治の全体像を一冊のテキストを通じて学ぶ</p> <p>「今さら冷戦の歴史なんて勉強してどうする」という学生諸君からの陰口が聞こえそうであるが、冷戦が終焉した今こそ、第二次世界大戦後まもなく始まり 50 年近く続いた「冷戦」とはいったい何であったのかを、あらためて考える絶好の機会であると考え。混沌とした現代の国際関係はまぎれもなく冷戦期の国際政治の産物であり、冷戦の歴史を理解せずして、現代世界の理解はできず、しかも将来像も浮き上がってこないだろう。授業では細かい事象にあまりこだわらず、冷戦という一時代の全体像を把握することにつとめたい。</p>
講 義 概 要	<p>1 冊のテキスト (約 400 ページ) を 1 週につき約 1 章のペースで読み切る。登録人数にもよるが、あらかじめ指定された学生が 1 章ごとに内容の発表を行なう。指定された学生は、内容をまとめたレジユメを用意し、また特に関心を持った部分については独自に調べてもらい、その結果もあわせて発表してもらおう。また毎週、テキストの内容についてのレポートを全学生に要求する。</p> <p>なお、使用するテキストは、CNNの『冷戦』というシリーズ番組にあわせて出版されたものである。したがって、時に応じて番組録画 (日本語吹き替えなし、字幕なし) を学生全員で視聴し、冷戦史の理解の手助けとし、さらに聞き取り能力のテストも行いたいと考えている。</p>
使 用 教 材	<p>テキスト Jeremy Issacs and Taylor Downing, <i>Cold War : An Illustrated History, 1945-1991</i>, Little, Brown & Company, 1998.各自購入のこと。なお、www.amazon.com や www.barnesandnoble.com などにアクセスし、クレジットカードにて注文する方法が便利で早く、しかも割引価格で購入できる。若干大きくて重い本 (かなりかさばる) なので、その点は覚悟しておいて欲しい。</p> <p>参 考 文 献</p>
評 価 方 法	<p>出欠、発表、授業中の参加態度、さらに年度末のレポートによる総合評価。(定期試験は一切行わない) なお、授業総数の 1/5 以上の欠席をした場合は、その時点で「不可」となる。2 回の遅刻は欠席 1 回に相当する。就職活動という理由は認められないので、4 年生は特に注意されたい。要件を満たしていなければ、「就職が内定しているから、単位をください」と言われても、どうすることもできない。</p>
受 講 者 対 する 要 望 等	<p>本講義は、自らの自由な意志によって選択し、登録するものであり、授業中の私語、携帯電話のベルなどについては厳罰に処する。場合によっては、登録を取り消す。また自分が担当になっていないからといって、予習を怠るような学生はご遠慮願いたい。</p>

科 目 名	専 門 講 読 (歴 史 ・ 文 化) 19	担 当 者 名	中 村 粲
-------	--------------------------	---------	-------

講 義 の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・英文を正しく音読し、内容を正確に理解する。 ・他国と我国との思考発想や文化の相違を理解する。 		
講 義 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・英米人の目を通して見た日本と日本人のあり方を考える。 ・指名して音読と和訳をさせる。 ・随時、現下の重要問題を解説、論評する。 		
使 用 教 材	テキスト	未定 (文化 ・ 歴史分野の教材を選ぶ予定)	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	平素の勤怠、授業への姿勢、学期末の試験。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	真剣に授業に臨むこと。始業時には大きな声で挨拶すること。授業中の私語、飲食等厳禁。		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明等。 2. 指名して音読、訳読させる。 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. " 13. " 14. " 15. " 16. " 17. " 18. " 19. " 20. " 21. " 22. " 23. " 24. " 		

科 目 名	専 門 講 読 (シェイクスピア「ヴェニスの商人」) 20	担当者名	長谷部 加寿子
-------	-------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	シェイクスピアの劇作品を、立体的に劇として研究する。		
講 義 概 要	「ヴェニスの商人」は、1596年シェイクスピアが32歳の時の作品である。この劇は中期の円熟した喜劇の中でも、商人で高利貸しのシャイロックという登場人物を得て、非常に現代的な意味あいを持っていることに気づく。授業の進め方は、グループ毎に短いシーンを演じて原文の解釈、演技について研究発表しクラスで討論する。		
使 用 教 材	テキスト	William Shakespeare : <i>The Merchant of Venice</i>	
	参 考 文 献	テキストは、どの版でも可。各自購入の事。辞典、参考書等は最初の授業の時に話す。	
評 価 方 法	年2回原文での演技を行い、その演出論と批評論を提出する。及び年1回の「『ヴェニスの商人』論」を発表し、その論文提出を評価の対象とする。		
受 講 者 対 する 要 望 等			

科 目 名	専 門 講 読 (20 世 紀 英 ・ 米 文 学) 21	担 当 者 名	林 節 雄
-------	---------------------------------	---------	-------

講 義 の 目 標	<p>英会話初・中級レベルをマスターした学生は、しっかりした内容のある、洗練された文章を研究するとよい。英国の高校で近い過去に「国語」のテキストとして使用された本を用い、その中の現代英・米の才能ある作家たちのストーリーの英語を研究し、そこに表現されている現代人の心を考えるとともに、我々自身の英語表現力を豊かにする材料として利用したい。なおこのテキストは 1998 年度に使用し好評だったため、再度新しいアプローチで取り上げる。すでに取った人は受講できない。</p>		
講 義 概 要	<p>毎回 5 頁程度を精読し、私が解説した後で発音、意味、表現の問題点などあらゆる角度からなるべく多くの学生に質問し、意見を聞く。特に現代人の希望と失望の間で揺れる振幅の大きな心の生態に注目したい。収録作家は Malamud, H. E. Bates, Dan Jacobson, K.Mansfield, John Wain などである。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	D. R. Barnes ed., <i>Short Stories of Our Time</i> (Nelson / Harrap) (入手困難なのでコピーを配布する)	
	参 考 文 献	必要に応じ紹介する。	
評 価 方 法	前後期の定期試験と日常の授業への参加度により評価。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p><i>Time</i>, <i>Newsweek</i>, 英字新聞などは「自分で」読んでいて、英語が出来る人間になりたいという意志を持っている学生が望ましい。</p>		

科 目 名	専 門 講 読 (アメリカ文学) 22	担当者名	原 成 吉
-------	---------------------	------	-------

講 義 の 目 標	英語によって書かれた現代詩をとおして日本を含めた環太平洋文化圏を考える。				
講 義 概 要	アメリカの現代詩を代表する詩人ゲーリー・スナイダー(b. 1930)の散文、詩を集めた選集 <i>The Gary Snyder Reader</i> (1999)をとおして、地域生態主義(Bioregionalism)の可能性や禅、チベット仏教、そしてネイティブ・アメリカンの自然観を考える。エコロジーが日常レベルの問題となったいま、自然と人間の間を、ヨーロッパ=ユダヤ・キリスト教=男性中心の視点からではなく、「多文化主義」(multiculturalism)の立場から検討する。あるインタビューで「いまいちはん差し迫った環境問題は何か? 」という問いに対してスナイダーは、「まず、心と魂の喪失だろうね。いまこの世界の中で生きているという感覚の欠如、本当に豊かであること、地球とはガイア(生命ある惑星)であり、女神であるという認識の欠如こそ、最大の問題だ」と答えている。このクラスでは、ガイアとの触れ合いから生まれた彼の作品を読み、レポーターを中心にディスカッション形式で進める。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>Gary Snyder, <i>The Gary Snyder Reader</i> (Washington, D. C.: Counterpoint, 1999) ISBN1-887178-90-2 \$35.00.テキストは、amazon.com で \$24.50 で購入できますので各自用意しておくこと。購入方法がわからない場合は、最初の授業で希望をとり担当教員が発注する。</td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td>Patrick Murphy, <i>Understanding Gary Snyder</i>(Columbus; S. C.: Univ. of South Carolina Press, 1992) 『スナイダー詩集』(思潮社) 『野生の実践』(東京書籍) 『聖なる地球の集いかな』(山と溪谷社)</td> </tr> </table>	テキスト	Gary Snyder, <i>The Gary Snyder Reader</i> (Washington, D. C.: Counterpoint, 1999) ISBN1-887178-90-2 \$35.00.テキストは、amazon.com で \$24.50 で購入できますので各自用意しておくこと。購入方法がわからない場合は、最初の授業で希望をとり担当教員が発注する。	参 考 文 献	Patrick Murphy, <i>Understanding Gary Snyder</i> (Columbus; S. C.: Univ. of South Carolina Press, 1992) 『スナイダー詩集』(思潮社) 『野生の実践』(東京書籍) 『聖なる地球の集いかな』(山と溪谷社)
テキスト	Gary Snyder, <i>The Gary Snyder Reader</i> (Washington, D. C.: Counterpoint, 1999) ISBN1-887178-90-2 \$35.00.テキストは、amazon.com で \$24.50 で購入できますので各自用意しておくこと。購入方法がわからない場合は、最初の授業で希望をとり担当教員が発注する。				
参 考 文 献	Patrick Murphy, <i>Understanding Gary Snyder</i> (Columbus; S. C.: Univ. of South Carolina Press, 1992) 『スナイダー詩集』(思潮社) 『野生の実践』(東京書籍) 『聖なる地球の集いかな』(山と溪谷社)				
評 価 方 法	授業への参加度と年 2 回のレポート(ワープロで 4,000 字程度の作品論、または詩人論)で決める。欠席は授業回数の 4 分の 1 (6 回) を限度とする。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	英語力と想像力をマッサージのつもりで授業に参加してほしい。				

科 目 名	専 門 講 読 (英 米 文 化) 23	担 当 者 名	福 井 嘉 彦
-------	------------------------	---------	---------

講 義 の 目 標	一定水準に達した内容の英文の読解力をつける。		
講 義 概 要	聖書の内、「創世紀」に関する内容のものである。 学生による輪読を行う。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Karen Armstrong : <i>In the Beginning. A New Interpretation of Genesis.</i> プリント使用	
	参 考 文 献	The Bible	
評 価 方 法	授業時での発表と試験。一定以上の欠席は不合格。 最初の授業には必ず出席、履修承認の手続きを取ること。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	最初の授業を欠席した場合は、履修単位を認めない。必ず「聖書」を持参して授業に出席すること。		
年 間 授 業 計 画	<p>1 . 概要説明と注意等 以下の章を順次講読する。進度はテキストの内容が理解された都度次に進む。</p> <p>1 . The Rape of Dinah 2 . The Fall of Jacob 3 . Joseph 4 . Judah and Tamar 5 . Joseph in Egypt 6 . Recognition 7 . Judah's Intervention 8 . A Happy Ending? 9 . Jacob's Blessing 10 . No last Word</p> <p>但し、以上の全てを読み切れぬ場合もありうる。</p>		

科 目 名	専 門 講 読 (短編小説鑑賞) 24	担当者名	富士川 和 男
-------	---------------------	------	---------

講義の目標	ディケンズ、ギッシング、コンラッド、ハーディの短編小説を読み、小説の読み方について考える。		
講義概要	テキストを精読し、いろいろの面でわからないことに会ったら、どのように解決したらよいかについて考える。		
使用教材	テキスト	Classic English Famous Short Stories (英宝社)	
	参考文献		
評価方法	前後期各1回の試験		
受講者に対する要望など	必ず予習すること。		
年間授業計画	1. テキストの進度に応じて、問題を提起していく。		

科 目 名	専 門 講 読 (イギリス文学) 25	担当者名	藤 田 永 澗
-------	---------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>語学力を養成する最も有効な方法の一つは、いかにも英語らしい文、好きになれる文、感情移入できる文をよく味わい分析し、くり返し読むことです。昔も今も将来もこのことは変わりないと思います。20世紀の英米のクラシカルな作品を選んでテキストにします。時に、原文の一部を自分の英文で書いてみて、それを元の原文と比較する(英語の表現力をつけるベストの方法の一つ)試みをします。</p>		
講 義 概 要	<p>単語でも、文章でも、把握の深さ、正確さを求めます。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>検討中</p>	
	参 考 文 献	<p>授業中に指摘する</p>	
評 価 方 法	<p>平常点と二回のテスト。平常点は、予習復習を当然のこととみなしてつけていきます。</p>		
受 講 者 対 する 要 望 等	<p>中英和ぐらいいは持参すること。好きな洋書を独りで読んでいく積極性。</p>		

科 目 名	専 門 講 読 (現代アメリカ短編小説) 26	担当者名	升 水 一 三
-------	-------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	20世紀後半のアメリカ文学では第2次大戦、ベトナムなどを題材にした戦記もの、続いて黒人文学の台頭、ユダヤ系の作家たちの作品群などが目立つが、この講義では比較的新しい短編小説を読むことによって現代アメリカ文学の主流に直接触れる導入にしたい。		
講 義 概 要	下記の短編集には、少年期から思春期を経て大学生へと現代の teenagers の成長段階を追いながら、病気の克服、軍人の父親の基地での生活、母子家庭、性の悩みなどが5人の作家によって巧みに描かれている。Slangy などと敬遠しないで会話表現に慣れることも大切であるう。		
使 用 教 材	テキスト	Stories of American Kids	
	参 考 文 献	参考にする教材など適時プリントで配布する予定。	
評 価 方 法	授業参加への積極性、および前、後期テキストなどによる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	出席重視。必ず予習をすること。		

科 目 名	専 門 講 読 (イギリスの政治、議会制民主主義) 27	担当者名	宮 川 淑
-------	------------------------------	------	-------

講義の目標	第二次世界大戦後、イギリスでは、労働党と保守党の2大政党が交互に政権を担ってきたが、いまは労働党政権でトニー・ブレアが首相をつとめている。ひとつの成文憲法がないイギリスの特徴、ダイアナ死後の王室の存在、変革のさなかにある議会の上院、地方自治の仕組み等、現在の連合王国の政治の概略、さらに議会制民主主義の成立・発展の過程を知る。		
講義概要	前期はイギリスの政治の現況、後期は議会制民主主義の歴史に関する当方で編集した英文文献を訳読する。		
使用教材	テキスト	Introduction to British Politics (当方で準備し配布する)	
	参考文献	宮川淑『地元利益定数は憲法違反』(法学書院)	
評価方法	前・後期の2度の定期試験の成績に日頃の授業での発表を加味して評価する。		
受講者に対する要望など	予習を欠かさないこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. The Monarchy の訳読 2. 同上 3. 同上 4. The Privy Council, Parliament の訳読 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. Her Majesty's Government の訳読 10. Government Departments の訳読 11. Better Government Programme の訳読 12. The Civil Service の訳読 13. Local Government の訳読 14. Pressure Groups の訳読 15. The UK in the European Union の訳読 16. The Rule of Law の訳読 17. Magna Carta, Parliament の訳読 18. 同上 19. 同上 20. Democratic trends in the Middle Ages の訳読 21. A constitutional monarchy and a Bill of Rights, Reform of Suffrage の訳読 22. Chartism の訳読 23. Political Parties の訳読 24. Institutions other than Parliament の訳読 		

科 目 名	専 門 講 読 (英 語 の 読 解 と 漫 談) 28	担 当 者 名	三 好 健
-------	--------------------------------	---------	-------

講 義 の 目 標	<p>昨年W. S. モーム (1874 ~ 1965) を読んだら割に評判がよかった (?) ので、勢いを得て今年度はその続きです。もちろんテキストは違います。ストーリーの面白さと、ヒューモアの味わいと、慣用表現に満ちた、いかにも英語らしい文章という点で、彼の作品は英語の勉強に最適と言ってよいでしょう。読解力の向上が第1の目標であることは言うまでもありませんが、この英語の名手によって書かれた文章を味読することによって、英語の心に触れ、英語を楽しむことができ、なお表現力養成にも役立てられたら、と考えています。</p>		
講 義 概 要	<p>英語の表現に注意を払い、正確に読むことを心がけて精読し、途中味わうべき点や表現力養成に役立つような箇所を、指示します。1回に8ページぐらいのスピードで進みますが、随時学生諸君に発言を求めるので、覚悟して出てくるように。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	W. S. Maugham : "The Mixture as before" (英宝社)	
	参 考 文 献	<p>高見幸郎編 : 「サマセット・モーム」(英潮社) W. S. Maugham : "Of Human Bondage" (「人間の絆」) W. S. Maugham : "The Summing up" (「要約すれば」)</p>	
評 価 方 法	<p>平常の成績と前・後期2回の試験によります。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>遅刻・欠席が好きで、下調べが苦手な学生はおことわり。受講希望者は第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>		

科 目 名	専 門 購 読 (現代アメリカ文学 レイモンド・カーヴァー論) 29	担当者名	村 松 美映子
-------	------------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>Raymond Carver は、わずか 28 年間の作家生活に、数十篇の短編小説を残した。そして、アメリカだけでなく世界各国の現在活躍中の作家や芸術家に影響を与え続けている。作品の共通した特徴として、ありふれた設定、断片的な語り、結論を与えない終わり方があげられるため、Raymond Carver は「ミニマリズム作家」の旗手として評されている。また、彼の卓越した描写力に注目すれば「フォトリアリスト」と考えることもできるであろう。本講義では、晩年の集大成というべき Cathedral を扱い、Raymond Carver の鋭い観察眼と描写力を考えていく。また、後期には Raymond Carver の評論を読み、評論の読み方を考えると同時に、受講者おのおので Raymond Carver 論を語れるようにしていきたい。同時代の作家の作品も適時取り扱う予定である。</p>		
講 義 概 要	<p>講義と作品の精読に加え、適時グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを授業に取り入れる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	Raymond Carver , <i>Cathedral</i> .(New York: Vintage Contemporaries,1989)	
	参 考 文 献	関連の書評や論文は、授業中に配布予定	
評 価 方 法	<p>前期後期試験またはレポートに加え、授業への貢献度を総合的に判断する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>各作品ごとに議論のポイントを記した Study Guide を配布するので、それにそって自宅で作品を読み、考えてきてほしい。Study Guide は教員のホームページ (http://www02.u-page.so-net.ne.jp/fa2/mrmtmrmt/)に掲載されるので、やむを得ず欠席した場合は、これを利用して必ず授業に追いつくようにしておくこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1 . Raymond Carver について 2 . “ Feathers ” 3 . “ Feathers ” 4 . “ Preservation ” 5 . “ Preservation ” 6 . “ Compartment ” 7 . “ Compartment ” 8 . Minimalism とは 9 . “ A Small Good Thing ” “ The Bath ” (プリント教材) 10 . “ A Small Good Thing ” “ The Bath ” (プリント教材) 11 . “ Careful ” 12 . “ Careful ” 13 . “ The Train ” 14 . “ The Train ” 15 . “ On writing ” (プリント教材) 16 . “ On writing ” (プリント教材) 17 . “ Cathedral ” 18 . “ Cathedral ” 19 . “ Fires ” (プリント教材) 20 . “ Fires ” (プリント教材) 21 . “ John Gardner: The writer as a teacher ” (プリント教材) 22 . “ John Gardner: The writer as a teacher ” (プリント教材) 23 . Raymond Carver 論 24 . Raymond Carver 論
----------------------------	---

科 目 名	専 門 講 読 (スコットランド短編集) 30	担当者名	山 田 修
-------	-------------------------	------	-------

講義の目標	<p>普段読んだことのないスコットランドの作品をよみ、何気なく手にした作品についてひきこまれて、終りまで読んでしまうような読書をエンジョイしてもらえればよい。</p>		
講義概要	<p>スコットランドの作家の短編を数編読む。諸君の知らない作家ばかりになると思う。</p>		
使用教材	テキスト	<p>プリント (適当なテキストがあった場合には使用の予定。テキスト使用の場合には、掲示で指示する。)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前・後期の試験及び平常点にて評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講希望者は最初の授業に出席して、名前を確認すること。予習を忘れないうように。</p>		
年間授業計画	<p>毎時間 3 ページ前後。</p>		

科 目 名	専門講読(シェイクスピアの最後の夢を聞く)31	担当者名	山 田 玲 子
-------	-------------------------	------	---------

講義の目標	シェイクスピアの最晩年の戯曲(1611~12)を読みながら、シェイクスピア劇の特色を受講者が感取出来るようになるよう努める。エリザベス朝に独特な語義と文の構成に慣れ、正確に内容を把握しながら作品鑑賞することを目標とする。これを機に、受講者が、観劇のよこびをその生活の中に取り入れられるとよいと思う。		
講義概要	毎時テープを聞く。次第に読み馴れるように配慮し、150行づつ読み進むことにして、作者が単独で書いた戯曲としては、最終の作品の罪と許しのテーマを味わう。劇の中に溶けこんでいる歌と音楽を楽しみたい。		
使用教材	テキスト	William Shakespeare : "The Tempest" (研究社詳注シェイクスピア双書)	
	参考文献	語に関して、1 . A. Schmidt, "Shakespeare - Lexicon", 2vols., Reimer 2 . C. T. Onions, "A Shakespeare Glossary", Oxford U. P. 文法に関して、1 . E. A. Abbott, "A Shakespearian Grammar", Dover 2 . 大塚高信「シェイクスピアの文法」(研究社) 他の参考図書については、教室で述べる。	
評価方法	評価は年に二度の試験と、一度の観劇レポートの提出、及び、平常の授業への参加度による。		
受講者に対する要望など	精読に耐え得る根気と努力。舞台公演を観ること。		
年間授業計画	1 . オリエンテーション 2 . テキストの進み方に応じて、各授業で問題点を指示する。 13 . テキストの進み方に応じて、各授業で問題点を指示する。		

科 目 名	専 門 講 読 (英 米 文 化) 32	担 当 者 名	山 本 英 政
-------	------------------------	---------	---------

講 義 の 目 標	前期は、マイノリティーのことを、後期では銃にたよるアメリカ人のことを、扱う。		
講 義 概 要	アメリカの文化的な特徴の中で、私が特に興味をもつのは「多様さの中の統一」、そして「自立の精神」である。後者は、「自衛の精神」と置き換えることもでき、それは近年取り質されている銃社会としてこの国が抱える大きな問題に通じる。ここでは、前期にマイノリティーのこと、後期に銃所持のことを扱う。		
使 用 教 材	テキスト	プリント	
	参考文献		
評 価 方 法	定期試験、普段点、レポート		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	初回から授業に出席すること		
年 間 授 業 計 画	<p>二つのテーマをさらに次のように分化する。</p> <p>マイノリティー 黒人 モハメッド・アリ ゲイ ハーヴィー・ミルク</p> <p>銃所持とその背景 未開地（フロンティア） 銃による犯罪</p> <p>授業の構成は、はじめに解説、文献の理解、映像の鑑賞、で理解を深める。</p>		

科 目 名	専 門 講 読 (英 語 学) 33	担 当 者 名	D . R . カ ー ギ ー
-------	----------------------	---------	-----------------

講 義 の 目 標	This course provides the student with an opportunity to gain a deeper appreciation for language and linguistics in general, and for English in particular.		
講 義 概 要			
使 用 教 材	テ キ ス ト	To be announced.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	Final grades are based on attendance, classwork, homework, mid-term presentation, and final presentation. (Presentation format depends on class size.)		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	The 45 students seated in the desks nearest the front will be selected for the course. (One student per desk, Please)		
年 間 授 業 計 画	To be announced.		

科 目 名	専 門 講 読 (英・米文学) 34	担当者名	E . カ ー ニ ャ
-------	--------------------	------	-------------

講 義 の 目 標	This course aims to encourage students to read good short stories for study, for vocabulary learning, and for sheer pleasure.		
講 義 概 要	The stories are chosen for their active ingredients; thought-provoking, stimulating, and educational. Students will be invited to discuss the material and should be able to meet a challenge quiz on each story. We are also concerned with the writer's style, technique, and reader appeal. What the writer says between the lines must be given important consideration, too.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Short story prints of Roald Dahl, Stephen King, Ray Bradbury, and others.	
	参 考 文 献	Dahl's "The Visitor", "Bitch", "The Great Grammatizator", etc. King's "Quitters", "Mrs. Todd's Shortcut", "The Ledge", etc. Excerpts from Bradbury's "The Martian Chronicles", etc.	
評 価 方 法	Grading will be in the form of quizzes for each story. Students can gain supplementary bonuses by writing 'intelligent comments' and doing some supplementary research.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Students will be chosen by means of a short quiz.		

科 目 名	専 門 講 読 (アメリカ文学) 35	担当者名	M . A . シブル
-------	---------------------	------	-------------

講 義 の 目 標	<p>The course is intended for students with a serious interest in literature and the basic skills to read and discuss a work of fiction in English. The goal is to help them improve their vocabulary and other reading skills and also gain a deeper insight into American culture and values. I will select students during the first class by a drawing.</p>		
講 義 概 要	<p>The short story is a uniquely American art form and Salinger was a master storyteller. Class time will be spent in discussions of some of his very best. Students are expected to carefully study the assigned text and be prepared each week to discuss the contents and background of the reading.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>J.D.Salinger, <i>Nine Stories</i>. Little Brown Books (London, 1981).</p>	
	参 考 文 献	<p>Glossary and discussion questions provided by instructor. Students should bring to class a good paperback edition of a dictionary designed for native adults such as <i>The Merriam Webster Dictionary</i>, <i>The American Heritage College Dictionary</i> or <i>The Random House Dictionary of the English Language</i>.</p>	
評 価 方 法	<p>Grades will be based on attendance, active participation during weekly discussions, quizzes and the term and final reports.</p>		
受 講 者 対 する 要 望 など			

科 目 名	専 門 講 読 (英 語 文 化) 36	担 当 者 名	N . H . ジ ョ ス ト
-------	------------------------	---------	-----------------

講 義 の 目 標	<p>This course provides students with an overview of the English language. It will survey some of the topics related to the structure of English, the uses of English, and the history of English. It will look at the future of English and how it is becoming a world language. One of the main objectives of this course is to illustrate the fact that the English language is always changing and evolving; another is to help students gain better understanding and appreciation for the English language.</p>		
講 義 概 要	<p>One chapter will be covered every two weeks. This will constitute of about 8 to 10 pages of reading per lesson. Key questions concerning the chapter will be presented prior to reading, and students will be required to write out the answers to those questions. Review sheets and vocabulary lists will be made available. The class will follow a lecture format with time allowed for student comments and discussions.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	The English Language by David Crystal, Published by Penguin Books.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>Grades will be based on attendance, class participation, completion of handouts, quizzes and the final exam.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>A high intermediate to advanced level of English proficiency is required for this course as is a keen interest in learning about the English language.</p>		

- 1 . The stucture of English.
- 2 . Grammar and you.
- 3 . Vocabulary.
- 4 . How large is your vocabulary?
- 5 . Pronunciation.
- 6 . Received pronunciation.
- 7 . Spelling.
- 8 . Spelling reform.
- 9 . The Uses of English.
- 10 . Language Variety.
- 11 . Trucker talk.
- 12 . English at Play.
- 13 . Sound symbolism.
- 14 . Personal English.
- 15 . Statistical Laws.
- 16 . The History of English
- 17 . Old English
- 18 . Middke English
- 19 . Early Modern English
- 20 . English Around the World
- 21 . British and American English
- 22 . English Today.
- 23 . English Tomorrow.
- 24 . Final Exam.

科 目 名	専 門 講 読 (英 語 学) 37	担 当 者 名	T . ヒ ル
-------	----------------------	---------	---------

講 義 の 目 標	To explore some of the misconceptions about language and, in so doing, to provide an introduction into the way language works.		
講 義 概 要	In this class we will read the text together, and students will be given opportunity to discuss the issues raised.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<i>Language Myths</i> , L. Bauer and P. Trudgill. Penguin Books	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	Grades will be based on attendance, class participation, the writing of a number of papers, and semester tests.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	An intermediate to advanced level of English proficiency is required for this course		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction and course explanation 2 . The meanings of words should not be allowed to change 3 . Some languages are just not good enough 4 . The media are ruining English 5 . French is a logical language 6 . English spelling is catastrophic 7 . Women talk too much 8 . Some languages are harder than others 9 . Children can't speak or write properly any more 10 . In the Appalachians they speak like Shakespeare 11 . Some languages have no grammar 12 . Review 13 . Italian is beautiful, German is ugly 14 . Bad grammar is slovenly 15 . Black children are verbally deprived 16 . Double negatives are illogical 17 . TV makes people sound the same 18 . You shouldn't say 'It is me' because 'me' is accusative 19 . They speak really bad English in New York city 20 . Some languages are spoken more quickly than others 21 . Aborigines speak a primitive language 22 . Everyone has an accent except me 23 . America is ruining the English language 24 . Review 		

科 目 名	専 門 講 読 (英 米 文 化) 38	担 当 者 名	W.J.ベンフィールド
-------	------------------------	---------	-------------

講 義 の 目 標	The course aims to introduce students to the pleasures and difficulties of tackling a major full-length novel in English. As well as providing extensive practice in reading English, the novel will also raise many wider questions about life and society that we will investigate in class.		
講 義 概 要	Each week we will look at a chapter of the novel in class. There will be both comprehension exercises and discussions of some of the wider issues raised by the book.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	'Lord of the Flies,' William Golding, Faber and Faber (230 pages). First published in 1954, this novel deals with a group of English schoolboys who are stranded on a desert island after a plane crash and how they react to their new life without any adult supervision. It is one of the best-known English novels of the 20 th century and the British author, William Golding, won the Nobel Prize for Literature in 1983.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	There will be a test at the end of each semester. Attendance and participation in class will also be taken into account when awarding the final grade.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Introduction to the author and background of the book.
- 2 . Chapter 1 - The Sound of the Shell
- 3 . Chapter 1 contd.
- 4 . Chapter 2 - Fire on the Mountain
- 5 . Chapter 2 contd.
- 6 . Chapter 3 - Huts on the Beach
- 7 . Chapter 3 contd.
- 8 . Chapter 4 - Painted Faces and Long Hair
- 9 . Chapter 4 contd.
- 10 . Chapter 5 - Beast from Water
- 11 . Chapter 5 contd.
- 12 . Chapter 6 - Beast from Air
- 1 . Review of first term's work
- 2 . Chapter 7 - Shadows and Tall Trees
- 3 . Chapter 7 contd.
- 4 . Chapter 8 - Gift for the Darkness
- 5 . Chapter 8 contd.
- 6 . Chapter 9 - A View to a Death
- 7 . Chapter 9 contd.
- 8 . Chapter 10 - The Shell and the Glasses
- 9 . Chapter 10 contd.
- 10 . Chapter 11 - Castle Rock
- 11 . Chapter 11 contd.
- 12 . Chapter 12 - Cry of the Hunters

科 目 名	英 作 文 1,2	担当者名	秋 山 武 夫
-------	-----------	------	---------

講義の目的	文法が正確なばかりでなく、達意の文を書けるように努める。		
講義概要	毎回課題を出して、文を書いてもらう。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度指定する。	
評価方法	出席、提出した作文、及びテスト。		
学生に対する要望など	良い文を書くためには、多くの英文を読み暗誦してほしい。受講者数が制限されているので、第1回目の授業で選考します。		
年 間 授 業 計 画	1 .	その都度指定する。(たとえば、"Tree"、"Cooking"、"Dancing"、"Singing" など。)	
	2 .		
	3 .		
	4 .		
	5 .		
	6 .		
	7 .		
	8 .		
	9 .		
	10 .		
	11 .		
	12 .		
	13 .		
	14 .		
	15 .		
	16 .		
	17 .		
	18 .		
	19 .		
	20 .		
	21 .		
	22 .		
	23 .		
	24 .		

科目名	英作文3	担当者名	喜田慶文
-----	------	------	------

講義の目標	英語のエッセイライティングの基礎能力の上に日本語特有の表現を自然な英語で書ける能力を養う		
講義概要	英語の基礎文法、英文構成法を学習しながら日本語に特有な表現に対応する英語の表現方法を学ぶ。		
使用教材	テキスト	英文構成法(成美堂)	
	参考文献		
評価方法	出席率、宿題提出、クラスへの参加度、小テスト、期末テスト (20%) (20%) (15%) (15%) (30%) 但し、理由のいかんを問わず授業回数の2/3以上の出席がなければ不可。		
受講者に対する要望など	毎回必ずH.W.の英作文を提出すること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作文演習の方法 2. 句と節; 作文演習 3. 文; 作文演習 4. 英文構成の基礎 5. 名詞; 作文演習 6. 冠詞; 作文演習 7. 形容詞; 作文演習 8. 自由作文 9. 副詞; 作文演習 10. 比較; 作文演習 11. 代名詞; 作文演習 12. 関係代名詞; 作文演習 13. 小テスト; 解説 14. 時制; 作文演習 15. 助動詞; 作文演習 16. 不定詞、動名詞; 作文演習 17. 自由作文 18. 完了形; 作文演習 19. 仮定法; 作文演習 20. (分詞構文) 文接続; 作文演習 21. (代名詞) 文接続; 作文演習 22. (接続詞) 文接続; 作文演習 23. (パンクチュエーション) 文接続; 作文演習 24. 小テスト、解説 		

科 目 名	英 作 文 4	担当者名	近 藤 ヒカル
-------	---------	------	---------

講義の目標	<p>英作文とは、日本語を「英語らしい」表現に変える操作のことである。そのため講義概要にあるように、様々なジャンルにわたってその方法論、そして実践という手順で授業を展開したいと思っている。構成員が未修の場合は公文書や商業通信文などの書式による英文構成法も取り上げる。</p> <p>また英作文には、英文を「日本語らしい」表現で表すという、Pidgin English (誤った英語とは言えない、英語の新しい表現) の分野があるので、これも追求したい。</p>		
講義概要	<p>まず日本語を「英語らしい」表現に変える操作として、(1) 情緒性ある童話や短編小説などの翻訳を試みる、(2) 「社会科」的な叙述の翻訳のジャンルを試みる、(3) Encyclopaedia Britannica に代表される論文体の翻訳を追及する。</p> <p>また英文を「日本語らしい」表現で表すという前人未踏の分野を、いわゆる Japanese English の分析を通じて何らかの方向性を見出したいと思っている。</p>		
使用教材	テキスト	プリント	
	参考文献	<p>「研究社大和英辞典」 - これ以外に良い和英辞書は見当たらない。Encyclopaedia Britannica、Cobuild Dictionary、Illustrated Dictionary 等も参考になる。</p> <p>また英文の「日本語らしい」表現の分野では、本名信行編「アジアの英語」等。</p>	
評価方法	テストとレポートによる。出席は絶対条件とする。		
受講者に対する要望など	この科目は、受講上限が 40 名であるので、第一回目の授業でペーパーテストにより人数確定をする。とくに「日本語らしい」表現の分野に興味のある学生を望む。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情緒性のある童話・短編小説などの翻訳の方法論 2 ~ 6. その実践 7. 社会科的な叙述の翻訳の方法論 8 ~ 13. その実践 14. 論文体文章の翻訳の方法論 15 ~ 20. その実践 21 ~ 24. 英文の「日本語らしい」表現の追及 		

科目名	英作文5	担当者名	島田啓一
-----	------	------	------

講義の目標	<p>英語らしい英語を書けるようになるには、とにかく自分の意志を伝える英語を書き、それをコミュニケーションの過程で他の人が書いた英語と比較、分析して、英語らしい表現方法を「盗んでいく」ことが最も必要と考える。この授業ではコンピュータ教室を使い e-mail を利用して国内、海外の人々と英語の文通を年間を通して行い、その成果をホームページで発表する。また後期にはインターネットを利用して各々がテーマを決めてリサーチを行い、その結果を英文のホームページとして発表する。</p>		
講義概要	<p>上記の目標を達成するため、前期前半はワープロ、e-mail、エディタ、ブラウザなどのソフトの使い方とファイル管理の仕方を学ぶ。同時に key pal を探して、e-mail の文通を開始する。後半は簡単な HTML を学び、文通結果の発表を行い、英文を批評しあう。後期はネットサーフィンによるリサーチを試み、ハイパーリンクを効果的に使った英文ホームページ作成に挑戦する。(パソコン操作はできなくてもかまわないが、ブラインド・タッチのタイピングを前期前半中にできるようになることを受講要件とする。) 受講許可者は最初の授業の開始時に抽選で決定します。「英語 (パラ)」を履修した者は登録できないので注意して下さい。</p>		
使用教材	テキスト	Web 上のホームページなどをその都度指定する。	
	参考文献	<p>獨協大学情報センター編『コンピュータ入門』(獨協大学情報センター) Duo で購入できます。</p> <p>島田ゼミホームページに昨年度の「英作文」のページ (http://www2.dokkyo.ac.jp/~e-semi006/others/comp.htm) がありますので参照して下さい。</p>	
評価方法	<p>前期・後期のレポート(70%)と、出席点、不定期に科す宿題・課題を含む平常点(30%)の予定。(出席を重視します。)</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講希望者は最初の授業に 3.5 インチ 2HD フロッピーを 1 枚持参すること。授業時間外のコンピュータでの作業にかなり時間がとられることを覚悟すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 授業の内容と進め方の説明。パソコンの基本操作説明(1): Eudora と Netscape 入門。Dave's ESL Café への登録。</p> <p>2. パソコンの基本操作説明(2): Word のスペルチェック機能、ファイルの保存の仕方。Eudora と Netscape の操作。英文 e-mail の作成。</p> <p>3. パソコンの基本操作説明(3): Eudora と Netscape の操作。エディタの操作。ファイル管理の仕方。</p> <p>4. パソコンの基本操作説明(4): Eudora と Netscape の操作。エディタの操作。ファイル管理の仕方。簡単な HTML ファイルの作成。</p> <p>5. パソコンの基本操作説明(4): エディターの操作。ファイル管理の仕方。HTML による e-mail 交換の中間報告(1) など。</p> <p>6. パソコンの基本操作説明(5): エディターの操作。ファイル管理の仕方。e-mail の交換と英文の批評など。</p> <p>7. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。</p> <p>8. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。HTML による e-mail 交換の中間報告(2) など。</p> <p>9. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。</p> <p>10. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。</p> <p>11. e-mail の交換と英文の批評など。HTML による e-mail 交換の前期報告レポートの作成、提出など。</p> <p>12. e-mail の交換と英文の批評など。HTML による e-mail 交換の前期報告レポートの改訂更新、提出など。</p> <p>13. 前期報告レポートの批評と最終評価。Netscape の操作(Bookmark, Cache, ファイルや画像の保存など)。e-mail による文通の再開。</p> <p>14. Netscape(検索エンジンなど) エディタの操作と HTML 入門。後期のプロジェクトのテーマを決めてのネットサーフィンの開始。</p> <p>15. Netscape(検索エンジンなど) エディタの操作と HTML 入門。ネットサーフィン。</p> <p>16. Netscape(検索エンジンなど) エディタの操作と HTML 入門。後期プロジェクトの中間報告(1)</p> <p>17. 後期プロジェクトの中間報告(1)の批評と評価。</p> <p>18. 少し高度な HTML 入門。後期の e-mail 交換の中間報告。</p> <p>19. 少し高度な HTML 入門。後期の e-mail 交換の中間報告の批評、評価。</p> <p>20. 少し高度な HTML 入門。</p> <p>21. 少し高度な HTML 入門。後期プロジェクトの中間報告(2)の提出。</p> <p>22. 後期プロジェクトの中間報告(2)の批評と評価。</p> <p>23. 後期プロジェクトの最終報告の提出。</p> <p>24. 後期プロジェクトの最終報告の批評と評価。最終報告の改訂更新版の提出。</p>
----------------------------	---

科 目 名	英 作 文6	担当者名	須賀川 誠 三
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	和文英訳でなく、英語で考え、英語らしい表現ができるようになるための技法を学ぶことを目的とする。具体的には、英語の思考方法、説明・論述文を整理し、パラグラフ構成法、短いエッセイの書き方へと展開していく。		
講 義 概 要	基本的なこととして、文構造・語法・句読点の使い方、効果的な文の書き方など一通り扱う。次に、paragraph writing についての基本的理論と実際について学んでいく。実践的な面では、レポート・論文の書き方の実際に触れ、短いエッセイ、自由英作文を随時課す。		
使 用 教 材	テキスト	西村・永吉・P. M. ケリー共著『思考力養成の英語パラグラフィティング』英宝社	
	参考文献	T. Womack / 三浦新市『現代英文の構成と語法』(英文) 研究社 (副読本としても使用するので、購入することが望ましい。1500 円位)	
評 価 方 法	前期試験、後期レポート、および平常点による。出席も評価に関係する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	受講希望者は第 1 回目の授業に出席し、受講の承認を必ず得ること。定員(40 名)を超えた場合は抽選とする。英英辞典を用いることを薦めたい。英作文は実践が重要なので、毎時間必ず出席することが望ましい。		

年 間 授 業 計 画	1. 授業の方法・学習方法などのガイダンス・語法診断テスト。
	2. (副教材使用) Effective Sentences 1. Unity, 2. Coherence
	3. (") 同 章 3. Emphasis 4. Variety
	4. (") Common Sentence Errors 1. Sentence Fragments 2. Comma Faults & Run-on Sentences
	5. (") 同 章 3. Misplaced Modifiers 4. Dangling Modifiers
	6. (") 同 章 5. Shifts in Point of View 6. Ambiguous Reference of Pronouns
	7. (主教材) Part 第1章 文章を書くための準備 Exx. A ~ F
	8. 第2章 文章の見本を観察 例題 e.g.1
	9. 同 章 Exx. A. [1], [2]
	10. 第3章 推敲 Exx. A. [1]
	11. 同章 Exx. A. [2]
	12. 第4章 英語の思考方法 例題 p.40 A, pp.41 ~ 42 A ~ C
	13. 同章 つなぎ語, その種類と役割
	14. 同章 Exx. A ~ E 自由英作文 (課題 E による)
	15. Part 第1章 分類・区分 Exx. A, B
	16. 第2章 比較・対比 例題 15
	17. 同 章 例題 16 Exx. A ~ C
	18. 第3章 定義をする 例題 18 Exx. A ~ C 自由英作文 (C)
	19. 第4章 例を示して説明 例題 20 Exx. A, B
	20. 第5章 原因と結果 Exx. A, B のみ
	21. 第6章 意見の理由 Exx. A ~ D
	22. 第7章 問題の解決法 Exx. A ~ C (D, E 略)
	23. 第8章 プロセスを説明 Exx. A ~ D (レポート課題発表)
	24. 一年間の総まとめ

科 目 名	英 作 文 7	担当者名	園 部 明 彦
-------	---------	------	---------

講義の目標	<無理遣り通じさせる文> から <良質の文> を目指す。添削後の答案から、どのような文が <良い文>なのか、各自、認識してもらいたい。		
講義概要	授業では、明らかに不適切な表現はその場で指摘するが、多人数であるため、細部まで見ることは残念ながら不可能である。従って、時間終了後に、答案を回収し、次回までに添削、評価して返却する。なお、例年、特に前期は不慣れなためか成績が思わしくないで、これを補う意味で、授業とは別に自宅学習として何度か課題を出す予定。		
使用教材	テキスト	毎回、新聞のコラム等から選んだものをプリントして、配布する。	
	参考文献		
評価方法	評価法は、一回 10 点満点として、その合計点が成績となる。そのため、欠席は非常に不利になる。遅刻は認めないのも例年通り。		
受講者に対する要望など	語学は毎回の積み重ねが重要であるので、<レポート>などという姑息な手段は通用しない。辞書は必ず用意してもらいたい。なお、40 名が上限なので、一回目の授業で抽選を行なう。		
年間授業計画	<p>新聞等から適宜選ぶ教材のため、ここで具体的に示すことは出来ない。但し、テーマとしては、<大学教育>、<政治>、<世相> 等を考えている。なにかテーマについて希望があれば、遠慮なく申し出て欲しい。参考のため、例をひとつあげておく。</p> <p>このたびの東海村のウラン工場における原子力事故では、その直後の放射能レベルは通常値の 4000 倍にも達していたといわれ、作業員 3 名が病院に運ばれ、周辺住民 150 名に避難勧告が出されるといわが国最大規模の事故となった。さらに今後調査が進むにつれ、被害規模が拡大していくことが懸念される。この事故はむしろ人為的ミスによると見られているが、通常このような施設には、指摘されているミスを自動的にチェックする機能が設置されていなくてはならず、その機能を持たない施設を許可した国の責任も厳しく追及されなくてはならないだろう。</p>		

科 目 名	英 作 文 8	担当者名	中 村 粲
-------	---------	------	-------

講義の目標	和文英訳のコツと書き方を教え、実作を通して体得してもらう。 第一回目の授業に於て最前列から着席順に 40 名まで受講を許可する。		
講義概要	前期は基本的文法事項を応用した和文英訳を、後期は文法応用をはなれた実戦和文英訳の練習をする。 毎回、学生に板書させ、それを直し、解答例を紹介する。		
使用教材	テキスト	プリント。	
	参考文献		
評価方法	平素の勤怠。定期試験。		
受講者に対する要望など	始業時に大きな声で挨拶をする。毎回、他所では聞くことのできない重要な説明をするので、遅刻、欠席せずに真剣に受講すること。		
年間授業計画	1. 授業の概要説明等。 2. 文法応用和文英訳 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. " 13. 実戦的和文英訳 14. " 15. " 16. " 17. " 18. " 19. " 20. " 21. " 22. " 23. " 24. "		

科目名	英作文9	担当者名	藤田永澗
-----	------	------	------

講義の目標	必要に応じて適切な単語や語句を使うには、それなりの蓄積が要求されます。文の組み立て方、文と文のつなぎ方を習得するには文法の基本を消化したかたちで心得ていることが必須条件です。英文を読んでいる時色々な要領を吸収できる能力を身につけることはとても大切だと思います。弱点を一つ一つ克服しようとする熱意がなければ進歩しません。		
講義概要	受講上限人数が決められているので、1回目の授業で、短い文章を辞書を使って訳してもらい、意欲のない答案を記した学生は受け入れない方法をとります。テキストにそった実習と、3・4回の授業で1回くらい、エッセイとか短詩とかを訳してもらい授業に変化をつけます。		
使用教材	テキスト	検討中	
	参考文献	折々紹介する	
評価方法	平常点と年二回のテスト		
受講者に対する要望など	例文が沢山のった辞書を持参すること。出席率は熱意のバロメーターとみなします。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の心得、授業内容の説明、質問への受け答え 2. 和文英訳の実習 3. 和文英訳の実習 4. 提出してもらったレポートの中で優れたものをコピーして全員に配布し、検討する。 和文英訳の実習 5. 和文英訳の実習 6. 和文英訳の実習 7. 和文英訳の実習 8. 和文英訳の実習 9. 和文英訳の実習 10. 和文英訳の実習 11. 和文英訳の実習 12. 名詞構文を中心とした英訳の実習 13. 名詞構文を中心とした英訳の実習 14. 名詞構文を中心とした英訳の実習 15. 文と文のつなぎ方を習得するための実習 16. 文と文のつなぎ方を習得するための実習 17. 文と文のつなぎ方を習得するための実習 18. 発想のちがいの習得のための実習 19. 発想のちがいの習得のための実習 20. 発想のちがいの習得のための実習 21. 発想のちがいの習得のための実習 22. 総括 23. 総括 24. 総括 		

科 目 名	英 作 文 10	担当者名	三 好 健
-------	----------	------	-------

講 義 の 目 標	日本語と英語は発想の仕方が大きく違うので、英語を書くときには、その違いを知っていることが、読むとき以上に大切です。日本語と英語の相違点を研究して、文法を無視しないで、できるだけ英語らしい表現を身につけようとするのが、この授業のねらいです。		
講 義 概 要	テキストにそって、まず例文を読んで語法と表現形式を調べ、あとに続く語法と和文英訳の練習問題に答えることによって勉強します。一回の授業で一課づつ進みますが、毎回受講者のひとりひとりに発言を求めるので、下調べが必要となり、かなり面倒な授業です。そのかわり、マジメにやれば力がつくこと請け合いです。なお、万一希望者数が定員（40名）を超えたときは、諸君と相談の上善処します。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	“Good Japanese into Good English”（成美堂）	
	参 考 文 献	各種英和・和英辞書	
評 価 方 法	平常の成績と年2回の試験によります。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	遅刻や欠席が好きで、下調べが嫌いな学生には適しません。受講希望者は、第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主語の選び方 2. 英語特有の主語構文 3. 名詞と冠詞の生かし方 4. 表現を豊かにする形容詞 5. 動詞の文型(1) 6. 動詞の文型(2) 7. 自動詞か他動詞か 8. 使役動詞の使い方 9. 日本語、英語の態のちがい 10. 助動詞による英語の発想 11. 和文英訳と英語の時制 12. 仮定法の生かし方 13. 他人のことばを伝える話法 14. 前置詞(副詞) と慣用句 15. 副詞の位置 16. 比較・程度の示し方 17. 否定の構文 18. 語句や文を結ぶ接続詞 19. 考えをまとめる関係詞 20. 口語表現の訳し方 21. 文学作品と随筆文の訳し方(1) 22. 文学作品と随筆文の訳し方(2) 23. 文学作品と随筆文の訳し方(3) 24. 文学作品と随筆文の訳し方(4)
----------------------------	---

科 目 名	英 作 文 11	担当者名	渡 邊 美代子
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>パラグラフ・ライティングは、思考を論理的に組み立て、アイデアを表現するための有効なコミュニケーションの手段があるが、その構成には一定の制約が課せられており、日本語の段落とは大きく様相を異にする。このコースでは、英語における基本的な文章の構成法を習得し、構造的、内容的にきちんとしたパラグラフが書けるようになることを目標とする。パラグラフ構成演習を通して、理論をうちたてる能力が培われることを期待したい。</p>		
講 義 概 要	<p>英語の文章における情報の構成方法を習得する。パラグラフやエッセイの構成、トピックセンテンスの役割、内容整理のためのアウトライン、パラグラフの種類等について学ぶ。また、より効果的な文章を書くために、強調、簡潔、説得方法などについても学習する。テキストに沿って進めていく。与えられたテーマで、実際にパラグラフをいくつか書いてもらう。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p><i>Basic Writing Strategies</i> S. K. Kitao & K. Kitao, 英潮社</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>前・後期試験の結果、提出物、平常点を考慮して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>予習して授業に臨むことが原則である。提出物はなるべくワープロで作成するようお願いしたい。履修希望者数が受講上限人数を超える場合は、試験等によって決定する。履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Course Introduction and Outline. 2 . Writing Sentences 3 . Sentence Combining (1) 4 . Sentence Combining (2) 5 . Making Referents Clear 6 . Using Words to Connect Ideas 7 . Parallel Construtions 8 . Using Verb Tenses Correctly 9 . Using Modifiers 10 . Parts of Paragraphs 11 . Types of Organization (1) 12 . Types of Organization (1) & (2) 13 . Review of Exam 14 . Types of Organization (2) 15 . Topic Sentences 16 . Pre-Writing Steps 17 . Outlining 18 . From Paragaphs to Essays 19 . Emphasis 20 . Avoiding Sexist Langauges 21 . Figures of Speech 22 . Making Writing More Concrete 23 . Writing about Time 24 . Review
----------------------------	--

科 目 名	エッセイ・ライティング1	担当者名	飛 田 ル ミ
-------	--------------	------	---------

講義の目標	本講座では、エッセイを書くにあたって必要と考えられるスキルを効果的に習得することを目的とする。具体的には、与えられたタスクに対して様々な表現法で自分の考えを提示できるストラテジーを意識して、エッセイの基礎となるパラグラフの書き方を段階的に学習し、最終的に本格的なエッセイへと発展させるスキルを身に付けることが理想である。		
講義概要	学習者の基礎英語能力を工夫して、無理なくレベルアップできるように、各種のパラグラフを取り上げ、練習問題を行ない、自然な英語で文章を書くための方法を指導する。また課題レポート等について、クラスでディスカッションを行うことにより、パラグラフを書く際に多く見られる誤りを指摘していく。 なお、この科目は受講上限人数が決められているので、第1回目の授業において、英作文テストにより選考を行う。		
使用教材	テキスト	From Paragraphs to Essays 『パラグラフからエッセイへ』英潮社	
	参考文献	授業にて指示。プリントも配布する。	
評価方法	前・後期末課題レポート、授業における課題、及び平常点（出席状況、授業中の活動状況等）を総括して評価する。		
受講者に対する要望など	予習及び発表が課されるので、授業に対する積極的な態度を必要とする。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction：授業内容、評価方法の解説 2. Chapter 1：The English Paragraph 3. Chapter 2：Main Ideas and Topic Sentences 4. Chapter 1と2の復習 5. Chapter 3：Transitions in Paragraph 6. Chapter 4：Description and Illustration 7. Chapter 5：Classification and Analysis 8. Chapter 3、4、5の復習 9. Chapter 6：Cause and Effect 10. Chapter 7：Comparison and Contrast 11. Chapter 8：Personal Opinion and Problem - Solution 12. Chapter 6、7、8の復習 前期のまとめ 13. 前期末レポートのフィードバック 14. Chapter 9：From Paragraph to Essays 15. Chapter 10：Comparison and Contrast 16. Chapter 11：Analysis 17. Chapter 9、10の復習 18. Chapter 12：Cause and Effect 19. Chapter 13：Cause and Effect 20. Chapter 11、12、13の復習 21. Chapter 14：Classification 22. Chapter 15：Personal Opinion 23. Chapter 16：Problem - Solution 24. Chapter 14、15、16の復習、後期のまとめ 		

科 目 名	エッセイ・ライティング 2, 3	担当者名	E . カ ー ニ ャ
-------	------------------	------	-------------

講 義 の 目 標	This programme is aimed primarily at having the students produce good, clear, error-free English. Also, we want to find better ways to organize and to express well. Coherence and balance are target items in all writing work.		
講 義 概 要	Classes will give time for the appreciation of the subjects about which the students will write and this will include some discussion. Advice will be given on simple construction and the importance of clarity in communicating ideas. Set pieces will be used as sample work and students will be asked to match their own ideas with these and express themselves accordingly. Punctuation, good expression, and awareness of the reader's needs will all be covered. There will be at least one writing task per week to give students the chance to show that they have grasped the explanations in class.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Prints and videos.	
	参 考 文 献	Brit-think. Ameri-think. Jane Walmsley Creative Writing Mind the Stop G.V. Carey	
評 価 方 法	All papers are graded(weekly assignments). Where necessary, students will be asked to write a final report. 1st Term report: July(date to be announced) 2nd Term report: December(date to be announced)		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Students will be chosen by means of a short essay they will be asked to write. The subjects for the essay will be given at the first class meeting.		

年 間 授 業 計 画	<p>Class 1. a. introduction of methods and class practice b. written piece for evaluation(' think' item selection)</p> <p>Class 2. Basic errors in construction...adjective and noun control in relation to article use.</p> <p>Class 3. Punctuation...good comma use and bad use of similar stops...the comma stressed as a communication tool.</p> <p>Class 4. Direct and indirect speech and the necessary punctuation. A survey on individual tendencies in pieces written so far.</p> <p>Class 5. Ambiguity. Writing with awareness of meaning intended and meaning received.</p> <p>Class 6. Paragraph effectiveness to suit all needs. Writing as a reader of one' s own work.</p> <p>Class 7. 1 . the relative pronoun and the related pitfalls 2 . some absurdities in singular and plural use.</p> <p>Class 8. Continuation of the ' plural' theme...difficulties with ' each' and the use of ' everyone' and ' his or hers'.</p> <p>Class 9. Descriptive writing. Some established works compared. How to make adjectives do the work in descriptive pieces.</p> <p>Class 10. Introductions and endings...summaries and conclusions...the open ending.</p> <p>Class 11. Writing a short short story and including all the work we have covered so far.</p> <p>Class 12. Balanced writing...the sweeping statement and ' narrow-minded' attitudes in producing biased writing.</p> <p>Class 13. Comparing what you have actually said in your writing to what you really intended to say.</p> <p>Class 14. Variations in presenting ideas in documentary and fictional pieces. Some prime examples studied.</p> <p>Class 15. Letter writing. a)person to person, b)business, c)other letters, notes, job applications, forms, etc.</p> <p>Class 16. Conciseness in documentary writing, A Look at the range of meaning of the word 'academic'.</p> <p>Class 17. The short story. Bringing the ideas into line and checking on sequence in time and action.</p> <p>Class 18. Implied nuance and ambiguity revisited. Ambiguity as a starter for the awareness of humour in writing.</p> <p>Class 19. Economy of expression. reducing length and avoiding verbosity and superfluous expression. A look at repetition and padding.</p> <p>Class 20. Criticism. Analysis of subject with a view to writing a criticism. The value of discussion of your topic prior to writing.</p> <p>Class 21. The anecdote as a good short form of interesting expression. Producing some written anecdotes.</p> <p>Class 22. E. B. White and his power of humorous understatement. Writing with a view to being taken seriously, and then not so seriously.</p> <p>Class 23. Creative expression...ranges and limitations. Creative writing and the modern video.</p> <p>Class 24. Recapitulation, recrimination, and pooled suggestions.</p>
----------------------------	---

科 目 名	エッセイ・ライティング 4	担当者名	E. ラトリッジ
-------	---------------	------	----------

講義の目標	To learn the basics of academic prose-writing. To learn how to observe and record one's environment clearly, honestly, and objectively. To learn how to think about our world critically, and to communicate one's ideas to others through writing.		
講義概要	In class : "free-writing," Grammar Clinic, one-to-one conferences with the teacher, keeping a journal about the class, group projects, and a variety of skill-building activities. Out of class : four essays, including one or more revisions; reading assignments (text or model essays)		
使用教材	テキスト	Claudia Sorsby, "Grammar 101," St Martin's Paperbacks, 1996.	
	参考文献	Strunk and White 「英語文章ルールブック」 "The Elements of Style," Aratake Shuppan, 1985 Random House Webster's "Basic Dictionary of American English," 1998	
評価方法	Attendance, participation, completion or homework:50%(approx.) essays and revisions:40%(approx.) journal:10%(approx.)		
受講者に対する要望など	Students taking this course must agree to keep their cell phones off and out of sight during class.		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction and Explanation of the course Description of People 2 . Description of Places Starting the Classroom Journal 3 . Observing Change over time Essay 1 due How to use the Dictionary 4 . One-to-one Conferences "Grammar 101" 5 . One-to-one Conferences "Grammar 101" 6 . One-to-one Conferences Song : " Nothing But Flowers" 7 . Writing a Class Poem Essay 1 Revision due 8 . Narration (Essay 2) due 9 . One-to-one Conferences "Grammar 101" 10 . One-to-one Conferences Oral History Group Work 11 . One-to-one Conferences "Grammar 101" 12 . Essay 2 Revision due 13 . Oral History Project due (Essay 3) 14 . One-to-one conferences 15 . One-to-one conferences 16 . One-to-one conferences Research Papers: Choosing a topic 17 . Research Paper : Format Essay 3 revision due 18 . Research Paper: Where to look 19 . To Be Announced 20 . To Be Announced 21 . Essay 4 due 22 . One-to-one Conferences 23 . One-to-one Conferences 24 . One-to-one Conferences 		

科 目 名	エッセイ・ライティング 6	担当者名	N . H . ジョスト
-------	---------------	------	--------------

講 義 の 目 標	<p>An essay is defined as a short literary composition on a single subject, usually presenting the author's personal views. To write a clear and interesting essay, one has to have a clear idea on what to write about. Thus, this course will help students develop skills in coming up with ideas for their essays. It will then consider how those ideas can best be organized to create a nice essay, the mechanics of essay writing. It will also look at stylistics, and how create interesting sentences and paragraphs.</p>		
講 義 概 要	<p>It is often said that good readers make good writers. In this class we will look at some good model essays, read and analyze them, and finally try to create our essays based on their designs. Students will be asked to plan and defend their essay designs prior to writing. The course will also help students understand that different intentions require different kinds of essays, that is no one standard essay in English. Students will be asked to write regular essays which will be evaluated.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>The textbook to be used in this class is designed for freshman level classes at American universities.</p>	
	参 考 文 献	<p>College Writing Skills by John Langan</p>	
評 価 方 法	<p>Grades will be based on the completion of all essays and on regular attendance.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Basic principles of essay writing.
- 2 . Important factors in writing: attitude, developing a subject, prewriting.
- 3 . The first and second steps in essay writing.
- 4 . Begin with a point or thesis.
- 5 . Support the thesis with specific evidence.
- 6 . The third and fourth steps in essay writing.
- 7 . Organize and connect the specific evidence.
- 8 . Write clear, Error-free Sentences.
- 9 . Four bases for evaluating essays.
- 10 . Unity, support, evidence.
- 11 . Coherence and sentence skills.
- 12 . Review.
- 13 . Types of essay development.
- 14 . Descriptive.
- 15 . Narrative.
- 16 . Examples.
- 17 . Process.
- 18 . Cause and effect.
- 19 . Comparison and contrast.
- 20 . Definition.
- 21 . Special skills. Taking essay exams.
- 22 . Writing a summary.
- 23 . Writing a report.
- 24 . Review.

科 目 名	エッセイ・ライティング 8	担当者名	R . M . ペイン
-------	---------------	------	-------------

講 義 の 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. to give students practice in building written communicative skills 2. to improve students' command of English grammar, syntax, and rhetorical devices 3. to expose students to the culture of written English language
講 義 概 要	<p>We will cover approximately one unit of the text every three classes. Students will be expected to produce something in writing during each class period. This will be edited and rewritten based on the emphasis of that class period. A written exam will be administered during the regular university exam periods.</p>
使 用 教 材	テキスト <i>Introduction to Academic Writing, and The Elements of Style</i> will be used as the primary sources for this class.
	参 考 文 献 Complementary / supplemental materials and activities may be used as appropriate. Suggestions from students are welcome.
評 価 方 法	<p>Grades in this class will be based on the following : 1.attendance / participation: 80% This score will be based on the student's performance in class, preparation for class, and completion of assignments. If a student is absent more than seven times, the student will receive a failing grade for the class. Two tardies will be counted as one absence.</p> <p>2. tests, quizzes, or projects : 20%</p>
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	

- 1 . Introduction, selection of students, explanation of class rules and expectations.
- 2 .3 .4 .Unit 1, Writing about people Organization Grammar and Mechanics Sentence Structure
The Writing Process
- 5 . 6 . 7 . Unit 2, Narration Organization Grammar and Mechanics Sentence Structure The
Writing Process
- 8 . 9 . 10 . Unit 3, Description Organization Grammar and Mechanics Sentence Structure
The Writing Process
- 11 . 12 . Unit 4, Paragraph Organization Organization Prewriting The Writing Process
- 13 . 14 . 15 .Unit 5, More about Paragraph Organization Sentence Structure Organization The
Writing Process
- 16 . 17 . 18 . Unit 6, Essay Organization Organization Prewriting Grammar and Mechanics
The Writing Process
- 19 . 20 . 21 . Unit 7, Logical Division of Ideas Organization Grammar and Mechanics
Sentence Structure The Writing Process
- 22 . 23 . 24 . Unit 8, Supporting and Opinion Organization Grammar and Mechanics
Sentence Structure The Writing Process

Admission to the course:

Only 30 students may enroll in this class. If more than 30 students apply for admission, a drawing will be held to select students.

The next step will be submission of a timed writing sample. The final thirty students accepted for enrollment will be selected on the basis of their success on the writing sample.

Because the grade for this class is based primarily on attendance and participation, graduating seniors and fourth year students will be actively discouraged from enrolling.

科 目 名	エッセイ・ライティング9	担当者名	R . M . ホーマン
-------	--------------	------	--------------

講 義 の 目 標	The purpose of this course is to introduce students to the skills and methods necessary to write an academic essay. Thus, the course will focus on critical thinking, argumentation, and research skills. By the end of the course, the students will be able to write a research based essay, using citations and works cited list in the MLA style.		
講 義 概 要	Students will be expected to attend class regularly, as well as fulfill weekly writing assignments and readings. Grades will be based on participation in class, attendance and assignment scores.		
使 用 教 材	テキスト	The course textbook will be <u>The Little, Brown Handbook</u> by Lttle, Brown publishers.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	Students who have previously taken a writing course from me will have first choice in entering the class. All other students will take a written test.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Topic: Introductions, class organization, Why writing is important
- 2 . Topic: Writing critically
- 3 . Topic: The writing process
 1. Defining your purpose
 2. Audience
 3. Developing the topic
 4. The thesis
- 4 . Topic: Organising ideas
- 5 . Topic: Writing the first draft
- 6 . Topic: Revising and editing the first draft
- 7 . Topic: Proofreading and submitting the first draft
- 8 . Topic: Maintaining paragraph unity
- 9 . Topic: Paragraph coherence
- 10 . Topic: Writing special kinds of paragraphs
- 11 . Topic: Linking paragraphs in the essay
- 12 . Topic: Final essay due; Peer reading and discussion
- Summer Break**
- 13 . Topic: Planning a research project
- 14 . Topic: Conducting electronic searches
- 15 . Topic: Finding sources in the library
- 16 . Topic: Inserting sources into the paper; paraphrasing
- 17 . Topic: Inserting sources into the paper; quotations
- 18 . Topic: Citations
- 19 . Topic: The works cited list
- 20 . Topic: Unit 10 Part 2

Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
- 21 . Topic: Unit 11 Part 1

Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Soling, Cultural Listening Task
- 22 . Topic: Unit 11 Part 2

Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
- 23 . Topic: Unit 12 Part 1

Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Soling, Cultural Listening Task
- 24 . Topic: Unit 12 Part 2

Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up

科目名	翻訳 - 1	担当者名	北澤 滋久
-----	--------	------	-------

講義の目標	<p>英米の多様な文学作品を日本語に転ずる実践作業を通じて、翻訳とはいかに労多くして報いの少ないものであるかを、身をもって体得することを目的の第一とする。</p>		
講義概要	<p>最初の2回ほどで翻訳技術の概論を講ずるが、その後は各自が開講時に述べる規定を厳守してワープロで予め作成してきた翻訳原稿を、ビューアーに依りスクリーンに転写し、それを専ら添削してゆくという、かなりハードな実習の連続となるであろう。欠席あるいは義務の不履行は許されない。</p> <p>受講者は、英語力に加えて、むしろそれ以上の日本語の表現力が必須の条件である。またワープロの作業にも熟達していなければならぬ。</p>		
使用教材	テキスト	<p>現代英米の著名作家の短編を、テーマ・文体にバラエティを持たせて随時取り揃える。</p>	
	参考文献	<p>適宜教室で紹介する。</p>	
評価方法	<p>いわば毎回が「試験」であるから、特に特定日の試験は行わない。不断の出席状況を重視する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>この科目は、受講者定員が30名と厳命されている。従って不本意ながら、開講初日の開始時間当初に（定員を超える場合は）いきなり抽選、その後にガイダンスをいたすという異例の方策を採らざるを得ないので、予め承知願いたい。</p>		

科目名	翻訳 - 2	担当者名	園部明彦
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>翻訳は先ず慣れることが先決であるので、受講者には全員、配布するプリントの中の決められた箇所を毎時間、実際に翻訳してもらう。添削後の答案から、各自、自分の文体の問題点を確認し、次回の翻訳に役立ててもらいたい。</p>		
講義概要	<p>授業では、明らかに不適切な点はその場で指摘するが、多人数であるため、細部まで見ることは残念ながら不可能である。従って、時間終了後に答案を回収し、次回までに添削、評価して返却する。なお、プリントとは別に、『英語らしさ、日本語らしさ』（田島伸悟 著、三省堂）を用いる。これには翻訳の際のさまざまな問題点が懇切丁寧に解説されており、翻訳入門書としては格好のものと言える。例年、前期は不慣れなためか概して成績が思わしくないので、この書の練習問題を毎時間 < 課題 > として自宅で次の時間までに翻訳してもらう。狙いは、慣れと学力増進である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>プリント及び『英語らしさ、日本語らしさ』（田島伸悟 著、三省堂）を用いる。</p>	
	参考文献	<p>参考文献はかなりの数になり、ここに提示できないので、追って書名をプリントし配布の予定。</p>	
評価方法	<p>評価法は、一回につき 10 点満点として、その合計点が成績となる。当分は、『英語らしさ、日本語らしさ』の課題を 5 点、プリント 5 点、合計 10 点を一回分とし、それ以降はプリントのみで一回 10 点とする。そのため、欠席は非常に不利となる。遅刻は認めないのも例年通り。</p>		
受講者に対する要望など	<p>翻訳は教養語学と同様、毎回の積み重ねが重要であるので、< 定期試験 >、< 追試 > 等を行なわない。また、レポートなどという姑息な手段は通用しない。30 名が上限なので一回目の授業で抽選を行なう。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 補語の訳出法、課題：44 ページ 2. 省略文の訳出法、課題：45 ページ 3. ideal の訳出法、課題：52 ページ 4. personal の訳出法、課題：53 ページ 5. 挿入句を含む文の訳出法、課題：67 ページ 6. 命令文について、課題：68 ページ 7. obscure の訳出法、課題：85 ページ 8. 仮定法について、課題：86 ページ 9. your と identity の訳出法、課題：98 ページ 10. 目的補語について、課題：99 ページ 11. before の訳出法、課題：112 ページ 12. supposed の訳出法、課題：113 ページ 13. 代名詞について、課題：124 ページ 14. course の訳出法、課題：125 ページ 15. fold の訳出法、課題：135 ページ 16. 仮定法を含む文について、136 ページ 17. unimportant の訳出法、課題：137 ページ 18. 三つ以上の関係代名詞を含む文の訳出法、 19. 長い挿入句を含む文の訳出法 20. 比較級の訳出法 21. ダッシュの文の訳出法 22. 特殊な関係代名詞と your の訳出法 23. 挿入句について 24. my の訳出法
----------------------------	--

科 目 名	翻 訳 - 3	担当者名	林 節 雄
-------	---------	------	-------

講義の目標	英語原文を日本語に、日本語原文を英語に翻訳する仕事に興味を持つ学生を対象に、この仕事の性質について考え、同時に実習を行い、言葉の技術とセンスを磨くことを目的とする。 なおこの科目は受講上限人数30名と決められているので、第1回目授業の最初に抽選で受講者を決定する。		
講義概要	参考文献が論じているトピックスのいくつかを紹介し、私の考えをあわせて述べる。実習は主に <i>Newsweek</i> , <i>Time</i> , 英語の新聞などの興味ある記事を使って日本語を練習する。日本文英訳については主として広告文を材料に使用する。		
使用教材	テキスト	特に使用せず。講義ノートによる。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・加島祥蔵、志村正雄「翻訳再入門」(1992) 南雲堂 ・飛田茂雄「翻訳の技法」(1997) 研究社 ・中村保男「現代翻訳考」(1992) ジャパンタイムズ 	
評価方法	実習で提出する各自の翻訳文の添削結果を総合評価する。		
受講者に対する要望など	新聞、単行本など活字文化に親しもうとする姿勢を持つ学生が好ましい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「翻訳という仕事をどう考えたらいいか」についての話と実習。 2. 「後戻りしない文章」について話と実習。 3. 同上 4. 「直喩の訳し方」について。 5. 同上 6. 同上 7. 「意味のストレス」について話と実習。 8. 同上 9. 同上 10. 「辞書と翻訳」について。 11. 同上 12. 同上 13. 「リズム、ひびき、そして辞書」について話と実習。 14. 同上 15. 同上 16. 「超訳は翻訳か」について。 17. 同上 18. 同上 19. 「誤訳だらけの本」について。 20. 同上 21. 同上 22. 「原文修正は許されるか」について話と実習。 23. 同上 24. 同上 		

科目名	翻訳	担当者名	藤田永澗
-----	----	------	------

講義の目標	翻訳は奥の深い仕事です。優れた訳は、英文の十分な理解と消化、そして日本語を上手に駆使すること、両方が不可欠です。単語も語句もそれぞれの言語のシステムの中で機能するから逐語訳は優れた訳になるどころか、往々にして、意味をなさぬ文章にすらなります。目標は文章、語句、単語のレベルで使いこなせる消化した英語の知識をふやすこと。そして、英語と日本語双方のセンスを磨くことです。		
講義概要	受講希望者が多い場合は一回目の授業で辞書を使用して、短い文章を訳してもらい、意欲の感じられない答案を提出した学生を受け入れない方法をとります。講義はもっぱら実践的方式をとります。初めの2・3回は実際に出版したものから採ってきて授業します。その後は英字新聞、小説等を使います。受講生が希望の題材を持ちよるのは歓迎します。語学力の養成は、稽古事や習い事の習得に似て、一足とびに上達できるような甘いものではありません。		
使用教材	テキスト	プリント使用	
	参考文献	大きな英和辞書と、解説が行き届いている中英和辞書は不可欠。参考文献は授業時の適切な折に紹介します。	
評価方法	毎回行なう実習および、前後期2回のレポート		
受講者に対する要望など	積極性		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語と英語の発想の違いについて(その1)実習 2. 日本語と英語の発想の違いについて(その2)実習 3. 日本語と英語の発想の違いについて(その3)実習 受講生のレポートに優れているものをとりあげ、参考に供する。 4. 日本語と英語の発想の違いについて(その4)実習 5. 日本語と英語の発想の違いについて(その5)実習 6. 日本語と英語の発想の違いについて(その6)実習 7. 日本語と英語の発想の違いについて(その7)実習 受講生のレポートを数点とりあげ参考に検討する。 8. 日本語と英語の発想の違いについて(その8)実習 9. 日本語と英語の発想の違いについて(その9)実習 10. 日本語と英語の発想の違いについて(その10)実習 11. 英語と日本語のセンスを磨くための実習(その1) 12. 英語と日本語のセンスを磨くための実習(その2) 13. 英語と日本語のセンスを磨くための実習(その3) 夏休みのレポートで興味深いものをとりあげ教材として使う。 14. 英語と日本語のセンスを磨くための実習(その4) 市場によく売れている翻訳をとりあげ検討する。 15. 英語と日本語のセンスを磨くための実習(その5) 16. 英語と日本語のセンスを磨くための実習(その6) 17. 英語と日本語のセンスを磨くための実習(その7) 18. 英語と日本語のセンスを磨くための実習(その8) 市場で話題を呼んでいる翻訳をとりあげ教材として使う。 19. 英語と日本語のセンスを磨くための実習(その9) 20. 英語と日本語のセンスを磨くための実習(その10) 21. 総括、実習 22. 総括、実習 23. 総括、実習 24. 総括、実習 		

科目名	英文法1	担当者名	児玉仁士
-----	------	------	------

講義の目標	英語の表現力を涵養するために、英語の基礎的な文法事項を網羅的に解説し、更に文体的側面にも随時触れたいと思う。		
講義概要	テキストの内容は、Section 1 では、主に英語の基礎的な文法事項が網羅的に解説されており、また Section 2 では、前節の既習事項を踏まえて、文章表現上の誤りと文体上の技巧が具体的に述べられている。特に後者の文体的側面に比重が置かれているので、英語の表現力を更にブラッシュアップするのに有益であろう。テキストの問題の他に、色々の文例を補充しつつ授業を進めて行くつもりである。		
使用教材	テキスト	A. Waldhorn, A. Zeiger ; <i>A Practical English Grammar for College Students</i> 金星堂	
	参考文献		
評価方法	前期・後期の定期試験の成績、夏休みのレポート、出席により総合評価する。		
受講者に対する要望など	この科目は履修者上限 45 名となっている。授業の初日にそれを決定する。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法の予備知識としての概要を説明する。 2. 文の構成 (第 1 章): 品詞およびその分類について (第 2 章) 3. 名詞の形態 (数・性・格) について (第 3 章) 4. 代名詞およびその用法について (第 4 章) 5. 動詞および文中におけるその機能について (第 5 章) 6. 時制・法・態について (第 5 章) 7. 形容詞とその機能について (第 6 章) 8. 副詞およびその位置について (第 7 章) 9. 接続詞 (等位接続詞・従位接続詞) について (第 8 章) 10. 前置詞およびその機能について (第 9 章) 11. 準動詞 (動名詞・分詞・不定詞) について (第 10 章) 12. 句 (名詞句・形容詞句・副詞句) と (名詞節・形容詞節・副詞節) について 13. 一致 (agreement) (Section - 第 1 章): 主語と動詞 (数)、代名詞と先行詞 (数・人称・性) について 14. 代名詞の格 (主格・目的格・所有格; 同格) について (第 2 章) 15. 代名詞の照応について (第 3 章) 16. 時制の一致について (第 4 章) 17. 助動詞の用法 (特に法助動詞) について (第 4 章) 18. 形容詞・副詞の機能上の相違について (第 5 章) 19. 副詞の配列について (第 5 章) 20. 修飾語・句の問題点 (1 ; 懸垂分詞・懸垂不定詞) について (第 6 章) 21. 修飾語・句の問題点 (2 ; 懸垂動名詞) について (第 6 章) 22. 語・句・節の配列の一貫性について (第 7 章) 23. 並列に関する問題点について (第 8 章) 24. 文における省略 (特に文体上) の問題について (第 9 章) 		

科目名	英文法2	担当者名	須賀川 誠 三
-----	------	------	---------

講義の目標	<p>本講義では、伝統文法を基調とし、新しい言語理論を取り入れた「新文法」を学ぶことを主眼とする。同時に、従来の学校文法では、盲点となっていた事項を実践的に会得することもねらいとしたい。</p>		
講義概要	<p>授業では、用例と解説、および練習問題を中心に英文法の各項目について習熟するようにする。文法の枠組は、伝統文法のそれを用いているので、基本的問題が主となるが、かなり高度な内容も含まれる。また、この講義では、統語論が中心であり、形態論はごく一部に限って扱う。</p> <p>なお、毎時間の初め 10 分位、小テストによるワンポイント・レッスンをを行い、盲点となっている事項について理解の徹底を図る。</p>		
使用教材	テキスト	<p>安藤貞雄・加藤克美著『新大学英文法教本』英潮社新社 / (副) 藤枝 / R. Mann『英語表現文法の要点チェック』金星堂</p>	
	参考文献	<p>R. Quirk / 池上嘉彦訳『現代英語文法』紀伊国屋書店</p>	
評価方法	<p>前期レポート、後期、筆記試験による。出席も評価に関係する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講者希望者は、第 1 回目の授業に出席し、必ず受講の承認を受けること。定員 (45 名) を超えた場合には抽選により受講許可者を決定する。</p>		

1. 授業の方法などについてのガイダンス。
2. 第1章 基本文型 1.1 基本文型 1.2 SV型 1.3 SVA型 1.4 SVC型 1.5 SVCA型
3. 1.6 SVO型 1.7 SVOA型 1.8 SVOO型 1.9 SVOC型 / Exx. 1
4. 第2章 基本文の生成 A 平叙文と命令文 B 疑問文 C 否定文 D 感嘆文 Exx. 2
5. 第3章 A. 時制 3.1 現在時制 3.2 過去時制 B. 未来時 3.3 will ~ 3.4 be going to ~
3.5 be + -ing 3.6 will be-ing 3.7 be to ~
6. C 進行相 3.8 現在進行相 3.9 過去進行相 D 完了相 3.10 現在完了相 3.11 過去完了相 E 完了進行相 Exx. 3
7. 第4章 法助動詞 4.1 can / could 4.2 may / might 4.3 will / would 4.4 shall 4.5 should
8. 4.6 must 4.7 have to 4.8 ought to 4.9 need 4.10 dare 4.11 be to 4.12 義務・可能性の程度 Exx. 4
9. 第5章 受動文 5.1 基本構文の受動化 5.2 by-phrase の出沒 5.3 助動詞を含む受動文 5.4 句動詞 = 他動詞 5.5 疑問文の受動化
10. 5.6 目的語が名詞節 5.7 by 以外の前置詞 5.8 get + pp. 5.9 能動受動文 Exx. 5
11. 第6章 名詞 6.1 可算と不可算 6.2 可算名詞 6.3 不可算名詞 6.4 略 6.5 不可算名詞が数えられる場合 6.6~6.8 略 6.9 無生物名詞 6.10 独立所有格 Exx. 6
12. 第7章 代名詞 A 人称代名詞 B 指示代名詞 C 不定代名詞 D その他 Exx. 7
13. 第8章 冠詞 8.1 不定冠詞 8.2 定冠詞 8.3 定冠詞の用法 8.4 無冠詞 8.5 冠詞の反復 Exx. 8
14. 第10章 形容詞 10.1 限定用法と叙述用法 10.2 限定用法だけの形容詞 10.3 叙述用法だけの形容詞 10.4 用法による意味の差異 10.5 語順
15. 10.6 , 10.7 分詞形容詞 10.8 動詞的形容詞 10.9 数量形容詞 10.10 数詞 Exx. 10
16. 第11章 副詞 A 副詞の種類 B 副詞の位置と用法 (修飾の仕方など)
17. C 注意すべき副詞 (very と much , already , yet , still , etc.) Exx. 11
18. 第12章 比較構文 A 比較構文 (原級、比較級、最上級)
19. B 注意すべき比較構文 (原級、比較級、最上級、慣用表現) Exx. 12
20. 第14章 否定 14.1 否定の種類 14.2 語否定 14.3 文否定 14.4 語否定と文否定 14.5 部分否定と全体否定
21. 14.6 注意すべき否定表現 14.7 否定の意味を含む肯定文 Exx. 14
22. 第15章 仮定法 A 条件文 (仮定法過去、仮定法過去完了、仮定法現在, etc)
23. B 条件文以外の仮定法 (God bless you ! の型、I wish ~、It's time + S + 仮定法過去) Exx. 15
24. 一年間の総まとめ、試験の注意。

科 目 名	英 文 法 3	担当者名	府 川 謹 也
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>専修学校ではなく大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくないきっちりとした英文法の知識を身につけることが当然の狙いであるが、そのためには「なぜこう言えて、ああ言えないの？」と素朴な疑問を抱くことが肝要で、そこから始めて英語という言葉の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにして表面に現れない言語の規則性を探っていくための方法論をつかんでもらいたい。</p>		
講 義 概 要	<p>教科書を使用するが、この原稿を執筆した3ヶ月後に第一候補としているテキストが出版されるため詳細については第1週の授業で配布するシラバスを参照すること。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>上記のとおり、第一候補のテキスト発行が遅れているため未定とする。</p>	
	参 考 文 献	<p>安藤貞雄『英語教師の文法研究』大修館書店(¥2,060) 安藤貞雄『続・英語教師の文法研究』大修館書店(¥2,060) 安井稔編『例解 英文法事典』大修館書店(¥2,060) *いずれも図書館所蔵</p>	
評 価 方 法	<p>前後期の定期試験、その他出欠を含めた平常点等を統合する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>大学生の自覚をもって授業に臨むこと(たとえば、授業中に真面目に受講している学生に迷惑をかけたり先生にたいして非礼な態度を取ったりしない)、とにかく、何をしようが自分でやったこと責任は自分で取るようにすること(Take the consequences!)</p>		

第1週の授業でシラバスを配布する。

担当者についての情報

〔1〕〒340-0046 草加市北谷 3-24-37〔自宅〕

〒340-0042 草加市学園町 1-1 中央棟 537〔大学研究室〕

Tel. (0489)41-6182〔home〕

(0489)43-2198〔office〕

E-mail : fukawaky@al.mbn.or.jp〔home〕

fukawaky@dokkyo.ac.jp〔office〕

〔2〕関連ホームページ

URL : <http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi008/>

〔3〕出講日

火曜日・水曜日・木曜日・金曜日（予定）

〔4〕質問（相談）のための面談

原則として水曜日の午後1時半より2時45分までを面談用時間（office hours）とする。ただし、面談希望者は必ず電話等で事前に予約を取ること。

年
間
授
業
計
画

科目名	英文法4	担当者名	三好健
-----	------	------	-----

講義の目標	<p>テキストは、平易な英文で書かれた英文法の教科書で、ややクセはあるが、小冊子ながら、現代英語の文法が全般にわたって簡潔にまとめられている。これを読みながら、理論に走りすぎることのない実用文法を研究し、英語を読んだり書いたり話したりする場合の、実地への応用や、教職のための実力養成を目指したい。</p> <p>なお、万一履修希望者数が定員(45名)を超えたときは、出席の諸君と相談の上善処する予定である。</p>		
講義概要	<p>受講者の実力養成を目標としているため、毎回の授業は英語・英文法の充実した訓練の場となる。毎回受講生全員に発言を求めるので、下調べが必須であることは言うまでもない。意欲のない者には適さないかも知れないが、マジメにやれば力がつくことは請け合いである。</p>		
使用教材	テキスト	M. M. Bryant & C. Momozawa : <i>Modern English Syntax</i> (成美堂)	
	参考文献	江川泰一郎 : 「英文法解説」(金子書房) 山崎貞・毛利可信 : 「新自修英文典」(研究社)	
評価方法	平常の成績と年2回の試験による。		
受講者に対する要望など	遅刻・欠席が好きで下調べの嫌いな学生は来ないで頂きたい。 受講希望者は第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション。テキストの紹介と、一年間の授業計画及び勉強の仕方の説明。 2. 品詞について。(テキスト第1章) 3. 文の構造について。(テキスト第2章) 4. 文の機能について。(テキスト第3章) 5. 節について。(その1. 名詞節)(テキスト第4章) 6. 節について。(その2. 形容詞節)(テキスト第5章) 7. 節について。(その3. 副節節)(テキスト第6章) 8. 主語について。(テキスト第8章) 9. 代名詞の照合について。(テキスト第9章) 10. 動詞について。(テキスト第11章) 11. 目的語について。(テキスト第12章) 12. 補語について。(テキスト第13章) 13. 動詞句について。(テキスト第14章) 14. 助動詞について。(その1. shall と will)(テキスト第15章) 15. 助動詞について。(その2. shall, will 以外と疑似助動詞)(テキスト第16章) 16. 形容詞的修飾語句。(テキスト第17章) 17. 副詞的修飾語句。(テキスト第18章) 18. 否定について。(テキスト第19章) 19. 比較について。(テキスト第20章) 20. 態について。(テキスト第21章) 21. 仮定法について。(テキスト第24章) 22. 不定詞について。(テキスト第25章) 23. 分詞について。(テキスト第26章) 24. 語法について。(テキスト第27章) 		

科 目 名	Conversation - 1	担当者名	A . R . ファルヴォ
-------	------------------	------	---------------

講義の目標	To capture student interest with visual information in a contemporary context. Consequently students will be able to communicate effectively after viewing TV format information. Students selected by lottery and / or interview		
講義概要	Using an audio-visual approach students will generate language in response to real life information on a variety of topics taken from actual English TV programs.		
使用教材	テキスト	SUCCESS 2 & 3 VIDEO MAGAZINE	
	参考文献		
評価方法	Quizzes, questions in class, participation, multiple choice exams (1st & 2nd Term Finals) attendance		
受講者に対する要望など	Constant application of ability is crucial to succeed		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction of class material / procedure success 2 show 1 2 . Interviewing activity / intonation focus 3 . Show 2 presentation / interviewing activity 4 . Reading and discussion 5 . Show 3 presentation / interviewing activity 6 . Giving and understanding directions oral reports 7 . Show 4 presentation / Group interview 8 . Group discussion / evaluation technique 9 . Show 5 Presentation / Interviewing and reporting 10 . Writing A commercial and performance 11 . Writing A commercial and performance 12 . Review of material 13 . Exam-multiple choice questions 14 . Review of exam 15 . Introduction to success 3 show 1 presentation / interviewing 16 . Oral reports / discussion 17 . Show 2 presentation / interviewing activity 18 . Listening for details & reporting 19 . Show 3 presentation / interviewing activity 20 . Taking a survey / evaluating results 21 . Interpretation of data, prediction making 22 . Show 5 presentation / Interviewing activity 23 . Panel Discussion & judgement 24 . Exam 		

科 目 名	Conversation - 2	担当者名	D . ブラドリー
-------	------------------	------	-----------

目講 義 標の	This course aims to improve the listening and speaking abilities of intermediate students of English.		
講 義 概 要	<p>We will do a selection of listening exercises and fluency practice activities. The level will be that of general EFL textbooks at the intermediate level. The listening exercises consist of short interviews, telephone exchanges, public announcements, conversations and other recordings of people speaking naturally. In the fluency activities students exchange information, describe their experiences, and participate in role plays and discussions. In the weekly topics listed below there is a range of topics commonly handled at this level. This is a proposed list and not necessarily final.</p> <p>There is an upper limit of 35 on the number of students who may take this class. Where the number hoping to take this class exceeds 35 we will decide the class members by lottery during the first class meeting.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	
評 価 方 法	Grades will be based on attendance, class participation and short tests. In particular, good attendance is a prerequisite for a final grade.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Students will work together in pairs during the speaking activities and it is important that you make an effort to speak in English and maintain English throughout the lesson. This effort will be reflected in the grading.		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction to the course 2 . Consolidation activities 3 . " 4 . Personal information - talking about yourself 5 . Work - talking about jobs and careers 6 . Past lives - talking about people's histories, biographies 7 . Homes - Location inside the house 8 . Directions - giving directions and using maps 9 . Travel - making travel arrangements 10 . Travel - modes of transport 11 . Giving instructions 12 . Review 13 . Consolidation 14 . Comparisons 15 . Communication - reported speech and giving messages 16 . Health 17 . Giving advice 18 . Hypothetical situations - conditional sentences - talking about the future 19 . Hypothetical situations - conditional sentences - talking about the past 20 . Currents events - listening to the news 21 . Discussions - giving opinions 22 . " 23 . Review 24 . " 		

科 目 名	Conversation - 3	担当者名	G . スウィニー
-------	------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	This course is designed for students to use, and to build on, all four language skills. Not only will students learn new vocabulary and expressions, they will have an opportunity to use what they learn when talking about their own experiences and opinions.		
講 義 概 要	The course will be divided into two halves. The first half will focus on listening and communicative activities based on the cultures of English-speaking countries. The second half concentrates on contemporary American issues. Activities for students include discussions, surveys, case studies and role plays.		
使 用 教 材	テキスト	Milestones: Dale Fuller I Clyde Grimm Face the Issues: Carol Numrich	
	参 考 文 献	Students may be asked to read newspaper articles, for the purpose of discussion.	
評 価 方 法	In addition to two reports, attendance, class participation and vocabulary quizzes will be important in determining student grades.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	In the event that instructor needs to limit the number of students, those who desire to take the class will be asked to submit a piece of writing to the instructor.		

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1 . Explanation of the course to students 2 . Canada: The Great Escape 3 . Making Foreign Friends 4 . Traveling to the U. S. A. 5 . England and Wales 6 . Social Interactions and review 7 . A Holiday In Ireland 8 . Life In Japan 9 . Australia 10 . New Zealand 11 . Annoyances In Society 12 . Project preparation and review 13 . Seattle Fishmongers 14 . Living Through Divorce 15 . Couch Potatoes 16 . A Book Hospital 17 . Street People and a Boy's Hope 18 . Four New Food Groups 19 . Pollution 20 . Native American Poetry 21 . Crime Issues 22 . Radio Programs 23 . Men and Woman 24 . Review
----------------------------	--

科 目 名	Conversation - 4,5	担当者名	J. ウォールドマン
-------	--------------------	------	------------

講 義 の 目 標	The aim of this course will be to help students improve their level of fluency, develop their communicative skills and deepen their level of cultural awareness.		
講 義 概 要	Class time will be divided between class activities, group discussions, mini lectures and selected handouts from the teacher.		
使 用 教 材	テキスト	No text will be used, but students will be expected to prepare and generate topics for class discussions.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	Students will be graded on attendance, classroom participation, homework, and examinations. There will be a limit of 35 students who will be selected by random lottery.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	The teacher will expect all students to maintain a high level of enthusiasm as well as adhere to all grade requirements listed above.		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introductions with an explanation of the grading system and student requirements. 2 . In this session students will generate topics for discussion that will be used throughout the semester. 3 . The main topic of discussion will focus on dating and marriage customs in Japan and the United States. 4 . The differences in life styles between the students and their parents will be the topic of conversation in this class. 5 . This session will revolve around reading patterns and students' favorite books. 6 . The Confucian and Socratic methods of education will be discussed in this class. 7 . This session will focus on travel experiences to broaden students' cultural understanding. 8 . Health topics affecting university students will be the topic of this class. 9 . High school memories and a comparison between high school life and college life will be the discussion topic in this class. 10 . Storytelling techniques will be used to generate conversation among students. 11 . The main topic of discussion in this class will revolve around summer travel plans. 12 . Midterm examination. 13 . This class will focus on leisure activities and attitudes toward work and family life. 14 . The changing roles of men and women in the United States and Japan will be the topic of discussion in this class. 15 . In this class students will learn to read and understand English newspapers. 16 . Students will continue to work with English newspapers to further proficiency 17 . This will be the last class using English newspapers with a review for upcoming test. 18 . Test on the previous three lessons using English newspapers. 19 . Students will give presentations explaining Japanese culture. 20 . Problems of non-Japanese people living in Japan will be the focus of discussion in the class. 21 . Storytelling techniques will be used to generate discussion in this class. 22 . The topic of this class will be environmental problems. 23 . Communication activity using music will be the focus of this class. 24 . Final examination.
----------------------------	--

科 目 名	Conversation 8,9	担当者名	L. ヴィレヌーヴ
-------	------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	THROUGH THE STUDY OF HUMANISM, THIS COURSE WILL GIVE THE STUDENTS THE CHANCE TO PRACTICE THEIR SPOKEN ENGLISH IN A CONTEXT OF LEARNING ABOUT A SYSTEM OF THOUGHT BASED ON THE NATURE, DIGNITY, INTERESTS, AND IDEALS OF A PERSON. SOME SOCIAL ISSUES WILL BE DISCUSSED DURING THE SECOND SEMESTER.		
講 義 概 要	EACH LECTURE WILL DEAL WITH A DIFFERENT TOPIC. AT THE BEGINNING OF THE CLASS, KEY WORDS WILL BE EXPLAINED. THE STUDENTS WILL PARTICIPATE IN AN EXCHANGE OF OPINIONS. THEN, THE TEACHER WILL GIVE A SHORT LECTURE ON THE SUBJECT. THERE WILL BE OPPORTUNITIES FOR THE STUDENTS TO BETTER UNDERSTAND THEMSELVES AND REALIZE THAT DREAMS ARE NOT ALWAYS AT THE END OF THE RAINBOW. THIS IS FOR STUDENTS WHO BELIEVE THEY ARE ABLE TO EXPRESS THEIR IDEAS IN ENGLISH.		
使 用 教 材	テキスト	NO TEXTBOOK; ONLY A NOTEBOOK IS REQUIRED. ONCE IN A WHILE, PRINTS WILL BE DISTRIBUTED.	
	参考文献		
評 価 方 法	A regular attendance and an active participation will be a heavy factor on deciding the final mark. SENIOR STUDENTS, who think they might not attend the majority of the lectures should look for another course.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	THE 35 STUDENTS SITTING IN THE FIRST SECTION OF THE CLASSROOM (NOT IN THE BACK) WILL HAVE PRIORITY. AT THE FIRST MEETING IF THE NUMBER EXCEEDS 35, EACH STUDENT WILL BE INTERVIEWED AND ACCORDING TO THEIR INTEREST IN THE COURSE, WILL BE ACCEPTED.		

HUMANISM

- 1 . WHAT IS HUMANISM
- 2 . HUMAN NATURE
- 3 . ANALYSIS OF THE MIND
- 4 . DEFINITION OF LOVE
- 5 . ANALYSIS OF THE NIHON NO KOKORO
- 6 . HAPPINESS
- 7 . PUBLIC ENEMY NUMBER ONE
- 8 . RELIGION AND CULT
- 9 . HUMAN RELATIONSHIP
- 10 . AIDS HISTORY VIDEO PART ONE
- 11 . AIDS HISTORY VIDEO PART TWO
- 12 . MID-TERM EXAMINATION

SOCIAL ISSUES

- 13 . BULLYING
- 14 . EDUCATION: THE ONE / NOT A NUMBER ONE
- 15 . DISCRIMINATION
- 16 . DIVORCE
- 17 . SUICIDE
- 18 . COMPENSATING DATES
- 19 . ABORTION
- 20 . PUBLIC VIRTUE AND PRIVATE VIRTUE
- 21 . PEARLS OF WISDOM
- 22 . DEATH PENALTY VIDEO PART ONE
- 23 . DEATH PENALTY VIDEO PART TWO
- 24 . FINAL EXAMINATION

科 目 名	Conversation - 10	担当者名	M . A . シブル
-------	-------------------	------	-------------

講 義 の 目 標	<p>The goal of the course is to help students communicate effectively with native speakers. The specific aim will be on the oral comprehension and speaking skills necessary for study at English language institutions overseas and success in the professions and business. I will select students during the first class by a drawing.</p>		
講 義 概 要	<p>Class time will be spent in exercises to improve listening comprehension utilizing audio and video tape from a wide range of materials including news broadcasts, segments from drama, comedy and documentaries. Students are expected to actively take part in discussions based on the above programs and articles from British and American newspapers and magazines.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>Prints and tapes supplied by instructor. Students will be encouraged to suggest material for study.</p>	
	参 考 文 献	<p>Bring to class a good paperback edition of a dictionary designed for native adults such as <i>The Merriam Webster Dictionary</i>, <i>The American Heritage College Dictionary</i>, or <i>The Random House Dictionary of the English Language</i> .</p>	
評 価 方 法	<p>Grades will be based on attendance, active participation, quizzes, presentations and the term and final examination.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Orientation covering the goals, methods and standards for course evaluation. Interviews and selection of students; introduction of first topic for discussion.
- 2 . Discussion: American life style. Text: to be announced.
- 3 . Viewing and discussion of news broadcast. "Swing Fever," ABC.
- 4 . Discussion: The Environment. Text: to be announced.
- 5 . Viewing and discussion based on U. S. documentary.
- 6 . Viewing and discussion on documentary (continued).
- 7 . Orientation for student presentations.
- 8 . Student presentations.
- 9 . Student presentations.
- 10 . Student presentations.
- 11 . Student presentations.
- 12 . Discussion and evaluation of presentations.
- 13 . Viewing and discussion. TV Drama: "Northern Exposure"
- 14 . Viewing and discussion. TV Drama: "Northern Exposure"(cont.)
- 15 . Discussion: Entertainment. Text: to be announced.
- 16 . Discussion:The Economy. Text from *The Washington Post*. Quiz.
- 17 . Discussion:Science and Technology. Text: to be announced
- 18 . Discussion:Education. Text from Time Magazine. Quiz.
- 19 . Orientation for student presentations.
- 20 . Student presentations.
- 21 . Student presentations.
- 22 . Student presentations.
- 23 . Student presentations.
- 24 . Discussion and evaluation of presentations.

科 目 名	Conversation - 13,14	担当者名	P . アップス
-------	----------------------	------	----------

講義の目標	1)To gain confidence in talking to a crowd 2)To learn basic techniques in giving presentations.		
講義概要			
使用教材	テキスト	“Speaking of Speech” by David Harrington and Charles Le Bean. There will also be other supplementary material handed out, during the year.	
	参考文献	The students to be selected for this course will be selected on a first come, first serve basis. There will be an upper limit enforced.	
評価方法	The final evaluation will be based on three criteria: 1) Two presentation, one in the first semester and one in the second semester 2) Class performance 3) Class attendance		
受講者に対する要望など	Talking to a crowd is not so hard		
年間授業計画	<p><u>Semester One</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Introduction to the physical message • posture and eye contact • Informative speech • Gestures • Layout speech • Voice Inflection • Demonstration speech <p><u>Semester Two</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Introduction to the story message • The Introduction • Persuasive speeches • The Body • Transitions and Sequencers • The conclusion • Introduction to the visual message • Making visual aids • Explaining visual aids <p><u>Final test</u> Full presentation of the speech with visual aids</p>		

科 目 名	Conversation - 15	担当者名	R . ジェイムズ
-------	-------------------	------	-----------

講義の目標	To provide topics of general interest for discussions in English. To provide opportunities for students to express and share a variety of opinions through English. To develop students' active vocabulary in the areas related to the topics.		
講義概要	Students will work in pairs to share opinions about the topic of the lesson, and work in groups to come up with answers to various problems associated with the topic. In addition, students will be expected to study and learn sets of vocabulary related to the topics discussed.		
使用教材	テキスト	Talk About Values by Irene E. Schoenberg (pub: Longman)	
	参考文献		
評価方法	Grading will be based on attendance, in-class contributions to discussions, vocabulary quizzes and a short written test on one of the topics, to be chosen by the student.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Discussions based on text 2 . Discussions based on text 3 . Discussions based on text 4 . Review and Vocabulary quiz 5 . Discussions based on text 6 . discussions based on text 7 . discussions based on text 8 . review and Vocabulary Quiz 9 . discussions based on text 10 . discussions based on text 11 . Review of semester's work 12 . semester and Quiz 13 . Discussions based on text 14 . Discussions based on text 15 . Discussions based on text 16 . review and Vocabulary Quiz 17 . Discussions based on text 18 . Discussions based on text 19 . Discussions based on text 20 . review and Vocabulary quiz 21 . Discussions based on text 22 . Discussions based on text 23 . Revia of semester and year's work 24 . year and Quiz preparation 		

科 目 名	Conversation - 16	担当者名	R . ジョーンズ
-------	-------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>The main purpose of this course is to improve students speaking, listening and vocabulary skills in a content based syllabus. Topics of social and world interest will be examined in the lessons. At the end of the course, the students who have studied diligently will have increased their English speaking, listening and vocabulary skills significantly. Furthermore, they will be able to participate in discussion on a wide range of issues facing humanity. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that students will be to understand more fully the differences between Western and Japanese thinking on the issues covered. Please note: the content for Conversation I and Conversation II is basically the same. Conversation I is for students of intermediate speaking ability, whereas conversation II is for students of high-intermediate to advanced speaking ability. Previous students to the course are most welcome as all new materials will be used.</p>		
講 義 概 要	<p>In the lessons great emphasize will be placed on getting discussions going on what students already know about a given topic. Student vocabulary will then be built up and ideas focused so that they can participate more fully in the discussions that ensue. Students will be expected to work hard to develop their opinions and to build up their vocabulary. Much of the class time will be devoted to pair and group work in order to maximize the amount of speaking time available to each student. Students are expected to work hard both in and out of class.</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>No text is required as handouts will be given each lesson. Each handout will contain vocabulary work, conversation activities and listening exercises.</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>There will be a mid-term and a final speaking exam. In these exams, students have to demonstrate how well they can speak on the topics covered. They will be assessed in groups of 3 to 4 students.</p> <p>In the regular lessons, there will be frequent vocabulary tests and the students will have to deliver speeches on given topics. In class there will also be exercises that will be awarded points which count towards the final grade. Please be sure to keep good attendance. Final message: Never give up !</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>If more than 35 students select this course then students will be chosen in part by;</p> <ol style="list-style-type: none"> i) English qualifications that they have, e. g., TOEFL, TOIEC and EIKEN. ii) A short written composition. 		

Topics to be covered over the 24 lessons include the following:

University education; A comparison between Britain and Japan.

Environmental problems: what are they and what can we do to save the Earth?

Aging Society: what are the problems of this and what can be done to solve it?

The Death penalty; should murderers die?

Money: is it the most important thing in life?

Religion: How relevant is religion in today's consumer society?

Issues in Marriage and Divorce.

The paranormal; is there such a thing as fate? How about life after death and ghosts? How about UFOs?

Please note: not all the above will be covered and they may not be covered in the order shown. Also, other topics may be introduced.

科 目 名	Conversation - 18	担当者名	T . J . フォトス
-------	-------------------	------	--------------

講 義 の 目 標	<p>The main objectives and aims of this English course are to review and increase the vocabulary and understanding of general English terms that will assist students in their future careers. All four skills of reading, writing, speaking, and hearing of English will be covered. If more than 35 students wish to be in the class, there will be a simple test the first class meeting.</p>		
講 義 概 要	<p>Several general interest newspaper and magazine articles will be studied. American movies will be viewed.</p> <p>Newspaper and magazine articles, as well as movie reviews will be handed out to students. Although there probably won't be any assigned course textbook, students should be prepared to use not only the usual Japanese-English, English-Japanese dictionaries, but also a simple, cheap, up-to-date English-English pocketbook dictionary would be good to have. Please note that extra copies of the videos for the course will be available for the student's individual practice in the Dokkyo University Language Laboratory located in Building No.5,3d Flr.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト		
	参 考 文 献	<p>There will be handouts (copies) of various newspaper and magazine articles which will be read, studied and discussed in class to increase student's vocabulary, especially of business and economics term. American movies, with short written movie reviews or explanations will be watched from time to time. These movies will be "closed caption". That is, the words that one hears will appear in English typed on the screen. Trying one's best and making an effort to improve and make progress is most important.</p>	
評 価 方 法	<p>(% of course grade) Class attendance, discussion and participation (70%); first semester oral interview (15%); and final oral interview (15%).</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>Active class participation and regular attendance are important in determining the final course grade, therefore not only must the university rule of two-thirds of the classes be attended, but closer to 80% attendance would better assure that the students get something useful out of the lessons.</p>		

First Semester

- 1 . Introductions ; possible selection test to determine who gets into the course(if necessary).
- 2 . In-class self-introduction essays; small group discussions; review of key writing points.
- 3 . Re-writing of essays with additional conversations with new classmates. Short article hand-out.
- 4 . Video-start;20 minutes, brief discussion and explanation. Student discussion of last week's hand out.
- 5 . Review video; question and answer of video topic; discussion of video in small groups. Next short article hand-out.
- 6 . Student small-group discussion of previous week's hand-out, after short lecture. Next video topic introduced.
- 7 .Key phrases and words from video explained and practiced; video watched again; small group discussion.
- 8 . Video reviewed and short in-class essay of individual student's own opinions and ideas, followed by small group discussion.
- 9 . Next video and reading topic introduced. Items explained and questions answered.
- 10 . Review of video and hand-out. Small group discussion. Review of previous topics begins.
- 11 . Questions and answers with small-group discussions. Review continues.
- 12 . Short oral interview "test" and possibly a written test as well.
- 13 . Summer essay writing with stress on the past tense; in-class peer corrections; discussions.
- 14 . Introduction to next video and article hand-out. small group discussion.
- 15 . Continuation of previous week's topics, with additional explanations and discussions.
- 16 . Additional hand-out with explanation and small-group discussion. Short essay of hand-out topic.
- 17 . Essays discussed and critiqued in small-group. Video introduced with explanations; hand-out.
- 18 . Video from previous week continued with hand-out and video small-group discussion.
- 19 . Continuation of video and review and main word and concepts of topic; small-group discussion
- 20 . Last video and video and movie review introduced. Explanation of key words and concepts.
- 21 . Video, movie explained and small-group discussion of main points of video.
- 22 . Review lesson of the second semester main points.
- 23 . Review and finishing up of any loose ends regarding material covered during the year's course.
- 24 . Oral and written final examination.

科 目 名	Conversation - 1	担当者名	A . R . ファルヴォ
-------	------------------	------	---------------

講義の目標	To improve the ability to use non verbal clues to generate appropriate linguistic responses in the given context of an everyday situation students selected by lottery and / or interview		
講義概要	Using a movie with closed captions students will observe, comment up on and model the various scenes from the movie to build their ability communicate in English situational conversations.		
使用教材	テキスト		
	参考文献	Prints from the closed captioned script of movies.	
評価方法	Quizzes, Questions in class from scenes in the movies, term multiple choice exams and attendance.		
受講者に対する要望など	Active, serious attention and effort to succeed in this course		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Course introduction and expectations 2 . Presentation of first movie 3 . Focus on non verbal clues 4 . In to national contours 5 . Tracking of dialogue 6 . Making inferences from the scene 7 . Predictions from the dialogue 8 . Context generated responses 9 . Drawing irony from the nonverbal clues 10 . Determining the tone of the speaker 11 . Review of material 12 . Exam in class-multiple choice questions 13 . Review of exam 14 . Presentation of second movie Reinforcement of concepts taught in 1st term 15 . Focus on non verbal clues 16 . intonational contours 17 . Tracking of dialogue 18 . Making inferences from the scene 19 . Predictions from the dialogue 20 . Context generated responses 21 . Drawing irony from the nonverbal clues 22 . Determining the tone of the speaker 23 . Review of material 24 . Exam in class-multiple choice questions 		

科 目 名	Conversation - 2	担当者名	C . B . 池 口
-------	------------------	------	-------------

講 義 の 目 標	The goals of this course are: (1) to develop students' active listening ability and critical thinking, and (2) to provide opportunity for students to express their ideas in a coherent and logical manner.		
講 義 概 要	Issues of international appeal, particularly to ESL students, will be presented to encourage target language use and generate active discussion . Small group discussions in the first term will prepare class members for more organized forms of public speaking in the second term.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Enjoy Debating Matsumura, Issi and Lowe Eichosha	
	参 考 文 献	Speech Communication for International Students.	
評 価 方 法	Student evaluation will be based on class performance and a mid-year and a final oral test. Class performance includes participation in class discussions and individual speech presentations. Attendance is obligatory.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Orientation to the Course:
Course Description, class requirements and evaluation method
- 2 . Text: "Give My Place to Smoke"
It's Your Turn: Discussion
- 3 . Expansion Activities for creative, interactive communication
- 4 . Text: "Drive-in Shopping"
It's Your Turn: Discussion
- 5 . Expansion Activities for creative, interactive communication
- 6 . Text: "The Mail-order Bride"
It's Your Turn: Discussion
- 7 . Expansion Activities for creative, interactive communication
- 8 . Text: "The Wrong End of the Pistol"
It's Your Turn: Discussion
- 9 . Expansion Activities for creative, interactive communication
- 10 . Text: "Informed Consent"
It's Your Turn: Discussion
- 11 . Expansion Activities for creative, interactive communication
- 12 . Course Summary and Evaluation
- 13 . Course Re-orientation
- 14 . Text: "The Importance of Outlining"
Hands-on Activities
- 15 . Expansion Activities for creative, interactive communication
- 16 . Text: "Basic Guidelines on Public Speaking"
Preparing your speech
- 17 . Speech to Inform: Individual Speeches (1)
- 18 . Speech to Persuade: Individual Speeches (2)
- 19 . Text; Fundamentals of Debating
- 20 . Practice Debate
- 21 . Graded: Classroom Debate Round (1)
- 22 . More Feedback + preparation Time
- 23 . Graded: Classroom Debate Round (2)
- 24 . Course Summary and Evaluation

科 目 名	Conversation - 3	担当者名	D. ブラドリー
-------	------------------	------	----------

講義の目標	The aim of the course is to give students opportunities to take part in advanced level EFL speaking and discussion activities. We will be using a supplementary reader on intercultural communication as a text and other aims will be to, 1) use the text as a basis for discussion, 2) think about the idea of culture and 3) in the simulation games, to create feelings which are similar to those you might experience when you travel to a different culture.		
講義概要	This is a conversation class. Students will be expected to read a chapter of the textbook before the class so that they can join in the discussion. There will be handouts to supplement the textbook, all with the aim of encouraging speaking. There is an upper limit of 35 on the number of students who may take this class. Where the number hoping to take this class exceeds 35 we will decide the class members by lottery during the first class meeting.		
使用教材	テキスト	Nancy Sakamoto and Reiko Naotsuka ; <i>Polite Fictions</i> , Kinseido	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on attendance, class participation and short tests. In particular, good attendance is a prerequisite for a final grade.		
受講者に対する要望など	Students will work together in pairs during the speaking activities and it is important that you make an effort to speak in English and maintain English throughout the lesson. This effort will be reflected in the grading.		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction to the course 2 . General discussion topics - giving opinions 3 . General discussion topics - giving opinions 4 . General discussion topics - newspaper articles 5 . General discussion topics - newspaper articles 6 . Simulation game on cultural clashes 7 . Chapter 1 - You and I are Equals : greetings and how they affect social assumptions. 8 . Chapter 2 - You and I are Close Friends : names and being friendly. 9 . Chapter 3 - You and I are Relaxed : a look at different styles of entertaining. 10 . Chapter 4 - You and I are Independent : social structure and how it is reflected in the way people ask favors. 11 . Chapter 5 - People as Individuals : how cultural assumptions affect not only how you speak but what you say. 12 . Review 13 . Film on cross-cultural exchange 14 . Film on cross-cultural exchange 15 . Chapter 6 - Being Original : emphasizes the content of what people say and looks at the effect on the movies they enjoy. 16 . Chapter 7 - Questions, Questions : "aisatsu" questions don't need to be answered. 17 . Chapter 8 - Answer to the Point : straight line versus circular logic. 18 . Chapter 9 - Conversational Ballgames : conversation as a sport, tennis versus bowling. 19 . Chapter 10 - Don't Apologize : when not to apologize. 20 . Chapter 11 - Nobody Told Me : when to apologize. 21 . Culture simulation - game 22 . Culture simulation - discussion 23 . Review 24 . Review 		

科 目 名	Conversation - 4	担当者名	F . ファーン
-------	------------------	------	----------

講 義 の 目 標	<p>This course is intended for students who already possess a high level of English and wish to extend their communicative ability. Building upon the knowledge and skills already possessed, the aim is to enhance student ability to actively engage in conversation, to present and discuss their ideas and opinions fluently and appropriately. Class size is limited to 35. Students will be chosen by lottery from those attending the first lesson.</p>		
講 義 概 要	<p>Through the use of role plays, pair work, and small group discussions, students will have the opportunity to express themselves on a variety of topics including issues in the news. Students should expect to do preparation prior to each lesson if they are to fully participate in the classroom. Students are welcome to suggest topics for discussion and materials of interest.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>Use will be made of newspaper and magazine articles, video and film materials.</p>	
	参 考 文 献	<p>Students are recommended to purchase an advanced learner's English - English dictionary. The following are suitable : a)Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English or b)Longman's Dictionary of Contemporary English</p>	
評 価 方 法	<p>Assessment will be based upon attendance, participation, tests and assignments.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	Conversation - 9	担当者名	N . H . ジョスト
-------	------------------	------	--------------

講 義 の 目 標	<p>The primary aim for this course is to have students improve their listening and speaking skills. It will focus on current cultural and topical themes found on television news in the United States. A video with an accompanying transcription will be used in this class. The transcripts will allow us to look at the language and themes found on the video and to discuss them with some authority. This course will call on students to actively participate in all class activities. These activities will include group discussions, panel and individual presentations, roundtable discussions, and pair work. This course is designed to help students improve on their present speaking and listening abilities.</p>		
講 義 概 要	<p>Students entering this class should have a reasonably high understanding and command of English. The activities are communicative based. Students will work with one and other in developing in-class projects and presentations.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>A: ABCs Culture Watch. Focus on American Culture. B: Focus on American Culture is available at the DUO. A blank cassette.</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>Grading will be based on classroom participation, and on midterm and final presentations. The numbers of students allowed in class is set at 35. Students will be selected on the first day by an oral interview.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Course introduction. Selection of students. (Max. 35)
- 2 . Culture Watch Video Segment: Family Environment
- 3 . Continued. Discussion on saving the family.
- 4 . Culture Watch Video Segment: Getting into an American university.
- 5 . Continued. Discussion on entrance examinations.
- 6 . Culture Watch Video Segment: Fast-track Parents.
- 7 . Continued. Discussion on work life.
- 8 . Culture Watch Video Segment: Shopper Discretion.
- 9 . Continued. Discussion on consumerism.
- 10 . Students presentations.
- 11 . Students presentations.
- 12 . Students presentations.
- 13 . Culture Watch Video Segment: Judgement Day.
- 14 . Continued. Discussion on interviews at university.
- 15 . Culture Watch Video Segment: Bilingual Education.
- 16 . Continued. Discussion on its necessity.
- 17 . Culture Watch Video Segment: New Suburban Designs for Living.
- 18 . Continued. Discussion on making our living environment simple.
- 19 . Culture Watch Video Segment: Health Care for the Poor.
- 20 . Continued. Providing good health care.
- 21 . Culture Watch Video Segment: The perfect Baby
- 22 . Continued. Taking care for a baby.
- 23 . Students presentations.
- 24 . Students presentations.

科 目 名	Conversation - 12	担当者名	R . M . ペイン
-------	-------------------	------	-------------

講 義 の 目 標	<p>Course Objectives:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. to give students practice in building conversational and communicative skills 2. to improve students' listening skills 3. to expose students to the culture of the language 		
講 義 概 要	<p>Instructional Plan:</p> <p>We will cover approximately one unit of the text every two classes.</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p><i>on line, 2</i> (Heinemann) will be used as the primary source for this class.</p>	
	参 考 文 献	<p>Complementary/supplemental materials and activities may be used as appropriate. Suggestions from students are welcome.</p>	
評 価 方 法	<p>Grades in this class will be based on the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. attendance/participation: 80% This score will be based on the student's performance in class, preparation for class, and completion of assignments. If a student is absent more than seven times, the student will receive a failing grade for the class. Two tardies will be counted as one absence. Homework will be assigned in preparation for each lesson/chapter. This work will be marked simply either pass or fail. 2. tests, quizzes, or projects: 20% 		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

Tentative coursework schedule:

Class 1: Selection of students, explanation of class rules and expectations, introduction to the text

Classes 2 & 3	Unit 1, Moving In
Classes 4 & 5	Unit 2, Technology rules!
Classes 6 & 7	Unit 3, Places we know
Classes 8 & 9	Unit 4, That's life
Classes 10 & 11	Unit 5, Facts for fun
Classes 12	Review
Classes 13 & 14	Unit 6
Classes 15 & 16	Unit 7
Classes 17 & 18	Unit 8
Classes 19 & 20	Unit 9, Life's twists and turns
Classes 21 & 22	Unit 10, Home sweet home
Classes 23 & 24	To the future

Admission to the course:

Only 35 students may enroll in this class. If more than 35 students apply for admission, a drawing will be held to select students.

Because the grade for this class is based primarily on attendance and participation, graduating seniors and fourth year students will be actively discouraged from enrolling.

科 目 名	Conversation - 13	担当者名	R . M . ホーマン
-------	-------------------	------	--------------

講 義 の 目 標	The syllabus for this course is quite a bit different from the Conversation I syllabus. Conversation II assumes that the student has already taken Conversation I or has displayed adequate discussion skills through a placement test.		
講 義 概 要	This course will provide readings from a variety of literary sources on current issues in education, cultural affairs, bioethics, literature, etc. The readings are taken from university courses in the United States. They are difficult and require the reader to analyze and criticize the ideas put forth by the author. If you feel that speaking up in class is difficult, do not sign up for this class. The purpose of the readings is to provide background knowledge and vocabulary for the discussion following. Before being presented with a reading, one class hour will be devoted to pre-reading discussion in order to invoke students' schemata of the subject. Each topic will comprise 3-4 class hours; the final class being devoted to a quiz on the reading which encompasses knowledge of the reading as well as knowledge of the vocabulary. Students will be expected to hand in, weekly, a 100 word (approximately) summary of the discussion of the previous week's class.		
使 用 教 材	テ キ ス ト		
	参 考 文 献		
評 価 方 法	Students will be expected to participate in small group discussion as well as full class discussion. They will be required, at times, to give a presentation in small groups on a subject related to the main topic. Films, lectures, and other materials will be employed in order to give the students a well-rounded experience of a Western style classroom.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Grades will be based on quizzes, presentations, attendance and participation. Do not expect to pass the class if you miss more than six times during the course of the year. There are no excused absences. Do not expect to pass the class if you do not do the assigned readings.		

年 間 授 業 計 画	<p>1 . Introductions, class organization</p> <p>2 . Topic: Western Education vs Japanese Education Pre-reading, discussion</p> <p>3 . Topic: Western Education vs Japanese Education Discussion of reading</p> <p>4 . Topic: Western Education vs Japanese Education Discussion of reading</p> <p>5 . Topic: Western Education vs Japanese Education Quiz on vocabulary and content of reading; pre-reading discussion of next topic</p> <p>6 . Topic: Literature--Short stories "The Open Window"</p> <p>7 . Topic: Literature--Short stories "Senior Payroll"</p> <p>8 . Topic: Public Speaking Lecture and exercises</p> <p>9 . Topic: Public Speaking Presentation and Discussion</p> <p>10 . Topic: Public Speaking Lecture and exercises</p> <p>11 . Topic: Public Speaking Small group presentation preparation</p> <p>12 . Topic: Public Speaking Small group presentations</p> <p>Summer Break</p> <p>13 . Topic: Cross Cultural Communication Pre-reading Discussion</p> <p>14 . Topic: Cross Cultural Communication Reading Discussion</p> <p>15 . Topic: Cross Cultural Communication Discussion; planning of presentation</p> <p>16 . Topic: Cross Cultural Communication Presentations in small groups</p> <p>17 . Topic: Cross Cultural Communication Quiz on Readings</p> <p>18 . Topic: The future Pre-reading Discussion</p> <p>19 . Topic: The future Reading Discussion</p> <p>20 . Topic: The future Presentation and Discussion</p> <p>21 . Topic: The future Quiz on Readings</p> <p>22 . Topic: Bioethics Pre-reading</p> <p>23 . Topic: Bioethics Film and Discussion</p> <p>24 . Topic: Bioethics Lecture and Discussion</p>
----------------------------	---

科 目 名	Conversation - 14	担当者名	R . ジェイムズ
-------	-------------------	------	-----------

講義の目標	To provide topics of general interest for discussions in English. To provide opportunities for students to express and share a variety of opinions through English. To develop students ability to listen to and evaluate opinions, and develop strategies for agreeing, disagreeing and arguing about those opinions.		
講義概要	Students will work in pairs to share opinions about the topic of the lesson, and work in groups to come up with answers to various problems associated with the topic. In the second semester, topics chosen will be more controversial, and students will be given the opportunity to debate and defend their own opinion.		
使用教材	テキスト	Study material will be provided by the teacher.	
	参考文献		
評価方法	Grading will be based on attendance, in-class contributions to discussions and debates, and a short written test on one of the topics, to be chosen by the student.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1 . Discussions 2 . Discussion 3 . Discussion 4 . Review and student-generated Quiz 5 . Discussion 6 . Discussion 7 . Discussion 8 . Review and student-generated Quiz 9 . Discussion 10 . Discussion 11 . Discussion 12 . Review of semester 13 . Discussion 14 . Discussion 15 . Discussion and Debate 16 . Review and student generated Quiz 17 . Discussion 18 . Discussion 19 . Discussion and Debate 20 . Review and student-generated quiz 21 . Discussion 22 . Discussion 23 . Discussion and Debate 24 . Review of year and test preparation		

科 目 名	Conversation - 15	担当者名	R . ジョーンズ
-------	-------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>The main purpose of this course is to improve students speaking, listening and vocabulary skills in a content based syllabus. Topics of social and world interest will be examined in the lessons. At the end of the course, the students who have studied diligently will have increased their English speaking, listening and vocabulary skills significantly. Furthermore, they will be able to participate in discussion on a wide range of issues facing humanity. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that students will be to understand more fully the differences between Western and Japanese thinking on the issues covered. Please note: the content for Conversation I and Conversation II is basically the same. Conversation I is for students of intermediate speaking ability, whereas conversation II is for students of high-intermediate to advanced speaking ability. Previous students to the course are most welcome as all new materials will be used.</p>		
講 義 概 要	<p>In the lessons great emphasize will be placed on getting discussions going on what students already know about a given topic. Student vocabulary will then be built up and ideas focused so that they can participate more fully in the discussions that ensue. Students will be expected to work hard to develop their opinions and to build up their vocabulary. Much of the class time will be devoted to pair and group work in order to maximize the amount of speaking time available to each student. Students are expected to work hard both in and out of class.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>No text is required as handouts will be given each lesson. Each handout will contain vocabulary work, conversation activities and listening exercises.</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>There will be a mid-term and a final speaking exam. In these exams, students have to demonstrate how well they can speak on the topics covered. They will be assessed in groups of 3 to 4 students.</p> <p>In the regular lessons, there will be frequent vocabulary tests and the students will have to deliver speeches on given topics. In class there will also be exercises that will be awarded points which count towards the final grade. Please be sure to keep good attendance. Final message: Never give up !</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>If more than 35 students select this course then students will be chosen in part by;</p> <ol style="list-style-type: none"> i) English qualifications that they have, e. g., TOEFL, TOIEC and EIKEN. ii) A short written composition. 		

Topics to be covered over the 24 lessons include the following:

University education; A comparison between Britain and Japan.

Environmental problems: what are they and what can we do to save the Earth?

Aging Society: what are the problems of this and what can be done to solve it?

The Death penalty; should murderers die?

Money: is it the most important thing in life?

Religion: How relevant is religion in today's consumer society?

Issues in Marriage and Divorce.

The paranormal; is there such a thing as fate? How about life after death and ghosts? How about UFOs?

Please note: not all the above will be covered and they may not be covered in the order shown. Also, other topics may be introduced.

科 目 名	Conversation - 18	担当者名	W.J.ベンフィールド
-------	-------------------	------	-------------

講 義 の 目 標	<p>The aim of the course is twofold. On the level of language, the course aims to improve both listening skills and general fluency. On the level of content, it aims to help students gain an understanding of some of the major issues of life in the 20th century.</p>		
講 義 概 要	<p><u>A look at the 20th century through movies</u> With the 20th century having drawn to a close, this year is a good time to look back on some of the main events and try to get a perspective on one of the most turbulent periods in human history. We will do this by looking at major events through films that focus on the life of a person who was central to those events. The film for the first term will be 'Gandhi' and the film for the second term will be 'Malcolm X.' It is important to see each film against its historical and cultural background and so there will be background reading and discussion to put each film in context. There will also be classroom discussion on issues arising from the films. Homework assignments will usually involve research into the topics connected with the films.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Print and video.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. Students will also have to write a report on each film at the end of each semester.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<p>1 . Introduction to the course and student selection. There is a limitation on the number of students who can take this course. If registration is oversubscribed, students will be selected on the basis of a short test.</p> <p>2 . Film #1 - 'Gandhi.' Pre-viewing looking at the historical background. Research project for homework.</p> <p>3 . Presentation of research results in small groups.</p> <p>4 . Viewing and discussion</p> <p>5 . Viewing and discussion</p> <p>6 . Viewing and discussion</p> <p>7 . Viewing and discussion</p> <p>8 . Second research project for homework</p> <p>9 . Presentation of research results in small groups.</p> <p>10 . Viewing and discussion</p> <p>11 . Viewing and discussion</p> <p>12 . Viewing and discussion</p> <p>1 . Review of first semester's work. Preview of second semester.</p> <p>2 . Film #2 - 'Malcom X'. Pre-viewing looking at the historical background. Research project for homework.</p> <p>3 . Presentation of research results in small groups.</p> <p>4 . Viewing and discussion</p> <p>5 . Viewing and discussion</p> <p>6 . Viewing and discussion</p> <p>7 . Viewing and discussion</p> <p>8 . Second research project for homework</p> <p>9 . Presentation of research results in small groups.</p> <p>10 . Viewing and discussion</p> <p>11 . Viewing and discussion</p> <p>12 . Viewing and discussion</p>
----------------------------	---

科 目 名	Discussion1	担当者名	N . H . ジョスト
-------	-------------	------	--------------

講 義 の 目 標	<p>This course is designed to provide those students whose English proficiency is at a highly advanced level with the opportunity to discuss some of the issues that face us today. It will consider the challenges that face Japan as a nation as well as the challenges that face Japan as a member of the world community. It will also look at some the problems that face students in this high paced society. The topics for this class will be challenging and interesting. The language goals set out for this course are 1) to help students gain a higher level fluency in discussions more advanced topics; 2) to help students organize discussions so that there is free flowing of ideas; and 3) to help students improve their vocabulary.</p>		
講 義 概 要	<p>This course will address and define some of issues that face us today. It is clear that the world is becoming smaller place, and the need for communication skills in English is becoming ever so great. Thus the primary aim will be on the expression of ideas in a clear concise manner, and on the ability to listen to the thoughts and opinions of others. Students will work in small groups and present their conclusions and ideas to the larger group.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	No textbook is required for this class. An English/English dictionary is required.	
	参 考 文 献	Television news clips, newspaper, and journal articles. All materials will be provided by the instructor.	
評 価 方 法	<p>Grading will be based on classroom participation, and on midterm and final presentations. The numbers of students allowed in class is set at 25. Students will be selected on the first day by an oral interview.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

1. Course description: topics grading policy; selection of students. Etc.
2. Getting to know each other: student introductions. Lecture on language learning.
3. The issues that face us. What are the mostissues for us.
4. Topic area one: Women in society and their changing role in the world.
5. Women in society.
6. Topic area two: Stalking. Why this happens and what should be done.
7. Stalking.
8. Topic area three: Culture and youth. Defining ourselves and the youth of today.
9. Culture and youth.
10. Topic area four: Environmental concerns. Japan and the world.
11. Environmental concerns.
12. Roundtable discussion.
13. Topic area five: Education. Need for better education.
14. Education.
15. Topic area six: Student generated topic.
16. Student generated topic.
17. Student generated topic.
18. Student generated topic.
19. Student generated topic.
20. Student generated topic.
21. Student generated topic.
22. Student generated topic.
23. In-class symposium.
24. In-class symposium.

科 目 名	Discussion2	担当者名	T . ヒ ル
-------	-------------	------	---------

講義の目標	To help advanced students develop the ability to formulate ideas and express their opinions on issues of international significance.		
講義概要	Students will be expected to do in-depth reading on the designated topic, and to come to class with some knowledge of the pros and cons of each issue. The class will be a general discussion, and students will be expected to enthusiastically join in and to express and back-up their own opinion.		
使用教材	テキスト	Articles from Newspapers and Magazines	
	参考文献		
評価方法	Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance. This course is for students at the advanced level of English proficiency.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Euthanasia: should it be legalized in our modern society ? 2 . Article 9: should Japan create a modern army ? 3 . Genetic Engineering: good or bad. 4 . University Education: its role in Japan's modern society. 5 . Homosexuality: a sickness or an alternative life-style ? 6 . Aids: what can be done about the problem ? 7 . The Mass Media: the good points and the bad points. 8 . The Middle East: is there a solution? 9 . Foreigners in Japan: should they be eligible for government jobs? 10 . The Death Penalty: should it be abolished? 11 . Test a speech (15 mins) 12 . Test a speech (15 mins) 13 . The Courts: do we need a Jury system ? 14 . Bullying in school: how should we deal with it ? 15 . Violence on TV: should it be regulated ? 16 . Music: its role in our lives. 17 . The Monarchy: do we need them ? 18 . Smoking: should it be banned in all public places ? 19 . English Education in Japan: its strengths and weaknesses. 20 . Abortion: who has the right ? 21 . A Multicultural Society : what is it ? do we want it ? 22 . University: what is it for ? 23 . Test a speech (15 min) 24 . Test a speech (15 min) 		

科 目 名	Discussion3	担当者名	W.J.ベンフィールド
-------	-------------	------	-------------

講義の目標	This course will be an introduction to and a discussion of British and American poetry.		
講義概要	Poetry is normally considered a hard subject and this is often true. The use of specialized syntax, 'poetic' language and unexpected combinations of words are common. But this is not always the case. Many 20 th century poets from Britain and the USA made a point of trying to write poetry in plain English. In this course we will examine this type of poem, with examples drawn mainly from the 20 th century but with a few from the 19 th century also. Among the poets represented will be W. H. Auden, T. S. Eliot, Robert Frost, Emily Dickinson, Ted Hughes, and D. H. Lawrence. Apart from individual poems, we will also look at the mechanics of poetry -- verse structure, rhythm and choice of language -- to better understand how poets achieve their effects. The end result of the course should be an increased enjoyment of poetry and a great sensitivity to the way English can be used.		
使用教材	テキスト	There will be no set text. Copies of the poems will be provided.	
	参考文献		
評価方法	Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. Students will write a report at the end of each semester.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 .Course outline and student selection. Since there is a limitation on the number of students in this class, students will be selected on the basis of a short essay written in class. 2 . What is a poem? A look at some of the elements that go into writing poetry 3 . Week 2 topic continued. 4 . Poem and discussion 5 . Poem and discussion 6 . Poem and discussion 7 . Poem and discussion 8 . Poem and discussion 9 . Poem and discussion 10 . Poem and discussion 11 . Poem and discussion 12 . Poem and discussion <ol style="list-style-type: none"> 1 . Review of first term's work. 2 . Poem and discussion 3 . Poem and discussion 4 . Poem and discussion 5 . Poem and discussion 6 . Poem and discussion 7 . Poem and discussion 8 . Poem and discussion 9 . Poem and discussion 10 . Poem and discussion 11 . Poem and discussion 12 . Poem and discussion 		

科 目 名	スピーチ1	担当者名	板 場 良 久
-------	-------	------	---------

講義の目標	スピーチとは、どのような長さのものであれ、ある対話の流れの中に投げられる1つの発言です。発言ですから、相手や状況、発言の動機と目的が常に問われることとなります。さらに、話者を演じる自分とは誰なのかという問いも不可欠となります。このクラスでは英語スピーチの理論と実践を通じて、以上のような問いに答えていく習慣を身に付けていただくことを目指します。したがって、話し方教室で学ぶスピーチの修辞技術や理想的構造（文体や音声）の学習は主目的ではありません。脱人間機械論が現代スピーチ・コミュニケーションの基本だからです。その人なり（芸）すなわち個性を追求します。		
講義概要	理論的解説（ハウツー・ルールなど）はミニレクチャー形式で行ないませんが、こうした講義よりも実際に受講生にスピーチをしていただく時間の方が多くなります。また、他のクラスメートのスピーチに対して質問したり、意見を述べたり、あるいは評価することも多くなり、聞き手として積極的に参加することが要求されます。授業はすべて英語で行ないませんが、現在の英語力よりも発言意欲の方が問われます。		
使用教材	テキスト	テキスト： プリント配布予定。	
	参考文献	必要に応じてその都度紹介します。	
評価方法	Attendance 20 % , Speech Presentations 80 %		
受講者に対する要望など	担当講師から学ぼうとするよりも、学生自身のスピーチによって担当講師に学んでもらおうという姿勢でクラスに臨んでください。なお、スピーチ考案の準備に授業時間外での時間が必要となることは言うまでもありません。		
年間授業計画	<p>. 前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . Basics of Speech Communication 2 . Oral Interpretation 3 . Informative Speech <p>. 後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . Mystery Speech 2 . Impromptu Speech 3 . Persuasive Speech <p>(詳しい授業計画は最初の講義で配布します。)</p>		

科 目 名	スピーチ2	担当者名	A . R . ファルヴォ
-------	-------	------	---------------

講義の目標	To develop, polish and refine the ability of the more advanced students who want to express their opinions through the use of reading materials, internet & video materials on a variety of current topics in the world today. students selected by interview		
講義概要	Using Edward De Bono's series on thinking and analysis techniques we will make speeches using the above mentioned various techniques to generate 3 minute speeches every week.		
使用教材	テキスト	Prints distributed on a weekly basis	
	参考文献		
評価方法	Weekly presentations of 3 minute speeches, attendance and class participation.		
受講者に対する要望など	Attendance & outside preparation are crucial to succeed in the class.		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Class presentation 2 . Plus / minus / interesting 3 . Speeches using week 2 technique consider all factors 4 . Speeches using week 3 technique aims, goals, objectives 5 . Speeches using week 4 technique planning 6 . Speeches using week 5 technique first important priorities 7 . Speeches using week 6 technique directions 8 . Speeches using week 7 technique reflections 9 . Speeches using week 8 technique appraisals 10 . Speeches using week 9 technique review for final exams 11 . Final exam speech presentations part one 12 . Final exams speech presentations part two 13 . Review of first term analytic techniques 14 . Critiquing 15 . Speeches using week 14 technique evaluation 16 . Speeches using week 15 technique closure 17 . Speeches using week 16 technique sensitivity 18 . Speeches using week 17 technique control 19 . Speeches using week 18 technique predetermination 20 . Speeches using week 19 technique dissemination 21 . Speeches using week 20 technique understatement 22 . Speeches using week 21 technique review for term exam speeches 23 . Speeches using 2nd term techniques for final exam part one 24 . Final exam part two 		

科 目 名	ディベート	担当者名	T . ヒル
-------	-------	------	--------

講義の目標	To help advanced level students develop the skills they need to participate in debate in a modern democratic society.		
講義概要	<p>1. Students will study the definitions of basic debate terms and concepts and come to an understanding of how debate works.</p> <p>2. Students will do research for, and take part in, class debate on topics of national and international significance.</p> <p>The number of students in this class is limited to 25. Selection will be made at the first class by lottery.</p>		
使用教材	テキスト	D. W. Klopff / T. Kawashima, <i>The Bases of Debate</i> , Sanshusha, 1996	
	参考文献		
評価方法	<p>The course will be assessed on attendance, participation, the writing of a number of papers, and semester tests.</p> <p>The course is for students who are eager to improve their critical thinking and constructive argumentative skills.</p>		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . What debate can do for you; critical thinking skills, open-mindedness, thinking on your feet 2 . What exactly is debate: the basics, the players, the propositions 3 . Actual debate: Part 1 4 . Actual debate: Part 2 5 . Actual debate: Part 3 6 . Speaker strategies: affirmative and negative constructive, negative and affirmative rebuttal 7 . Propositions: what is a proposition? types of propositions. 8 . Actual debate: Part 1 9 . Actual debate: Part 2 10 . Actual debate: Part 3 11 . Developing research skills 12 . First semester 13 . Research sources, writing briefs, taking notes in debate 14 . Actual debate: Part 1 15 . Actual debate: Part 2 16 . Actual debate: Part 3 17 . Video debate evaluation 18 . The Affirmative position: burden of proof, presumption, the prima facie case 19 . The Negative position: The negative strategy, refutation of stock issues, denying the problem 20 . Actual debate: Part 1 21 . Actual debate: Part 2 22 . Actual debate: Part 3 23 . Course review 24 . Second semester test 		

科目名	通 訊 - 1,2	担当者名	原 口 友 子
-----	-----------	------	---------

講義の目標	<p>この授業は、通訳案内業（通訳ガイド）の国家試験に合格することを目的とする。日本を訪れる外国人観光客は減少しており、通訳ガイドを職業にするのは困難な現状である。したがって、この免許は在学中に取得してこそ価値がある。旅行業界、航空業界への就職を希望する学生にとっては、鬼に金棒と言えよう。将来の可能性を大きく広げてくれる国家免許だけでなく、授業に出るだけで受かるような試験ではない。4月から来年7月の1次試験まで、家でかなりの学習、特に暗記が必要になる。自分の未来のために努力を惜しまないファイトのある学生に受講して欲しい。</p>		
講義概要	<p>合否の鍵となる日本事象に関しては、300項目は英語で説明できるように暗記する。（末尾に、数項目、例を出しているので参照のこと。）単語も、魚、野菜の名称から文化、観光用語まで覚える。この2点に関しては、便利なテキストがあるので、授業でポイントを説明し、家で各自暗記し、授業で小テストを受けるといったパターンを繰り返す。授業では、逐次通訳の訓練、長文要約の問題（英日：日英）と面接の練習を中心に行う。</p>		
使用教材	テキスト	英語第1次試験問題集、日本の事象英文説明300選、通訳案内業国家試験に出る英単語	
	参考文献		
評価方法	定期試験、模擬試験、毎週実施する小テスト、模擬面接、等の総合評価		
受講者に對する要望など	英検準1級程度の英語力があり、英語が好きで暗記が苦にならない学生の受講が望ましい。やる気のある学生なら、学科は問わない。		

1. オリエンテーションおよび英語力テスト（以下の日本事象の暗記テスト及びリスニングテストで、受講者を選考します。絶対受講したいという希望者は1～7を暗記し、英語で書けるように準備してくること。）

前期 2. 11. 逐次通訳の訓練、英文和訳、英作文、模擬面接を中心に

12. 模擬1次試験

後期 13. 22. 逐次通訳の訓練、英文要約問題と和文要約問題、模擬面接を中心に

23. 模擬1次試験

24. 模擬2次試験

日本事象

1. Kabuki Kabuki is a traditional stage drama performed exclusively by men to the accompaniment of songs and music. It is characterized by a combination of rhythmical words, unique dancing, gorgeous costumes and stage settings.
2. Torii Torii is a gate of a Japanese shrine, consisting of two upright posts connected at the top by one or two horizontal cross-pieces. It is regarded as a barrier against defilement.
3. Kakejiku Kakejiku is a long vertical hanging scroll with a painting or calligraphy on it. It is usually displayed on the wall of the alcove in a Japanese house. The subject depicted on the scroll is selected to suit the season or occasion.
4. Minshuku Minshuku is a Japanese inn operated by private individuals in their own homes. It features moderate rate and an at-home atmosphere.
5. Bukkyo Bukkyo is Buddhism, founded in India and introduced through China and Korea to Japan in the 6th century. It teaches the way to self-perfection and enlightenment and has exerted a great influence on the spiritual and cultural life of the Japanese.
6. Tempura It is one of the most typical Japanese dishes. Prawns, small fish, squid and vegetables are deep-fried after being dipped in batter, and are served with a special sauce.
7. Omikuji Omikuji are oracles telling one's fortune written on pieces of white paper. People buy them at shrines and tie them to the branches of trees in the precincts, praying that good fortune may come true and that bad fortune may be driven away.

科 目 名	ビジネス英語 - 1	担当者名	海老沢 達 郎
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>Business English を、国際語である英語を使用してビジネスを促進遂行するためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から売買契約の成立、履行、求償、解決までを講義し、国際ビジネスに必要な基本的なビジネスレターの書き方を指導する。この科目は受講上限人数が決められていますので、人数オーバーの場合には、第1回目の授業で教室にて抽選（55名）で選考を行います。</p>		
講 義 概 要	<p>貿易立国日本にとっては異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。又、通信技術が発達し、経済がボーダレス化している今日において、英字新聞のビジネス欄を読み、国際経済情勢を理解するという能力も Business English にとって大変重要なものとなってきている。従って、「<u>英文経済記事の読み方</u>」を指導すると同時に、「<u>経済用語の解説</u>」について講義する。なお、経済についての予備知識は必要としない。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Tatsuo Ebisawa : <i>An Introduction to Business Writing</i> プリント	
	参 考 文 献	教室で指示する。	
評 価 方 法	<p>評価は前後期の試験と授業への貢献度によって決定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。又、積極的な学生諸君の受講を希望する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 1 回目の授業では 1 年間の講義概要の説明を行う。 2. 第 2 回目の授業では「Business English を学ぶにあたっての諸注意とビジネスレターの必要構成要素」について講義する。 3. 第 3 回目の授業では「ビジネスレターの特殊構成要素、スタイルと句読点、封筒とその書き方」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 4. 第 4 回目の授業では練習問題（ 1 ）を第 1 回レポートとし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。英文経済記事の読み方と解説 5. 第 5 回目の授業では練習問題（ 1 ）の解答をし、「効果的なビジネスレターの書き方（後半）と取引の申し込み」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 6. 第 6 回目の授業では「取引の申し込み（後半）と取引の申し込みに対する応答」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 7. 第 7 回目の授業では「取引の申し込みに対する応答（後半）」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 8. 第 8 回目の授業では「引合い」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 9. 第 9 回目の授業では「引合い（後半）」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 10. 第 10 回目の授業では練習問題（ 2 ）を第 2 回レポートとし、「引合いに対する応答」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 11. 第 11 回目の授業では「オファー」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 12. 第 12 回目の授業では前期授業のまとめを行う。 13. 第 13 回目の授業では前期試験問題の返却・解答と練習問題（ 2 ）の解答と諸注意などを行う。 14. 第 14 回目の授業では「オファー（後半）とオファーに対する応答」について講義する。英文経済記事の解説と読み方 15. 第 15 回目の授業では「オファーに対する応答（後半）と海上保険証券」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 16. 第 16 回目の授業では「信用状」について講義し、練習問題（ 3 ）を第 3 回レポートとする。英文経済記事の読み方と解説 17. 第 17 回目の授業では「信用状（後半）」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 18. 第 18 回目の授業では「積出しに関する通信」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 19. 第 19 回目の授業では「積出しに関する通信（後半）」について講義する。英文経済記事の解説と読み方 20. 第 20 回目の授業では「クレームと問題の解決」について講義する。英文経済記事の読み方と解説 21. 第 21 回目の授業では「クレームと問題の解決（後半）」について講義し、練習問題（ 3 ）の解答と諸注意などを行う。 22. 第 22 回目の授業では「英語を使用しての商談」について、ビデオを使用して講義する。 23. 第 23 回目の授業では「英文契約書」について講義する。 24. 第 24 回目の授業では後期授業のまとめを行う。
----------------------------	--

科 目 名	ビジネス英語 - 2	担当者名	海老沢 達 郎
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>大学を卒業しても簡単な英文レターも書けないのが現状であるので、本講義では、国際ビジネスに必要な基本的なビジネスレターの書き方を指導する。この科目は受講上限人数が決められていますので、人数オーバーの場合には、第1回目の授業で教室にて抽選（55名）で選考を行います。</p>		
講 義 概 要	<p>貿易立国日本にとっては異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。本講義では、Business English を国際語である英語を使用してビジネスを促進遂行するためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、<u>効果的なビジネスレターの書き方のポイント</u>を例を上げて説明・指導する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Tatsuo Ebisawa : <i>An Introduction to Business Writing</i> プリント	
	参 考 文 献	William C. Himstreet : <i>Business Communications</i> Richard C. Huseman : <i>Business Communication</i>	
評 価 方 法	<p>評価は前後期の試験と授業への貢献度によって決定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。又、積極的な学生諸君の受講を希望する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行う。 2. 第2回目の授業では「Business English を学ぶにあたっての諸注意とビジネスレターの必要構成要素」について講義する。 3. 第3回目の授業では「ビジネスレターの特殊構成要素、スタイルと句読点、封筒とその書き方」について講義する。 4. 第4回目の授業では練習問題(1)を第1回レポートとし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 5. 第5回目の授業では練習問題(1)の解答をし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 6. 第6回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 7. 第7回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 8. 第8回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 9. 第9回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 10. 第10回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 11. 第11回目の授業では練習問題(2)を第2回レポートとし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 12. 第12回目の授業では前期授業のまとめを行う。 13. 第13回目の授業では前期試験問題の返却・解答と練習問題(2)の解答と諸注意などを行う。 14. 第14回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 15. 第15回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 16. 第16回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 17. 第17回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 18. 第18回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 19. 第19回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 20. 第20回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 21. 第21回目の授業では練習問題(3)を第3回レポートとし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 22. 第22回目の授業では「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。 23. 第23回目の授業では練習問題(3)の解答と諸注意などをを行う。 24. 第24回目の授業では後期授業のまとめを行う。
----------------------------	---

科 目 名	ビジネス英語 - 3	担当者名	杉 山 晴 信
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を習得することがねらいです。日本商工会議所主催の商業英語検定試験 B クラスに合格できるレベルの実力（読解力・作文力・語彙力・実務知識）を養成することを具体的な目標とします。なお、私の担当する「ビジネス英語 - 4」とは内容がまったく異なりますので、注意して下さい。</p> <p><u>受講上限人数（55名）を超えた場合、第1回目の授業で適宜選考を行います。</u></p>				
講 義 概 要	<p>下記テキストの单元ごとに、当該单元で扱う貿易取引段階の実務遂行手順および通信文の“Skeleton Plan”について平易に講義します。次いで、履修者を適宜指名し、各单元のモデルレターを商用文としてふさわしい日本語に翻訳させるとともに、練習問題を黒板に書かせて添削するという形で毎回の授業を行います。また、1年を通じて、毎月の初回授業時に、下記テキストを出題範囲とする Vocabulary Check（語彙力診断テスト）を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td> <p>小池直己・杉山晴信「ビジネス英語の基本」(北星堂、1988) 小池直己・杉山晴信「商業英語検定試験にでる英単語」(南雲堂、1987)</p> </td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> <p>藤田仁太郎編、羽田三郎改訂「英和貿易産業辞典」(研究社、1987) 日本商工会議所「商業英語検定試験問題集 A・B 編」(日本商工出版、各年) 長野・秋山・岡本「商業英語検定試験」(南雲堂、1984) 石田貞夫「貿易の実務」(日経文庫、1965) 石田貞夫監修「ビジネス英語で学ぶ貿易取引」(学文社、1997) など</p> </td> </tr> </table>	テ キ ス ト	<p>小池直己・杉山晴信「ビジネス英語の基本」(北星堂、1988) 小池直己・杉山晴信「商業英語検定試験にでる英単語」(南雲堂、1987)</p>	参 考 文 献	<p>藤田仁太郎編、羽田三郎改訂「英和貿易産業辞典」(研究社、1987) 日本商工会議所「商業英語検定試験問題集 A・B 編」(日本商工出版、各年) 長野・秋山・岡本「商業英語検定試験」(南雲堂、1984) 石田貞夫「貿易の実務」(日経文庫、1965) 石田貞夫監修「ビジネス英語で学ぶ貿易取引」(学文社、1997) など</p>
テ キ ス ト	<p>小池直己・杉山晴信「ビジネス英語の基本」(北星堂、1988) 小池直己・杉山晴信「商業英語検定試験にでる英単語」(南雲堂、1987)</p>				
参 考 文 献	<p>藤田仁太郎編、羽田三郎改訂「英和貿易産業辞典」(研究社、1987) 日本商工会議所「商業英語検定試験問題集 A・B 編」(日本商工出版、各年) 長野・秋山・岡本「商業英語検定試験」(南雲堂、1984) 石田貞夫「貿易の実務」(日経文庫、1965) 石田貞夫監修「ビジネス英語で学ぶ貿易取引」(学文社、1997) など</p>				
評 価 方 法	<p>出席状況、授業貢献度、Vocabulary Check の累計得点といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>コンスタントに出席すること、十分な予習と復習をすること、つねに語彙力増強に努めることを履修の条件とします。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間の授業計画を説明し、ビジネス英語の意義と概念について講義します。(テキスト：第1部 p.p.2～3、配布プリント) 2. ビジネス通信文の構成要素、句読法、書式、上書き等の外形的な側面について講義します。(テキスト：第1部 p.p.4～15) 3. ビジネス通信文の文体の特徴について講義します。(テキスト：第1部 p.p.16～18) 4. 第1回 Vocabulary Check を実施するとともに、「取引先の発見」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit1、p.p.20～22) 5. 「取引の申込み」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit2、p.p.23～25) 6. 「取引の申込み」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit3、p.p.26～28) 7. 「信用照会」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit4、p.p.29～31) 8. 第2回 Vocabulary Check を実施するとともに、「引合い」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit5、p.p.32～34) 9. 「引合い」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit6、p.p.35～37) 10. 「引合いに対する返事」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit7、p.p.38～40) 11. 「引合いに対する返事」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit8、p.p.41～43) 12. 第3回 Vocabulary Check を実施するとともに、「オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit9、p.p.44～46) 13. 「カウンター・オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit10、p.p.47～49) 14. 第4回 Vocabulary Check を実施するとともに、「注文」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit11、p.p.50～52) 15. 「注文の受諾」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit12、p.p.53～55) 16. 「注文のことわり」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit13、p.p.56～58) 17. 「成約」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit14、p.p.59～61) 18. 第5回 Vocabulary Check を実施するとともに、「信用状督促」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit15、p.p.62～64) 19. 「船積通知」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit16、p.p.65～67) 20. 「船積遅延と信用状訂正」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit17、p.p.68～70) 21. 「クレーム」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit18、p.p.71～73) 22. 第6回 Vocabulary Check を実施するとともに、「クレーム」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit19、p.p.74～76) 23. 「クレーム調整」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit20、p.p.77～79) 24. テキストで直接取り上げていない Courtesy Letters の代表例として、「人物照会状」と「人物推薦状」の読解と作成の訓練を行います。(配布プリント)
----------------------------	---

科 目 名	ビジネス英語 - 4	担当者名	杉 山 晴 信
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ビジネス通信文 (Business Correspondence) を中心に営まれるビジネス・コミュニケーションの果たす役割は、伝達の機能 (function to inform) と説得の機能 (function to persuade) に大別できます。この授業では、2 つの機能においてビジネス通信文を最大限に効果あらしめるための文章戦略 (writing strategies) について、英語学・言語学・心理学・統計学等の関連領域から学際的な調査・研究を行います。なお、受講上限人数 (55 名) を超えた場合は、第 1 回目の授業で適宜選考を行います。</p>		
講 義 概 要	<p>当方の用意するプリント教材に基づいて講義を行った後、履修者をいくつかの班に分け、グループワークによって共通の課題を解決していくという形をとります。原則として、1 つのテーマ (セッション) につき、講義 2 回とグループワーク 1 回の計 3 時間分で完結するものとします。全員参加の原理によって授業が行われますので、履修者は積極的に自分の意見を開示するとともに他人の発言を傾聴することが求められます。初回の授業でより詳しく説明しますので、履修希望者は必ず出席して下さい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	配布プリント	
	参 考 文 献	<p>則定隆男「ビジネス英語を学ぶ・考える」(英宝社、1990) 中村巳喜人「ビジネス・コミュニケーション論」(同文館、1978) 安本美典「文章心理学入門」(誠信書房、1965) 安本美典「説得の文章技術」(講談社、1983) 北尾 S・キャスリーン・北尾謙治「ライティング・ストラテジー」(郁文堂、1996)</p>	
評 価 方 法	<p>出席状況、授業およびグループワークへの貢献度、課題提出状況といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験 (またはレポート) の結果を加味して決定します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>直接的な参加が最もウェイトの大きな評価対象となりますので、コンスタントな出席と積極的な意見の開示を強く要望します</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間の授業計画を説明し、ビジネス・コミュニケーションの概念について講義します。 2. ビジネス通信文の伝達の機能をめぐる問題として、意味論的な“ambiguity”と“vagueness”の危険性を摘示し、それらに対する対処法を検討します。 3. 同 上 4. 上記のテーマについてグループワークを行います。 5. ビジネス通信文の伝達の機能をめぐる問題として、意味論的な“hyponym”と“overlapping”について実例を用いて学習します。 6. 同 上 7. 上記のテーマについてグループワークを行います。 8. ビジネス通信文の伝達の機能をめぐる問題として、類義語(synonyms)の使用に伴う危険性を法制度、商習慣、文化的事情などと関連づけて考察します。 9. 同 上 10. 上記のテーマについてグループワークを行います。 11. 前期の授業を総括し、ビジネス通信文を伝達の機能の面からレベルアップし、正確な情報伝達を実現するための文章戦略を導出します。 12. 後期の授業の頭出しとして、ビジネス通信文を説得の機能の面からレベルアップし、所期の目的を達成するための文章戦略を概観します。 13. ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、“Readability”の測定法と適切な読者設定(audience identification)のあり方について詳しく講義します。 14. 同 上 15. 上記のテーマについてグループワークを行います。 16. ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、“You-Attitude”の基本原則を実現するための種々のライティング技法について検討します。 17. 同 上 18. 上記のテーマについてグループワークを行います。 19. ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、各種のメッセージ構成法(organizational patterns)を紹介するとともに、適用事例について検討します。 20. 同 上 21. 上記のテーマについてグループワークを行います。 22. ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、メッセージの配列(sequence)と印象形成(impression formation)の効果の関係について検討します。 23. 同 上 24. 上記のテーマについてグループワークを行います。
----------------------------	---

科 目 名	ビジネス英語 - 5,6	担当者名	信 達 郎
-------	--------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力をのばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取りあげる科目である。ビジネスと言っても、いろいろな業種があり、また、オフィス環境も経理から営業、それに秘書業務まで様々であるが、とにかくビジネス環境に即した実際的な授業にしていきたい。この科目は受講上限人数が 55 名と決められているため、第 1 回目の授業で簡単なテストで選考を行うことがある。</p>		
講 義 概 要	<p>基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の 3 部構成で、参加型の授業である。また、発表や黒板を使つての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級、日本商工会議所主催の商業英語検定の B クラス受験可能程度を日標に定めた。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>『マルチトピックのビジネス英語』信、井著、南雲堂フェニックス 『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』信達郎編著、南雲堂フェニックス</p>	
	参 考 文 献	<p>授業を通じ、適宜指示する。</p>	
評 価 方 法	<p>受講姿勢 50%、ペーパーテスト 50%</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>成績にこだわるのではなく、実力を少しでも上げることに興味を持つ学生に参加してもらいたい。受講態度が悪い者は、退場を命ずる。当然のことながら、私語厳禁。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>以下の内容はあくまでも、めやすであり授業の進行により異なる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネス英語の特徴 2. プリント (英文ビジネスコラム) 3. 取引概略 4. プリント 5. 取引概略 6. プリント 7. 引合 (inquiry) 8. プリント 9. オファー (offer) 10. プリント 11. オファー 12. プリント 13. 契約 (contract) 14. プリント 15. 契約 16. プリント 17. クレーム (claim) 18. プリント 19. クレーム 20. プリント 21. コンピュータ英語 22. プリント 23. コンピュータ英語 24. プリント
----------------------------	---

科 目 名	ビジネス英語 - 7	担当者名	山 本 孝 夫
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ボーダーレスの現代ではビジネスの標準語は英語です。国際的な舞台や現代のビジネスの世界で活躍することをめざす人々は「国際ビジネスの標準語」と「ビジネス・契約知識」をマスターするのがその資格と考えてみてはどうでしょうか。クラスでは、具体的なケースをとりあげて、自由な意見交換を通じて、国際ビジネスに不可欠なビジネス英語、契約英語、取引契約の実際を学びます。国際売買契約、ライセンス、エンターテインメント、映画制作輸入、ミュージカル制作・上演契約、外資との雇用、Resume（英文履歴書）、...ビジネスの基礎・契約・英語を修得します。毎回、新しく楽しいゲームに挑戦する気持でください。ゲームレベルは『国際実用』レベルです。</p>		
講 義 概 要	<p>「セリーヌ・ディオン、マライヤ・キャリーをキャンパスに呼ぶとしたら、どんな契約を作りますか?」「Speed, Max, Luna Sea なら?」具体的で身近なビジネス・ケース、仮想ケース、判例をとりあげて学びます。CIF, FOB など「国際貿易条件」、「国際取引の特色とリスク」、「合併事業 (Joint Venture)」、「音楽・ミュージカル・映画の制作・配給・放送・ビデオグラム化」、「マクドナルドなどフランチャイズ契約」、「Virgin, Body Shop などベンチャー」をミシガン大学 Law School、ロンドン、サンフランシスコ、東京（三井物産）で国際取引、プロジェクト、訴訟、ライセンス取引に携わってきた経験をもとに、ケースメソッドと学生のために執筆したテキストで学んでいきます。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>1.プリント(毎回配布)、2.「英文契約書の書き方」(山本孝夫、日経文庫、日本経済新聞社)、3.「知的財産・著作権のライセンス契約入門」(山本孝夫、三省堂)</p>	
	参 考 文 献	<p>1.「International Business Transactions」(West Publishing, コースブック版) 2.「国際取引・知的財産法の学び方～梁山泊としてのゼミナール」(山本孝夫「国際商事法務」94.1 から 98.8 まで 56 回連載) 3.「貿易取引入門」(新堀聡、日本経済新聞社) 4.「英文ビジネスレター文例大辞典」(田久保、橋本、日本経済新聞社) 5.「ベンチャーマネジメントの変革」(山本孝夫共編著、日本経済新聞社) 6.「ビジネス英文手紙の書き方」(大田原、日経文庫) 7.「国際取引法」(松枝、三省堂)</p>	
評 価 方 法	<p>前後期 2 回のレポートとクラスへの参加・貢献を重視します。これ迄 7 年間は、竹田ゼミ、梶山ゼミ、独語学科、仏語学科はじめ受講生が意欲的だったので、レポートとしてきました。新年度も、前期のレポートを自由テーマとし、9 月末が期限です。「テーマのヒント 20」を 6 月配布します。(プリント 10 枚) レポートは 3 千字以上とします。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>私は授業は受講生と教師の 1 対 1 の意見交換により、共同で作って行くものだと考えています。毎回、B5 版の「質問・メッセージ・自由テーマ」のメモ(リアクション・ペーパー)で自由に意見を聞かせて下さい。教壇・講師室に気軽に話しに来て下さい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 開講にあたり 1 年間の目標とすすめ方、基本参考書、サブリーディング、レポートとこれ迄の例、英文契約、ビジネスの基本、国際取引の実際...を紹介します。</p> <p>2. マイラヤ・キャリア、セリーヌ・ディオンをキャンパスに呼ぶとしたら、どんな契約書を作りますか？SPEED, MAX, Luna Sea ならいかがですか。具体的なケースで、国際取引の特色とリスクを取り上げます。</p> <p>3. 具体的で身近なケースをもとに「国際取引の種類」を学びます。94 年は名古屋空港エアバス事故、95 年はロック・ミュージカル公演、96 年は「VIRGIN」(R・ブランソン)、97 年は「マックスマラ、ベルサーチ」、98 年は「タイタニック」でした。</p> <p>4. ギリシャの Alpha 社がニューヨークの Santa Claus に Toy を注文します。Alpha 社の Enquiry、発注書(Purchase Order)を読み、価格の決め方、船荷証券(Bill of Lading)を学びます。</p> <p>5. Santa Claus (第 2 回) Free on Board とは何でしょうか。CIF とは何でしょうか？L/C, B/L, Confirming Bank とは何ですか？(「貿易取引入門」pp98 - 173)</p> <p>6. 米 Georgia 州の Sam Silver が英 Bath の Bill Bones から「Desire under Thornbush」(本)を FOB Savannah (Georgia)条件で 100 冊、Hunt から CIF Bath 条件で 100 冊注文を受けます。</p> <p>7. Sam Silver ケース(第 2 回)。「売主が Georgia, 買主が 2 人とも Bath 在住卸売商、船積港がサバンナ、仕向先が Bath です。「FOB サバンナ」「CIF バス」で同じ金額の注文なら、売主はどちらに売りますか。</p> <p>8. イタリア・ジュノバのヨットの見本市で出展されていた美しいヨット(カロライン号)を日本企業(パスポート SHIPPING 社)が購入。引渡をうけ、日本で所有権登録も完了。そこに、先に買ったという米企業が現れます。</p> <p>9. カロライン号事件(第 2 回) 日本企業が購入したカロライン号は 3 ヶ月前にアメリカのユニバーサル社(ペンシルバニア州)にパシファル社(英)経由、転売されていたのです。カロラインは誰のもの？(「梁山泊 36」96.12) ヨットでなく宝石ならいかがですか？</p> <p>10. 国際ビジネスの世界では、Business Writing、契約、紛争処理のいずれをとっても、アメリカの法律制度とブラクティスの影響が大きいのです。UCC の Warranties(保証)とは何ですか？</p> <p>11. 国際的取引には不誠実な人々が登場します。サッカーワールド・チケット事件、あなたならどうして売主の権限を確認しますか？ナイジェリアからの Letter を読みます。有名な詐欺のレターです。98 年 11 月に私あてにラゴスから届きました。</p> <p>12. これまでの授業をふり返り、いただいた質問に答え、意見交換します。10/11 回には、「英文履歴書」「国際(外資)雇用」「アメリカの UCC と訴訟」「前期レポートのテーマとヒント」も取り上げます。</p> <p>13. 後期の重点テーマと指針を紹介します。あなたの夏休みの成果を聞き、私のすごし方をお話します。99 年の夏休みは、札幌大・東北大・横浜国立大での講義と明治大ゼミの清里合宿、「英文契約辞典」の執筆でした。</p> <p>14. ビジネスに関わる基本的な用語、契約英語を紹介します。May, Shall はどういう意味ですか。6 - パーセントは英語では？数字、期限、期間はどのように表現しますか？</p> <p>15. 「国際技術移転・知的財産ライセンス」の基本を紹介します。英文契約の基本条件、基本的表現をブランドビジネス、エンターテイメントビジネス、ライセンス契約とともに学びます。</p> <p>16. 「映画・ミュージカル・音楽(1)」...国際的なエンターテイメント・ビジネスの実際を 3 回にわたり、とりあげます。ビジネス知識と契約条件、判例を学びます。</p> <p>17. 「フィーリング」という歌を知っていますか。Bee Gees は？Piracy とは？Feeling 事件、Bee Gees 事件、ダラスカーボイズ・チャリダー事件をとりあげます。</p> <p>18. ロンドンから、ブロードウェイからミュージカルを呼ぶには、どうすればよいと思いますか？ミュージカル公演契約とはどんなふうにかき上げますか？アーティスト契約は？</p> <p>19. 映画の輸入・配給はどのように行いますか？ AFMA 映画輸入契約約款をみたことがありますか？マクドナルドのフランチャイズ契約を見ましたか？</p> <p>20. 就職活動・留学についての「先輩(4 年と OB, OG)からの後輩に贈ることば」(アドバイス)をプリントで紹介。98 年は、40 名分の助言をプリント 10 枚で紹介しました。(20 頁分です。)</p> <p>21. 「海外への進出と合併事業」「販売店」「代理店」契約について紹介します。ジョイント・ベンチャーとベンチャーはどうちがいますか？合併と合弁は何が違いますか？</p> <p>22. 「国際取引紛争と解決」仲裁と訴訟とはどう異なりますか？ADR というのは何でしょうか？ICC, AAA, JCAA, UNCITRAL, LCIA とは？</p> <p>23. Anti - Trust, Tax Treaty, P/L とは何ですか？a Delaware Corporation は何ですか？開発と環境につきどう考えますか？</p> <p>24. 自由な質疑応答の日とします。後期のレポートのヒントを 11 月に配ります。98 年・97 年受講の方も登録していない方も、クラスにたずねて来て下さい。OB, OG の方も歓迎します。</p>
----------------------------	--

科 目 名	ビジネス英語	担当者名	杉 山 晴 信
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>日本商工会議所主催の商業英語検定試験 A・B クラスの実務部門に合格できるレベルに目標を設定して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易取引の全体にわたって万遍なく講義するつもりですので、貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、通関士国家試験を目指す人などに極めて有益な情報を提供できるものと自負しています。なお、<u>受講上限人数(55名)を超えた場合には、第1回目の授業で適宜選考を行います。</u></p>		
講 義 概 要	<p>前期は貿易取引の流れを、主に輸出者の視点から、時系列的に6つのステージに区分してマクロ的に鳥瞰します。後期はミクロ的に、貿易形態、信用調査、オファー、一般取引条件、インボイス、船荷証券、信用状、海上保険といった専門事項(technicalities)について講義します。本講義で使用する下記のテキストは英文ですが、履修者はあらかじめ所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、講義はテキストの内容を補助プリントを用いて敷衍する形で進めます。また、教師側からの一方的な情報伝達に偏することのないよう配慮し、履修者にも頻繁に発言や説明を求めるつもりですので、積極的な授業参加を強く要望いたします。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>伊藤克己・太田正孝・稲津一芳・W.O' Connor 『現代商業英語読本』(英潮社、1988) 配布プリント</p>	
	参 考 文 献	<p>浜谷源蔵 『最新貿易実務(増補二版)』(同文館、1995) 田中・中川・中谷 『国際売買契約ハンドブック』(有斐閣、1986) 粕谷慶治・山田晃久 『国際貿易論』(学文社、1990) 桐谷芳和 『貿易取引と信用状』(経済法例研究会、1987) 杉若雄次 『貿易取引と貿易金融』(経済法例研究会、1986) など</p>	
評 価 方 法	<p>出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間の講義計画を説明するとともに、貿易という営みが国際社会に果たす役割について考えます。(テキスト：p.p.2~3) 2. 貿易実務の遂行手順を輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分し、その各々について概説します。(テキスト：p.p.14~22) 3. 貿易マーケティングの段階について、市場調査 (Market Research) を中心に講義します。(テキスト：配布プリント) 4. 取引関係創設の段階のうち、取引先の選定、取引の申込み、引合いまでを取り上げて講義します。(テキスト：p.p.42~53、配布プリント) 5. 取引関係創設の段階のうち、信用照会 (Credit Inquiry) について詳細に講義します。(テキスト：p.p.54~60、配布プリント) 6. 貿易取引の成約段階のうち、一般取引条件 (General Terms & Conditions) で取り決めるべき諸条項を詳細に検討します。(テキスト：p.p.77~80、配布プリント) 7. 貿易取引の成約段階のうち、オファーから受注にいたるまでの過程を講義します。(テキスト：p.p.61~76、配布プリント) 8. 貿易取引の履行段階のうち、約定期品の調達から船積 (Shipment) の手配までの過程を講義します。(テキスト：p.p.81~88、配布プリント) 9. 貿易取引の履行段階のうち、為替予約 (Forward Exchange Contract) 海上保険 (Marine Insurance) の付保、輸出通関までを取り上げて講義します。(テキスト：p.p.94~97、配布プリント) 10. 貿易決済の段階のうち、船積書類 (Shipping Documents) の整備から荷為替手形 (Documentary Bill) の取組までの過程を講義します。(テキスト：p.p.89~93、配布プリント) 11. 貿易決済の段階における各種の決済方法の特色を考察し、さらに為替リスクの回避を検討します。(テキスト：配布プリント) 12. 貿易クレームおよびクレーム調整の段階につき、特に国際商事紛争の解決手段としての仲裁 (Arbitration) をテーマに講義します。(テキスト：p.p.98~105、配布プリント) 13. 貿易の主体、取引の損益性、契約の自主性などの観点から種々の貿易形態について講義し、各々の特色や長所・短所を比較検討します。(テキスト：p.p.4~6、配布プリント) 14. 信用調査の目的・方法、調査項目などについて講義し、調査依頼状の書き方や調査報告書の読み方を実例を用いて学びます。(テキスト：配布プリント) 15. 各種オファーの特色を講義し、オファーと承諾をめぐる法的な諸問題について学習します。(テキスト：配布プリント) 16. いわゆるインコタームズ (Incoterms) に規定された定型貿易条件について講義し、実例に基づき輸出価格の積算訓練を行います。(テキスト：配布プリント) 17. 輸出通関および船積の手続一般について、在来船の場合とコンテナ船の場合とに区分して、各々詳細に講義します。(テキスト：配布プリント) 18. インボイス (Invoice) について講義し、各種インボイスの内容と目的、記載事項などを学習します。(テキスト：巻末付録、配布プリント) 19. 船荷証券 (Bill of Lading) について講義し、各種船荷証券の定義、法的性質、記載事項などを学習します。(テキスト：巻末付録、配布プリント) 20. インボイスと船荷証券以外の船積み書類 (Shipping Documents) について講義し、各々の内容と目的を学習します。(テキスト：巻末付録、配布プリント) 21. 海上保険について講義し、各保険条件の填補範囲と免責事項を学習するとともに、実例に基づいて保険料の算出訓練を行います。(テキスト：巻末付録、配布プリント) 22. 荷為替信用状 (Documentary L/C) について講義し、信用状の意義、種類、当事者、信用状決済の長所・短所などを学習します。(テキスト：巻末付録、配布プリント) 23. 貿易実務の遂行手順を輸入者の視点からとらえ直して前期の授業を総復習します。(テキスト：p.p.19~22) 24. 後期の授業を総復習するとともに、疑問点や不明な点につき質疑応答を行う予定です。
----------------------------	--

科 目 名	時事英語 - 1,2	担当者名	新 井 妥 門
-------	------------	------	---------

講義の目標	この科目は受講上限人数が決められていますので、第1回目の授業において抽選により選考を行いません。クラスの数日前に録音した放送英語(CNN, BBC, NBC, CBS)のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。		
講義概要	学生中心のディクテーションをする。聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその部分を把握していくことにポイントを置く。		
使用教材	テキスト	テキストは使用せず、受講生は60分カセットテープを持参すること。そのテープに教材を随時録音していく。	
	参考文献	例文の多い辞書を持参すること。できれば英英辞書が良い。必ず小さなカセットテープレコーダーを毎回持参すること。	
評価方法	定期試験、出席状況を含む平常点		
受講者に対する要望など	予習により聞きづらい部分を確認しておくこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形式についての説明 2. 教材(CNN)の録音とクラス全体でのディクテーション 3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 6. 聞き取りにくい語のまとめ 7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 12. 聞き取りにくい語のまとめ 13. 教材(CNN)の録音とクラス全体でのディクテーション 14. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 15. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 16. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 17. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 18. 問題となる語句のまとめ 19. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 20. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 21. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 22. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 23. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 24. 問題点のまとめ 		

科 目 名	時事英語 - 3	担当者名	金 子 節 也
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家への英語インタビューを読み、かつ聞きながら、日本の今後の進路、他国との協調を考える。英字新聞などの最新記事は言うに及ばず、CNNをはじめ、テレビ放送のVTR、インターネットをおおいに活用したい。		
講 義 概 要	主テキストのインタビュー集（音声あり）を中心に、日本をとりまく諸情勢を聞きかつ読みながら理解し考察する。必須語い・表現に関しては、自ら運用できるよう努力する。 その後の情勢の展開については、最新の新聞記事、雑誌、TV、インターネットなどにより補足してゆく。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	金子節也著； <i>I Too , Am a Bit of a Workaholic , but ...</i> , こびあん書房、1988 ほか （ほかにTV放送などからのサブ教材使用予定）	
	参 考 文 献	金子節也著『ニッポン・ウォッチング』朝日出版社、1991、他。	
評 価 方 法	出席状況、ふだんの授業へのコミットメント、テスト成績の3つを主な評価基準とする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	この科目は受講制限人数が 55 名です。これを上回る希望者の場合は、第一回目の授業において抽選を行います。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. キーワードによるオリエンテーション。政治、経済、文化...幅広くキーワードを使って、いまの日本と世界の関係を浮きぼりにする。</p> <p>2. 日米関係 その1、テキストの2, “The Media Plays Up American Pressure” の最初の3分の1。テキスト pp.11-14</p> <p>3. 日米関係 その2、テキスト pp.15-18 その他最新英字紙等による補足。アメリカ口語表現の特徴などにもふれる。</p> <p>4. 日米関係 その3、“A Caution to the U.S.-Japan Relationship”(pp.19-22) その他英字紙。</p> <p>5. 日米関係 その4、テキスト pp.23-27 アメリカ人の日本観を最新資料にて補足。</p> <p>6. 日本関係 その5、テキストの4 “How to Influence Big Business and Go Win-Win”(pp.29-33)</p> <p>7. 日米関係 その6、テキスト pp.34-36 アメリカン・ドリームについて、成功者の信念について学ぶ。 最新ビジネス用語にもふれる</p> <p>8. 日英関係 その1、テキスト “I Too, Am a Bit of a Workaholic, but...”(pp.37-41) 現代イギリス事情にもふれる。</p> <p>9. 日英関係 その2、テキスト pp.38-46 日本がまだ多くのことを英国から学ぶべきこと、等を認識する。英米語のちがいにふれる。</p> <p>10. ハイテク技術と雇用 その1、テキスト pp.55-59 産業ロボットの導入と労使関係。</p> <p>11. ハイテク技術と雇用その2、テキスト pp.60-64</p> <p>12. イギリス事情 その1、テキスト “The Unions Were Just Too Greedy”(pp.47-51) 日英生産性比較。</p> <p>13. イギリス事情 その2、テキスト pp. 52-55</p> <p>14. ジャーナリズム研究その1、テキスト “I Must Have a Little Japanese Blood”(pp.1-5) , アメリカのジャーナリズムについて。</p> <p>15. ジャーナリズム研究 その2、テキスト pp. 6-8 検閲制度について。言論・出版の自由について。</p> <p>16. ジャーナリズム研究 その3、テキスト pp. 8-18 編集者の心がけについて。話者の英語の特色にふれる。</p> <p>17. アジア その1、テキスト “Japan as a Big Brother” の “Help US Stand on Our Own Two Feet”(pp.65-67)</p> <p>18. アジア その2、テキスト “The Japanese Rather Look West”(pp.68-70)</p> <p>19. アジア その3、テキスト “Do More for Our Spiritual Enrichment”(pp.71-73)</p> <p>20. ジャパン・バッシング その1、テキスト <i>Japan Unveiled.</i> “Japan, Not Russia, Main Threat”(pp.2-4)</p> <p>21. ジャパン・バッシング その2、テキスト “Bashing Japan Isn't the Answer”(pp.6-8)</p> <p>22. キャリア・ウーマン その1、テキスト “OL - She's Indispensable”(pp.33-34)</p> <p>23. キャリア・ウーマン その2、テキスト “Japan's New Breed of Office Ladies”(pp.36-41)</p> <p>24. 高齢化社会の到来。テキスト “Japan's Aging Population - A Guinea Pig”(pp.72-76) 備考 テキスト <i>Japan Unveiled</i> は購入の必要はない。ほとんど毎時間、新聞等からの補足教材プリント配布・使用。</p>
----------------------------	--

科 目 名	時事英語 - 4,5	担当者名	工 藤 政 司
-------	------------	------	---------

講義の目標	世界の情勢をリアルタイムで把握することは国際人の必須条件である。時事英語 では英語を通して海外事情、海外から見た国内事情に通暁し、国際人としての教育を身につけることを目指す。受講者は外国の新聞雑誌に取り上げられた記事を通して視野が広がったことを実感するだろう。 制限人数 55 名を越えた場合には抽選によって選考する。		
講義概要	英文を正しく理解することに重点を置いた授業を行なう。		
使用教材	テキスト	プリント使用。	
	参考文献	Time, Newsweek, New York Times Weekly Review, The Economist その他内外の英字新聞および雑誌。使用するのとは主として上記新聞雑誌の記事である。	
評価方法	前後期の試験各一回の成績、及び出席を含む平常点をもって評価する。		
受講者に対する要望など	予習が必要である。なお、時事英語は時々刻々と変化する内外事情を扱うので講義予定の順序や項目には変更が生じることがある。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方についてのオリエンテーション 2. 外から見た日本の政治 3. 外から見た日本の政治 4. アメリカの政治 5. アメリカの政治 6. アメリカの社会問題 7. アメリカの社会問題 8. イギリスの政治と経済 9. イギリスの政治と経済 10. 科学の現況 11. 中国問題、その発展と問題点 12. 中国問題、その発展と問題点 13. 環太平洋地域の問題 14. 工業の発展と世界の環境問題 15. 工業の発展と世界の環境問題 16. ドイツの政治と経済 17. EU 問題 18. フランスの問題を読む 19. ロシアの現況と北方領土問題 20. New York Times Op. Ed 21. New York Times Op. Ed、継続講義 22. Time の Cover Story を読む 23. Time の Cover Story を読む 24. Time の Cover Story を読む 		

科 目 名	時事英語 - 6	担当者名	佐藤 真千子
-------	----------	------	--------

講義の目標	本講義では、英語を介して現代の国際問題に関する意識を高め、理解力を養うことを目的とします。第一に、ニュース記事で頻用される英語の基礎的語句や政治・経済の専門用語を習得し、国際社会における外交問題、政治問題等について書かれた英文に慣れ親しむことを目指します。第二に、単なる英文和訳にとどまらず記事内容についての理解を深めるために、ニュースの背景や関連事項に関する知識を獲得し、内容を正しく把握できるようになることを目標とします。		
講義概要	本講義では、国内外の英字新聞、英文雑誌の報道記事や論説を教材として使用します。特に、現代国際社会の外交問題を重点的に取り上げ、その現状や動向に注目していきます。流動的なニュースを、歴史的資料や関連問題と併せてとらえる作業を行ない、内容を深く理解することを試みます。 授業形態は、学生の皆さんによる発表が中心となります。		
使用教材	テキスト	プリント配布	
	参考文献		
評価方法	平常点、レポート提出、前・後期の期末試験を総合的に評価します。		
受講者に対する要望など	日頃から国際問題に関心を持つようにして下さい。受講上限人数を超える場合は、第一回目の授業で時事英語のテストを実施し、選考を行います。		
年間授業計画	適宜、時事問題を取り上げます。		

科 目 名	時事英語 - 7	担当者名	信 達 郎
-------	----------	------	-------

講義の目標	<p>新聞や、英文のニュースは時事英語と知られているものであるが、その特徴は、報道内容の把握と現代英語の理解にある。また、時事英語は、そのニュースの内容に応じてやや専門用語や慣用語が異なるのもその特徴である。そのため、実際に現代英語がどのように使われているかを、教材とプリントを通じて演習形式で理解することが目的となる。</p> <p>この科目は受講上限人数が 55 名と決められているため、第一回目の授業で簡単なテストで選考を行うことがある。</p>		
講義概要	<p>1 教室での教材を使った演習。 2 適宣、現代のニュースを理解するための課題の指示。 3 録画ビデオ、映画による授業。 4 ニュース内容に関して英語での要約とコメント。</p>		
使用教材	テキスト	『最新「タイム英語」攻略辞典』（講談社） 大学生の「時事英語基礎チェック」（金星堂）	
	参考文献	適宜指示する。	
評価方法	受講態度 50%、定期考査 50%		
受講者に対する要望など	成績にこだわることでなく、熱意があり、英語力をつけることに関心がある学生を歓迎する。		
年間授業計画	<p>1 . 総論。次の年間スケジュールはあくまでも内容の概略であり、ニュースの進行により順序は異なる。</p> <p>2 . Education</p> <p>3 . Environment</p> <p>4 . - do -</p> <p>5 . Business matters (finance)</p> <p>6 . Business matters (industry)</p> <p>7 . Economic matters (general)</p> <p>8 . Economic matters (international)</p> <p>9 . Political matters (domestic)</p> <p>10 . Political matters (international)</p> <p>11 . Defense matters</p> <p>12 . Culture</p> <p>13 . - do -</p> <p>14 . Science</p> <p>15 . Technology</p> <p>16 . Social issues</p> <p>17 . - do -</p> <p>18 . World Climate</p> <p>19 . Weather report</p> <p>20 . Traveling</p> <p>21 . - do -</p> <p>22 . Crimes</p> <p>23 . Trials</p> <p>24 . Nature</p>		

科 目 名	時事英語 - 8	担当者名	W.J.ベンフィールド
-------	----------	------	-------------

講義の目標	To develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs.		
講義概要	We will look at eight major topics over the course of the year, devoting three classes to each one. Initially we will analyze each topic through the medium of articles drawn from a range of English-language publications or video clips. It will also be necessary sometimes to look into the historical background underlying the events to get a clearer picture of what is happening today. Further research into the topics will be done for homework leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, analyze the language of news reporting, and look at the process of news gathering and reporting. There will also be regular quizzes on current events.		
使用教材	テキスト	Print and video.	
評価方法	Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Course outline and student selection. There is a limitation on the number of students who can take this class. If registration is oversubscribed, students will be selected randomly. 2 . Review of main news stories of previous year. 3 . Topic 1 : reading / viewing, discussion. 4 . Topic 1 : continued. 5 . Topic 1 : group presentations. 6 . Topic 2 : reading / viewing, discussion. 7 . Topic 2 continued. 8 . Topic 2 : group presentations. 9 . Topic 3 : reading / viewing, discussion. 10 . Topic 3 continued. 11 . Topic 3 : group presentations. 12 . Topic 4 1 . Revision of first semester's work 2 . Topic 5 : reading / viewing, discussion. 3 . Topic 5 continued. 4 . Topic 5 : group presentations 5 . Topic 6 : reading / viewing, discussion. 6 . Topic 6 continued. 7 . Topic 6 group presentations. 8 . Topic 7 : reading / viewing, discussion. 9 . Topic 7 continued. 10 . Topic 7 : group presentations. 11 . Topic 8 : reading / viewing, discussion. 12 . Topic 8 continued 		

科 目 名	時事英語 - 1	担当者名	新 井 妥 門
-------	----------	------	---------

講義の目標	この科目は受講上限人数が決められていますので、第1回目の授業において抽選により選考を行いません。クラスの数日前に録音した放送英語(CNN, BBC, NBC, CBS)のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。		
講義概要	学生中心のディクテーションをする。聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその部分を把握していくことにポイントを置く。		
使用教材	テキスト	テキストは使用せず、受講生は60分カセットテープを持参すること。そのテープに教材を随時録音していく。	
	参考文献	例文の多い辞書を持参すること。できれば英英辞書が良い。必ず小さなカセットテープレコーダーを毎回持参すること。	
評価方法	定期試験、出席状況を含む平常点		
受講者に対する要望など	予習により聞きづらい部分を確認しておくこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形式についての説明 2. 教材(CNN)の録音とクラス全体でのディクテーション 3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 6. 聞き取りにくい語のまとめ 7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 12. 聞き取りにくい語のまとめ 13. 教材(CNN)の録音とクラス全体でのディクテーション 14. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 15. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 16. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 17. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 18. 問題となる語句のまとめ 19. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 20. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 21. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 22. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 23. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 24. 問題点のまとめ 		

科 目 名	時事英語 - 2	担当者名	佐藤 真千子
-------	----------	------	--------

講義の目標	本講義では、英語を介して現代の国際社会におけるアメリカ外交の動向に注目し、理解力を養うことを目的とします。第一に、アメリカ外交政策について報じている新聞や雑誌の記事などから、英語の基礎的語句や政治・経済の専門用語を習得することを目指します。第二に、単なる英文和訳にとどまらず内容についての理解を深め、歴史的背景や関連事項についての知識を獲得することを狙いとします。		
講義概要	本講義では、新聞、雑誌、米政府が発表した資料を教材として使用します。アメリカの外交政策や議会の動向に注目していきます。新しい材料を扱うだけでは内容の分かりにくい部分もあるため、場合によっては、関連する歴史的資料を利用しながら読み進めることもあります。 授業形態は、学生の皆さんによる発表が中心となります。発表では、記事の訳に限らず、内容に関する解説や補足説明も担当してもらいます。		
使用教材	テキスト	プリント配布	
	参考文献		
評価方法	平常点、レポート提出、前・後期の期末試験を総合的に評価します。		
受講者に対する要望など	日頃から国際問題に関心を持つようにして下さい。受講上限人数を超える場合は第一回目の授業で時事英語のテストを実施し、選考を行います。		
年間授業計画	適宜、時事問題を取り上げます。		

科 目 名	ドイツ語	担当者名	古 田 善 文
-------	------	------	---------

講義の目標	実践的ドイツ語の総合的な向上をめざすのがこの授業の最大の目的ですが、言語の背景にある社会・文化状況の把握にもつとめます。今年は、「ドイツの若者」を年間の基礎テーマに設定します。		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 年間プランに記したテーマについて、毎回、簡単な新聞記事、若者向けの雑誌など比較的読みやすい教材を使用します。必要に応じて文法などの説明も簡単に加えます。 2) 読解力とあわせて聞き取り能力の向上をはかるため、関連するビデオや音楽などの視聴覚教材も適宜使用する予定です。 3) テーマによってはグループ作業・報告なども計画しています。 		
使用教材	テキスト	原則としてプリントを使用します。	
	参考文献		
評価方法	前期と学年末に、授業に関連したドイツ語テキストを配布し、それについてレポートを提出してもらいます。詳細については授業で指示します。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間計画の説明、ドイツ語学習法についてのアドバイスなど。 2. テーマ：ドイツの若者の結婚観・恋愛観など 3. 同 4. 同 5. テーマ：ドイツの教育システム 6. 同 7. 同 8. テーマ：ドイツの広告・マスコミ 9. 同 10. 同 11. テーマ：スポーツと余暇 12. 同 13. 同 14. テーマ：ドイツの若者と現代音楽・映画 15. 同 16. 同 17. テーマ：ドイツのコミックス 18. 同 19. 同 20. テーマ：青少年犯罪・暴力 21. 同 22. 同 23. 予備 24. まとめ 		

科 目 名	スペイン語	担当者名	北 岸 団
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>これまでに学んだスペイン語の知識を実践的に理解することを目指す。具体的には、スペインやラテンアメリカに関する文章を訳読できることを目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>最初は、会話文の多い比較的読みやすいスペインの短篇小説を読み、受講者の慣れに応じてさらに難易度の高い文章の読解に努める。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>授業中にコピーを配布。</p>	
	参 考 文 献	<p>特になし。</p>	
評 価 方 法	<p>前期末および後期末に試験を実施する。試験内容はテキストから出題する。さらに、毎回授業時に受講者に訳読を課し、その結果を最終評価に加える。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>これまでに授業では、語彙にせよ文法的知識の応用にせよ、必ずしも充分ではないので、総合 終了者には是非受講して欲しい。</p>		

- 1 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY - LOLA
- 2 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY - LOLA
- 3 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY - LOLA
- 4 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY - LOLA
- 5 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY - LOLA
- 6 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY
- DISTINGUIDOS SEÑORES
- 7 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY
- DISTINGUIDOS SEÑORES
- 8 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY
- DISTINGUIDOS SEÑORES
- 9 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY
- DISTINGUIDOS SEÑORES
- 10 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY
- DISTINGUIDOS SEÑORES
- 11 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY
- DISTINGUIDOS SEÑORES
- 12 . OTRO CASO DEL DETECTIVE PEPE REY
- DISTINGUIDOS SEÑORES
- 13 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(EPOCA PREHISPANICA - CULTURA OLMECA)
- 14 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(EPOCA PREHISPANICA - CULTURA TOLTECA)
- 15 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(EPOCA PREHISPANICA - CULTURA INCA)
- 16 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(EPOCA PREHISPANICA - CULTURA AZTECA)
- 17 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(DESCUBRIMIENTO)
- 18 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(CONQUISTA - MEXICO)
- 19 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(CONQUISTA - PERU)
- 20 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(EPOCA COLONIAL)
- 21 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(EPOCA COLONIAL)
- 22 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(EPOCA COLONIAL)
- 23 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(INDEPENDENCIA)
- 24 . HISTORIA DE MEXICO Y AMERICA LATINA
(INDEPENDENCIA)

科 目 名	ドイツ語会話 - 1	担当者名	M . ル ー デ
-------	------------	------	-----------

講義の目標	Die Studenten sollen am Ende dieses Kurses einfache Gesprächssituationen und Dialoge meistern können; hauptsächlich in mündlicher, aber auch in schriftlicher Form. Die Grammatik wird nur in soweit behandelt, als dass es zur Erklärung der Gesprächsskripte notwendig ist.		
講義概要	In dieser Klasse wird sehr viel gesprochen: gemeinsame Sprechübungen, Sprechübungen und freies Sprechen in Kleingruppen, Lieder. Intonation und Sprachrhythmus werden offengelegt durch "Prosodische Schrift", eine kurvige und gemusterte Schriftform.		
使用教材	テキスト	Kopien werden im Unterricht verteilt.	
	参考文献		
評価方法	Die Note setzt sich zusammen aus mehreren schriftlichen und mündlichen Tests. 20% der Note wird durch die Anwesenheit und Mitarbeit bestimmt.		
受講者に対する要望など	Aktive Mitarbeit am Unterricht - insbesondere bei der Kleingruppenarbeit - ist wünschenswert.		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Sie geben sich als Ausländer zu erkennen und fragen nach einem Begriff. 2 . Persönliche Vorstellung 3 . Annahme und Ablehnung einer Einladung 4 . Sie verlangen jemanden am Telefon. 5 . Sie suchen nach einem Restaurant; Richtungen 6 . Bestellung im Restaurant, Bezahlung, Dank 7 . Sie wollen Postkarten kaufen und schreiben. 8 . Kauf von Fahrkarten und anderen Dingen 9 . Zug-Information und Hotel-Reservierung 10 . Ein Treffen verabreden 11 . Den richtigen Weg finden 12 . Beim Arzt 		

科 目 名	ドイツ語会話 - 2	担当者名	U . J . 川村
-------	------------	------	------------

講 義 の 目 標	Entwicklung der Hörverstehens-und Sprechfähigkeit mit einfachen Dialogen zur Kommunikation im Alltagsdeutsch. <u>Methoden</u> : Hörverstehensübungen durch Zuhören, Nachsprechen, Lesen und Nachspielen der Dialoge		
講 義 概 要	14 <u>Lerneinheiten</u> : Vorstellen, Informationen erfragen (Berufe, Wohnung, Arbeit, Studium), eine Bitte aussprechen, Wünsche äussern, etwas planen, Telefongespräche führen, Einkaufen, nach dem Weg fragen, , über Zeit sprechen, u. s. w.		
使 用 教 材	テキスト	<u>Deutsch einfach 1 + Kasette</u>	
	参考文献	INTERNATIONES Werner und Alice Beile Textbücher und Kassetten werden vom Lehrer direkt in der BRD, Bonn, bestellt	
評 価 方 法	Nach aktiver Unterrichtsbeteiligung, kleinen Zwischentests, Hausaufgaben, 2 Semesterabschlusstests.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Grammatische Grundkenntnisse, Interesse an aktiver Mitarbeit, <u>regelmässige Teilnahme</u> am Unterricht		

科 目 名	スペイン語会話 (総合) - 2	担当者名	J . L . ベラスコ
-------	------------------	------	--------------

講 義 の 目 標	The objective of this course is to enable the students to communicate in Spanish by acquiring a deeper knowledge of the Spanish language and its culture.		
講 義 概 要	Completion of the unfinished grammar, so that the students could understand with a dictionary any regular Spanish written text. Oral practices of the Spanish conversation through short dialogues about the daily life and conversation themes. Wider knowledge of the Spanish Culture and Spanish speaking world.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Prints.	
	参 考 文 献	Audiovisual materials (tapes, videos, etc)	
評 価 方 法	Oral and written quizzes, exams.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Attendance Participation Effort		

年 間 授 業 計 画	1 . Las Personas(Presentación) La familia de Maritza(Video)	Repaso gramatical-Presente
	2 . Horóscopo(Futuro) Mi familia	Pretérito-Vacaciones(primavera)
	3 . Restaurante español Pequeño Teatro	Subjuntivo-Pareja ideal
	4 . Comida española	La paella(Video)
	5 . El vendedor de pájaros	Subjuntivo o indicativo
	6 . El clima en el Mundo Hispano(Video) Con o sin...(?)	Imperativo o subjuntivo-...Que...
	7 . Andrés y Carmen tienen una cita	Condicional
	8 . Mi semana universitaria	Estudiantes en Miami(Video)
	9 . Diálogo: En la clínica(Pequeño Teatro)	
	10 . El campo o la ciudad Puerto Rico-Mar Caribe(Video)	Subjuntivo Pretérito Cine:Carmen(I)
	11 . Cuento: El campesino Tobías Cine: Carmen(II)	Subjuntivo Pretérito irregular
	12 . Diálogo: Aeropuerto(Las aduanas)	Pequeño Teatro
	13 . Cuento: La avaricia rompe el saco	Pluscuamperfecto
	14 . Los deportes(Video)	Doble condición(si)
	15 . El castellano o el español	En el Club Hispano(Video)
	16 . Cuento: Tenía dos guaguas	San Antonio(Texas)(Video)
	17 . Las plumas del Quetzal(La Ruta)	Futuro Perfecto
	18 . El dinero en el mundo Hispano	Noticias económicas(Telediario)
	19 . Vamos de compras	Cine: Belle Epoque(I)
	20 . El hombre de la selva	Cine: Belle Epoque(II)
	21 . La música (I)(Video)	Todo el verbo
	22 . La música (II)	Pronombres relativos(I)
	23 . Don Quijote de la Mancha(Video) OVNIS (UFO)	Pronombres relativos(II)
	24 . Una carta Acentos	

科 目 名	言語情報処理 a・b-1,2	担当者名	高柳 敏子 吉成 雄一郎
-------	----------------	------	-----------------

講 義 の 目 標	<p>本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータリテラシ（タッチタイプ、コンピュータ・コミュニケーション、ワードプロセッサ）を一通り習得していることを前提として、表計算ソフトの基礎から学び、そのデータベース機能を利用した英文データベースの構築と文章解析の技法を学習しながら、コンピュータの文章解析への応用を理解する。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、まずワープロソフト（MS-Word）による和文および英文の扱い、表や図・絵を含めた総合的な文書編集の基本を復習する。続いて、Internet を利用して図書館の検索等各種情報検索を紹介し、情報収集の手段としての Internet の有効な使い方を学習する。さらに、後期に行う英文データベースの構築と文章解析の基礎となる、表計算ソフト（MS-Excel）の基本を学ぶ。</p> <p>後期は、表計算ソフトの応用としてデータベースの取り扱いを学習し、続いて表計算ソフトを利用した英文解析の基礎を学ぶ。また実際に Internet 上で公開されている英文データベース（コーパス）の紹介等も含める。</p>		
使 用 教 材	テキスト	前田・松山・渋谷・和高・高柳・石田著「情報処理と Windows」共立出版，1998．	
	参考文献	随時紹介する。	
評 価 方 法	<p>評価は、定期試験に替わるものとして前期最終授業の実習試験、後期の最終レポート、その他前・後期各 2 回程度のレポートおよび出席を加味して行う。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>実習が中心の授業なので欠席しないこと。</p> <p>第 1 回目の授業で受講者（1 クラス 55 人）を決定するので必ず出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者の決定と講義のガイダンス 2. ワープロの復習 (1): 和文の入力 ページ設定、ヘッダ・フッタ、印刷プレビュー、印刷等。 3. ワープロの復習 (2): 英文の入力 スペルチェック、ハイフネーション、ドロップキャップ等。 4. ワープロの復習 (3): 総合練習 表組、段組、図・絵の貼り付け等。 5. Internet と情報検索 (1): 文献検索 論理積、論理和、トランケーション等。 6. Internet と情報検索 (2): サーチエンジンの利用 英文データベース (コーパス) を公開している URL の紹介等も合わせ行う。 7. 表計算の基礎 (1): 表計算一巡り データの入力、計算、グラフ、ページ設定、印刷等。 8. 表計算の基礎 (2): グラフの編集 グラフおよびタイトル、軸およびラベル等の編集。 9. 表計算の基礎 (3): 計算 計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等。 10. 表計算の基礎 (4): 関数の利用 関数およびそのヘルプの利用。 11. 表計算の基礎 (5): 総合練習 総合問題によるレポート作成 12. 表計算およびワープロを統合した総合問題 実習テスト 13. 表計算の応用 (1): データヘース処理 (1) 並べ替えと簡単な集計 14. 表計算の応用 (2): データベース処理 (2) フィルタを利用したデータ抽出および条件検索 15. 表計算の応用 (3): データベース処理 (3) ピボットテーブルレポートによるクロス集計 16. 文章解析 (1): 文章解析の準備 英文の選択、取得、入力、編集、整理。 17. 文章解析 (2): 英文の入力 英文テキストファイルの MS-Excel への入力と確認。 18. 文章解析 (2): ワークシート上の英文のデータベース定義と英文の確認およびチェック。 19. 文章解析 (3): 出現単語の頻度の集計 ピボットテーブルレポートを利用した列毎の単語の頻度集計。 20. 文章解析 (4): テキスト全体の出現単語の頻度 列毎の単語の使用頻度のまとめと、テキスト全体の集計。 21. 文章解析 (5): 出現単語の文字の長さの分布と出現単語の頻度分布 LEN 関数を利用した出現単語の文字の長さ (文字数) とその分布、および単語の使用頻度による分布等のグラフ化。 22. 文章解析 (6): 出現文字の頻度と 1 文内の単語数の分布 データベース関数 DSUM を利用した文字毎の使用頻度、および列毎の文末記号の頻度集計と一文内の単語数の分布。 23. 文章解析 (8): KWIC インデックスの作成 KWIC インデックスの作成と、実際に映画のスク립トから作成された英文 KWIC インデックスの紹介等も合わせ行う。 24. 文章解析 (9) 文章解析のまとめ 文章解析の結果の整理とレポートの作成。
----------------------------	---

科 目 名	言語情報処理 a・b	担当者名	前 田 功 雄
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>この講義では、コンピュータ入門で学んだワープロや表計算の技術をもとに、これらのソフトのもっと高度な使い道について学ぶ。特に、表計算ソフトのデータベース機能については「百人一首データベース」の作成から、例えば僧侶が作った「恋」の詩など「データ」の検索等を学ぶ。また、英語科の学生のための「英文データベース」の扱いについて EXCEL を用いたユニークな方法を取り扱う。さらに、将来高校などの教員となられる方にとっては必要となるデータの統計的な「分析ツール」の扱いについても学ぶ。これについては基本的な部分について学ぶ。</p>		
講 義 概 要	<p>一言で言えば、ウィンドウズを活用した情報処理の実践的な授業である。言語研究や言語教育に適用範囲を合わせたことにより、英語科の学生に馴染みやすい例題を多く取り入れた。特に面倒な成績の統計処理についてはアプリケーションソフト（EXCEL）を使うことにより、誰でも簡単に必要な統計量（例えば、平均とかばらつきの度合いを示す標準偏差や馴染みのある偏差値など）や説得力のあるグラフが作れるように指導する。このような実例を通してわかりにくい統計概念を理解させる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	情報処理と Windows - Windows98 対応 -、共立出版	
	参考文献	講義中随時紹介する。	
評 価 方 法	前期はテスト、後期はレポート提出による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	履修条件があるので「履修の手引」を参照のこと。		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの仕組みと言語処理 2. ワープロとマルチメディア 3. ワープロ復習 1 4. ワープロ復習 2 5. 英語教育と表計算ソフト (EXCEL) 6. 分析ツール 1 - 平均、標準偏差、偏差値の計算 - 7. 分析ツール 2 - 成績データのグラフ表現 - 8. 分析ツール 3 - 成績データのヒストグラム - 9. 分析ツール 4 - 平均値が等しい 2 つのクラスの比較 - 10. 分析ツール 5 - 2 教科の成績、相関係数 - 11. 分析ツール 6 - 2 つのクラスの成績比較 - 12. 種類の関数を使った統計量の算出 13. 前期総合レポートの作成。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データベースの扱い方。 2. 百人一首データベース、全国人口データベースをみる。 3. データベースの取り扱い方 - 目的データの検出例 - 4. レコードの並べ替え - ツールボタン、並べ替えコマンドの利用 - 5. 特定順序の並べ替え 6. 簡単な集計 - 集計コマンドによる集計、グループごとのレコード数のカウント - 7. レコードの検索 - オートフィルタによる抽出、条件検索、データベース関数 - 8. クロス集計 - ピボットテーブルの利用 - 9. データベースの作成 - 英文データベースの作成 - 10. 英文解析 11. LEN 関数を利用した単語の長さの分布 12. DSUM 関数の利用 13. KWIC インデックスの作成 - レポート作成 -
----------------------------	---

科 目 名	統 語 論 a・b	担当者名	安 井 美代子
-------	-----------	------	---------

講 義 の 目 標	この授業は、言語の構造に関して私たちが無意識に「知っている」ことを明確にかつできるだけ一般的に述べられるようになることを目指す。扱うデータはほとんどが英語であるが日本語など他の言語にも拡張できるような説明的枠組みを構築していく。		
講 義 概 要	生成文法統語論の基礎を学ぶ。毎回の授業の前半は講義形式で行い、後半は講義内容に関する英語のデータを受講者に分析してもらう。分析は毎回提出してもらい、次回の授業時に返却し解説を加える。		
使 用 教 材	テキスト	プリント	
	参 考 文 献	"Transformational Syntax" (A. Radford, Cambridge University Press) "An Introduction to the Principles of Transformational Syntax" (A. Akmajian and F. Heny, MIT Press) "Introduction to Government and Binding Theory" (L. Haegeman, Blackwell) 「生成文法」岩波講座：言語の科学（田窪行則他、岩波書店） 「生成日本語学入門」（長谷川信子、大修館書店） 「生成文法の基礎」（中村捷、金子義明、菊池朗、研究社）	
評 価 方 法	前後期定期試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	統語論は具体的な分析をして初めて理解したことになるので、授業の後半に行うデータ分析は非常に重要である。分析で使う規則、前提などは段階的に講義で導入していくので、欠席が重なると、理解が困難になるので注意してほしい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生成文法の言語観 2. 統語論の研究対象 3. 句構造 4. X-bar Syntax (一般句構造理論) 5. X-bar Syntax (一般句構造理論) 6. X-bar Syntax (一般句構造理論) 7. 節の内部構造 8. 主語と助動詞の倒置 9. 本動詞・助動詞と時制辞の分布 10. wh-疑問文 11. wh-疑問文 12. 質問 13. 前期定期試験の解説 14. 機能範疇と語彙範疇 15. persuade と expect の統語的差異 16. seem と try の統語的差異 17. 名詞句の分布と格理論 18. 格理論と名詞句移動 19. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係：束縛理論 (A) 20. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係：束縛理論 (A) 21. 名詞句移動の局所性と束縛理論 (A) 22. he などの代名詞と先行詞との構造的関係：束縛理論 (B) 23. John などの一般的名詞句：束縛理論 (C) 24. 質問
----------------------------	---

科 目 名	意味論 a・b	担当者名	府 川 謹 也
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>コミュニケーションの本質は、ことば（あるいはその代用となるもの、例えばジェスチャーや手話など）によって媒介される意味を通してわれわれの周りにいる人たちや状況に働きかけることにある。この講義ではその日常の言語生活での意味のやり取りというわれわれの営みを理解するためには、どういう視点でそれを捉えればよいかという、いわば考え方の枠を提供することを狙いとする。</p>		
講 義 概 要	<p>年間授業計画を参照。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>池上嘉彦 編『英語の意味』大修館書店 ¥1,600</p>	
	参考文献	<p>池上嘉彦 編『意味論・文体論』大修館書店 影山太郎『形態論と意味』くろしお出版 杉本孝司『意味論1・2』くろしお出版 西光義弘 編『日英語対照による 英語学概論』くろしお出版 山梨正明『認知文法論』ひつじ書房 *いずれも図書館所蔵</p>	
評 価 方 法	<p>前後期の定期試験、その他出欠席を含めた平常点等を総合する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>大学生の自覚をもって授業に臨むこと（たとえば、授業中に真面目に受講している学生に迷惑をかけたたり先生にたいして非礼な態度を取ったりしない）、とにかく、何をしようが、自分でやったこと責任は自分で取るようにすること（Take the consequences!）</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 日常生活の中の「意味論」</p> <p>2. ことばと意味</p> <p>3. ことばの意味と辞書</p> <p>4. 同上</p> <p>5. 同上</p> <p>6. 語彙の中の意味関係</p> <p>7. 同上</p> <p>8. 文法と意味</p> <p>9. 同上</p> <p>10. 同上</p> <p>11. 意味とコンテキスト</p> <p>12. 同上</p> <p>13. 同上</p> <p>14. 意味の変化</p> <p>15. 同上</p> <p>16. 同上</p> <p>17. 意味の習得</p> <p>18. 同上</p> <p>19. 意味の普遍性と相似性</p> <p>20. 同上</p> <p>21. 意味と文学</p> <p>22. 意味論の事例研究(1)</p> <p>23. 意味論の事例研究(2)</p> <p>担当者についての情報</p> <p>〔1〕〒340-0046 草加市北谷 3-24-37 [自宅] 〒340-0042 草加市学園町 1-1 中央棟 537 [大学研究室] Tel . (0489)41-6182 [home] Tel . & fax (0489)43-2198 [office] E-mail : fukawaky@al.mbn.or.jp [home] fukawaky@dokkyo.ac.jp [office]</p> <p>〔2〕関連ホームページ URL:http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi008/</p> <p>〔3〕出講日 火曜日・水曜日・金曜日</p> <p>〔4〕質問（相談）のための面談 原則として水曜日の午後 1 時半より 2 時 45 分までを面談用時間（office hours）とする。 ただし、会議などの校務が入る可能性があるので面談希望者は必ず電話や電子メール等で事前に面談予約を取ること。</p>
----------------------------	---

科 目 名	音声・音韻論 a・b	担当者名	大 竹 孝 司
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>90年代に入り、音声言語を様々な側面から探る研究が世界中で繰り広げられている。これは高度な情報化、国際化社会の出現により内外を問わずコミュニケーションの重要性が広く認識されるようになったからである。本講義では、人間のコミュニケーションの核となる音声言語が持つ様々な機能や構造に関する基本的な知識と考え方を学ぶ。これにより音声言語の分析の手法を身につける。日本人の英語学習者が直面する発音とリスニングの改善に対処できる具体的な知識が得られるであろう。言語やコミュニケーションに関心のある者には薦めたい。</p>		
講 義 概 要	<p>音声言語が持つ様々な機能を身近な例（ビデオ）で取り上げ、音声言語とは何かということ把握してから、前半では人間が発話する音声の特徴を音声学の観点から学ぶ。人は音声をどのように生成（発音）し、知覚（リスニング）するのか、音声を「目」で見たり、様々な音声に関する実験をまじえながら考えてゆく。そして、後半では音声の基本的な知識を学んだ後、音声が作り出す音の構造と機能を音韻論の観点から学ぶ。この後半の講義では、音韻論の基礎的な知識と考え方を身につけると共に言語の具体的な音韻分析ができることを目指す。音韻論の知識が英語の発音やリスニングといかに密接な関係があるかが理解できるであろう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	Language Files	
	参 考 文 献	<p>P. Ladefoged "A Course in Phonetics" Harcourt Brace & Company P. Ladefoged & I. Maddison "The Sounds of the World's Languages" Blackwell 柴谷・影山・田守「言語の構造 - 理解と分析」音声・音韻篇 くろしお出版 窪園晴夫「音声学・音韻論」くろしお出版</p>	
評 価 方 法	<p>評価は、試験、課題、実験、出席などにより決める。</p>		
受 講 者 対 する 要 望 等	<p>より深い知識を望む者は専門講読と併せて学ぶとよい。</p>		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. 講義の概要の説明。音声言語とは？
	2. 音声言語とコミュニケーション - 人間に音声言語がなかったら (ビデオ)
	3. 音声言語の社会的機能 - 社会の階層と音声 (ビデオ)
	4. 音声言語の獲得 - 音声言語の獲得と外国語学習
	5. 音声学の基礎 - 音声学の3つの分野 (調音音声学、音響音声学、聴覚音声学)
	6. 音声学の基礎 - 音声言語と文字言語。音声と発音記号。
	7. 音声学の基礎 - 調音音声学 (発音器官と調音)
	8. 音声学の基礎 - 調音音声学 (子音の分類と記述)
	9. 音声学の基礎 - 調音音声学 (母音の分類と記述)
	10. 音声学の基礎 - 音響音声学 (音声を目で見る)
	11. 音声学の基礎 - 音響音声学 (人間の音声と人工合成の音声)
	12. 音声学の基礎 - 聴覚音声学 (人間は音声をどのように聞くのか)
	(後期)
	1. 講義の概要の説明。音声学と音韻論は何が違うのか？
	2. 音韻論の基礎知識 - 音の体系 (音、音素、異音)
	3. 音韻論の基礎知識 - 音の体系 (相補分布、最小対立、自由変異)
	4. 音韻論の基礎知識 - 音韻規則とは？
	5. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の手順について
	6. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の実際
	7. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の実際
	8. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の実際
	9. 音韻論の基礎知識 - 音節構造と音素配列
	10. 音韻論の基礎知識 - 音節構造とモーラ
11. 音韻論の基礎知識 - 音節構造とアクセント	
12. 音韻論と外国語学習	

科 目 名	英語史 a・b	担当者名	児 玉 仁 士
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	言語の特性の一つである「言語は変化する」の側面に視点を置き、英語が古期から中期へ、さらに近代へと時の経過と共に「どのように変化したか」を具体的な資料に基づきながら概説する。言語の変化は、その時々 of 社会的・文化的要因と深く係わり合いながら促進されるものでもあるから、その面にも合わせて言及したい。				
講 義 概 要	まづ、歴史言語学の視点から、(a)「言語の変化」とはどのようなことなのか、(b)その変化の要因は何なのか、(c)英語はインド・ヨーロッパ語族/ゲルマン語派の孰れに属するのか、(d)英語は紀元 700 年ごろから今日まで約 1300 年間にどのように変化（進歩/退歩）してきたのか、(e)英語のどのような側面（文字・発音・綴り・形態・統語・意味など）に変化が見られるのか、といった話題が中心となるだろう。テキストに準拠しながら、随時プリントを配布する。具体的には、年間授業計画を参照せよ。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>松浪有編『英語史』（英語学コース 1）、大修館書店</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>Gerry Knowles : <u>A Cultural History of the English Language</u> （小野茂・恭子訳：『文化史的にみた英語史』、開文社出版） 青山吉信編：『イギリス史』1、2 山川出版社</td> </tr> </table>	テキスト	松浪有編『英語史』（英語学コース 1）、大修館書店	参考文献	Gerry Knowles : <u>A Cultural History of the English Language</u> （小野茂・恭子訳：『文化史的にみた英語史』、開文社出版） 青山吉信編：『イギリス史』1、2 山川出版社
テキスト	松浪有編『英語史』（英語学コース 1）、大修館書店				
参考文献	Gerry Knowles : <u>A Cultural History of the English Language</u> （小野茂・恭子訳：『文化史的にみた英語史』、開文社出版） 青山吉信編：『イギリス史』1、2 山川出版社				
評 価 方 法	評価は、基本的には、前期・後期の定期試験の成績に時折のレポートと出席を加味して、総合評価する。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	英語の通時的な側面に興味があり、辞書をこまめに引くことを厭わない人の受講を望む。				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語の変化 2. インド・ヨーロッパ語族 / ゲルマン諸語での位置 3. アングロ・サクソン時代の歴史的背景 4. 古期英語の文字・発音・綴り 5. 古期英語の形態 6. 古期英語の統語 7. 古期英語の語彙 8. 古期英語のテキスト講読 9. 上記に同じ 10. 上記に同じ 11. 中世期の歴史的背景 12. 中期英語の文字・発音・綴り 13. 中期英語の形態 14. 中期英語の統語 15. 中期英語の語彙 16. 中期英語のテキスト講読 17. 上記に同じ 18. 近代の歴史的背景 19. 近代英語の発音・綴り 20. 近代英語の形態 21. 近代英語の統語 22. 近代英語の語彙 23. 近代英語のテキスト講読 24. アメリカ英語
----------------------------	---

科 目 名	英語学特殊講義 a・b	担当者名	川 崎 潔
-------	-------------	------	-------

講義の目標	英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、殊に The Authorized Version (1611 年出版) は W. Shakespeare の戯曲と共に必読書と言えよう。AV は先行する英訳聖書の粹を集めて集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与え、英語史家達からは「英語散文の金字塔」と言われるに至ったからである。この講義では、その The Authorized Version の文法・語法と文体への手引きを少しばかり試みたい。それはまた Shakespeare の英語への手引きともなるであろう。		
講義概要	The Authorized Version の文法・語法については、現代英語との相違点をマタイ伝の中から取り上げ、必要に応じて Tyndale 訳聖書 (1525-26 年出版) Revised Standard Version (1946-52 年出版) とも比較検討してみたい。文体については、簡樸性、具象性・比喻、反復、並行体を取り上げる。なお山上の説教については、参考文献にあげたすぐれた講解があり、これを熟読すれば得るところ多大であろう。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・“ The Authorized Version ” (The King James Version) (現行版) ・市河三喜『聖書の英語』研究社、1937 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Authorized Version (A Reprint of The Edition of 1611, OUP, Kenkyusha, 1985) ・寺沢芳雄ほか『英語の聖書』富山房、1969 ・荒木一雄・宇賀治正朋『英語史 A』、英語学体系第 10 巻、1984 ・齋藤勇『文学としての聖書』研究社、1944 ・井上良雄『山上の説教』新教出版社、1994 	
評価方法	前期末と後期末にレポートを提出してもらう。		
受講者に対する要望など	授業に出席し、そこで取り上げられた事項を自分で調べてもらいたい。それによって確かな知識が習得出来るであろう。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞の人称語尾：直説法・2 人称・単数・現在と過去 ‘ -(e)st ’; be 動詞；直接法・3 人称・単数・現在 ‘ -(e)th ’ 2. 仮定法：独立節 3. 仮定法：条件文の帰結節；仮定・非現実を含意した独立文 4. 仮定法：従属節 (if, except, unless を伴う) 5. 仮定法：従属節 (譲歩節, although, though を伴う) 6. 仮定法：従属節 (譲歩節, whether を伴う) 7. 仮定法：従属節 (whether が間接疑問を導く) 8. 仮定法：従属節 (譲歩節, Whosoever, whatsoever, whomsoever を伴う) 9. 仮定法：従属節 (before, until を伴う) 10. 仮定法：従属節 (till を伴う) 11. 仮定法：従属節 (lest を伴う) 12. 予備日 13. of a truth 14. of none effect 15. unwashen hands 16. what (= to what extent, in what way) 17. sore afraid 18. as touching 19. go work 20. partitive ‘ of ’ 21. 簡樸性 22. 具象性・比喻 23. 反復、併行体 24. 予備日 		

科 目 名	英語学文献研究 a・b	担当者名	府 川 謹 也
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	英語学科の学生ならば誰も時々「どうしてこう言えて、ああは言えないの?」と疑問を持つことであろう。この授業では、そのような素朴な疑問の一端に答えることを狙って書かれた論文を輪読し、言語学の基本的姿勢と方法論の理解を深めることを目標とする。		
講 義 概 要	<p>例えば次のような疑問について考えていくことのできるような視点を与えてくれる論文を読む。</p> <p>(1) for が有ると無いとではどうして容認性が異なるのか?</p> <p>a . I'd like you to {leave right away/'be able to leave when you're ready}.</p> <p>b . I'd like <i>for</i> you to {leave right away/be able to leave when you're ready}.</p> <p>(2)' write a letter to Mary' と 'write Mary a letter' とは同じ意味だと習ったのに、どうして b は言えないんだ?</p> <p>a . John wrote a letter to Mary, but later he tore it up.</p> <p>b . *Jhon wrote Mary a letter, but later he tore it up.</p>		
使 用 教 材	テキスト	プリント (第1週の授業で配布するが、印刷する都合上事前に必ず出席する旨を連絡すること)	
	参考文献	<p>Givón, T (1993). <i>English Grammar : A Function-Based Introduction</i> .</p> <p>* 図書館所蔵</p>	
評 価 方 法	前後期の定期試験、その他出欠を含めた平常点等を総合する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	大学生の自覚をもって授業に臨むこと (たとえば、授業中に真面目に受講している学生に迷惑をかけたたり先生にたいして非礼な態度を取ったりしない) とにかく、何をしようが、自分でやったこと責任は自分で取るようにすること (Take the consequences!)		

第1週の授業でシラバスを配布する。

担当者についての情報

〔1〕〒340-0046 草加市北谷 3-24-37〔自宅〕

〒340-0042 草加市学園町 1-1 中央棟 537〔大学研究室〕

Tel. (0489)41-6182〔home〕

(0489)43-2198〔office〕

E-mail : fukawaky@al.mbn.or.jp〔home〕

fukawaky@dokkyo.ac.jp〔office〕

〔2〕関連ホームページ

URL : <http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi008/>

〔3〕出講日

火曜日・水曜日・木曜日・金曜日（予定）

〔4〕質問（相談）のための面談

原則として水曜日の午後1時半より2時45分までを面談用時間（office hours）とする。ただし、面談希望者は必ず電話等で事前に予約を取ること。

年
間
授
業
計
画

科 目 名	英米文学史 a1・b1 (英)	担当者名	佐 藤 勉
-------	-----------------	------	-------

講 義 の 目 標	1 年を通して文学史の意義を考えながら、イギリス文学の流れを古期英語の時代から 20 世紀まで主たる作品を中心に読解する。それぞれの作品が作者の人生観や思想、その時代の社会をどのように反映しているかなどについて分かり易く講義する。		
講 義 概 要	指定されたテキストに従って作品を解題する。また主要な文学用語について解説する。限られた時間での講義なので、幾つかの古典的な作品を集中的に取り上げてその文学的特質を述べることになるであろう。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Ifor Evans: <i>A Short History of English Literature</i> (Penguin Bks. 1990).	
	参 考 文 献	日本語による英文学史はどこにでもあるので各自見つけること。 William J Long: <i>English Literature</i> (Ginn & Co. 1945). Pat Rogers (ed): <i>An Outline of English Literature</i> (OUP., 1945). Stephen Coote: <i>The Penguin Short History of English Literature</i> (Penguin Bks. 1993). Andrew Sanders: <i>The Short History of English Literature</i> (OUP., 1994). Robert Bernars: <i>A Short History of English Literature</i> (Blackwell, 1994)	
評 価 方 法	授業の出席、前期及び後期の定期試験、レポートの提出によって総合的に評価する。		
受 講 者 対 する 要 望 等	文学に興味があり、予習をして授業に出席し、指定された課題をしっかりとこなせること。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. テキスト第1章 アングロ・サクソンから中世の時代までを扱う。中心となる作品は <i>Beowulf</i>, <i>The Canterbury Tales</i>, <i>Piers the Plowman</i>, <i>Sir Gawain and the Green Knight</i> など。</p> <p>2. 前の授業の継続。</p> <p>3. 前の授業の継続。</p> <p>4. 第2章 Pre-Renaissance から Renaissance に至る詩人、Spenser, Wyatt and Surrey, Sidney, Shakespeare, Donne の New Way in English Poetry を扱う。</p> <p>5. 前の授業の継続。</p> <p>6. 前の授業の継続。</p> <p>7. 前の授業の継続及び第3章 17世紀からロマン派までの詩人、Milton, Marvel, Dryden, Pope, Blake, Burns などの代表的な作品を扱う。</p> <p>8. 前の授業の継続。</p> <p>9. 第4章 ロマン派の詩人、Wordsworth, Coleridge, Keats, Shelley, などの主要な作品を扱う。</p> <p>10. 前の授業の継続。</p> <p>11. 前の授業の継続。</p> <p>12. 第6章 English Drama to Shakespeare を通読し、ギリシャにおける演劇の形態やエリザベス朝時代の演劇の特質などについて概略的な解説をする。本格的な演劇の始まりを開いた University Wits についての解説。</p> <p>13. 前の授業の継続及び第7章 Shakespeare に入る。伝記や作品群（特に四大悲劇）を取り上げて講義することになる。さらに彼の同時代の劇作家について触れる。</p> <p>14. 前の授業の継続。</p> <p>15. 前の授業の継続。</p> <p>16. 第8章及び第9章の通読と概説。</p> <p>17. 第5章 19世紀及び20世紀の代表的な詩人、Hardy, Arnold, Eliot, Yeats などの詩を読み、自然主義の思想、世紀末的不安、信仰の問題、文明の退廃などについて論じる。</p> <p>18. 前の授業の継続。</p> <p>19. 第10章及び第11章 近代小説の勃興の解説。Defoe, Swift, Richardson, Sterne, Austen, Scott など、リアリズム、書簡体、階級内サークル、ロマンス小説の特色。</p> <p>20. Fielding, Dickens, Bronte Sisters, Hardy など、社会と家庭、個人、男女のあり方に言及し、イギリス小説の主要な作品について理解を深める。</p> <p>21. 前の授業の継続。</p> <p>22. 現代小説についての概説。Conrad, Woolf, Joyce, James などの、主として短編小説から時代的、思想的特色や小説の技巧、特に視点や意識の流れについて把握する。</p> <p>23. 前の授業の継続。</p> <p>24. 前の授業の継続と英文学史のまとめを行う。</p>
----------------------------	---

科 目 名	英米文学史 a2・b2(米)	担当者名	秋 山 武 夫
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 的	植民地時代から現代にいたるまでの主要作家の代表作を概説し、その問題点を時代背景をふまえて講義し、アメリカ文学への展望を得てもらう。		
講 義 概 要	アメリカ文学がヨーロッパ、イギリスの文学から独立して、アメリカ独自の文学を形成していく過程を作品に即して論じていく。西へ西へと進んだ開拓時代、フロンティアの消滅、資本主義の形成、奴隷制、南北戦争、現実主義、自然主義、「失われた世代」などを背景として登場する作家について講義する。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	ジャック・カポー、寺門他訳『失われた大草原』(太陽社)	
	参 考 文 献	『アメリカ文学を読む 30回』(太陽社)	
評 価 方 法	テスト、レポート		
学 生 に 対 す る 要 望 な ど	講義した作品を数多く読んでほしい。		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションとしてアメリカ文学の特質を語る。作家は孤独で、社会の Outsider であった。 2. アメリカ文学の中に厳然として存在している Puritanism (清教主義) を歴史的に語り、現代文学、文化との関係を概説する。D.H. Lawrence はアメリカ文学には「狂気」の血が流れていると言っている。 3. Puritanism を体現している Anne Bradstreet と Edward Taylor の文学、及び Jonathan Edwards を語る。敬虔で素朴で、いかめしいアメリカの源泉を探りたい。現在のアメリカでは「神への回帰」が叫ばれている。 4. 典型的なアメリカ人の原型といわれる Benjamin Franklin の <i>Autobiography</i> の特徴を考える。 5. 心やさしいクエーカー教徒ジョン・ウールマンの日記と「アメリカ文学の父」と言われる Charles Brockden Brown について述べる。 6. James Fenimore Cooper の「革脚絆物語」を概説し、アメリカ文化の原点となっている問題点を指摘する。 7. Unitarianism の開祖となった W. E. Channing とその延長として生まれた Transcendentalism (超絶主義) の作家たち (R.W. Emerson, H.D. Thoreau) について講義する。 8. アメリカ作家としてヨーロッパで高い評価を受け、アメリカ文学の問題点を提出していた Washington Irving の短編小説について語る。リップ・ヴァン・ウインクルってどんな人でしょう？ 9. 不幸な生涯を送ったにもかかわらず、不滅の天才と受容されている E. A. Poe の短編小説、詩論、詩について述べる。平均的なアメリカ人がどうして Poe を「病的な人」というのか考える。 10. 大作家 Nathaniel Hawthorne の代表作『緋文字』と短編小説について述べて、彼の特質を語る。彼の言う「罪」とは？ 11. アメリカ最大の作家といわれる Herman Melville と「世界 10 大小説」の一つとされる『白鯨』について考える。 12. リズムと活気に溢れた詩人 Walt Whitman の <i>Leaves of Grass</i> (『草の葉』) の特異性をさぐる。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マーク・トゥエーンはアメリカを代表する国民作家であり、ユーモア作家といわれているが、そのユーモアとはいかなるものであったか。『ハックル・ベリイフィンの冒険』、『不思議な少年』等を中心に論じる。 2. ヘンリー・ジェイムズは「師」と呼ばれ、小説技法を練りに練った巨匠であるが、その技法、テーマを語りたい。『ある婦の肖像』を中心に、中短編をいくつかとりあげたい。 3. エミレイ・ディキンソンは生涯独身、後半生 25 年は家から出ず、自然と瞑想の生活を送り、1775 の詩を残していた。「私の人生は二度閉じた、その終わりが来る前に」などと歌う詩人です。 4. 「大いなる貴婦人」と呼ばれたエディス・ウォートンを語ります。『無垢の時代』など最近ではよく論じられている。哀切をきわめる『イーサン・フロム』、『歡樂の家』のリリー・パートの可憐な姿を伝えたい。 5. 現実主義文学を提唱したハウエルズの『サイラス・ラバムの向上』を紹介し、彼の弟子でありながら反発したクレインとノリスの文学を比較する。若い作家が主張した自然主義とはどんな文学だったのかを考える。 6. 1945 年に死去した時、あまりに大きな穴が空いたと追悼されたドライサーの自然主義を述べる。世間知らずの少女が大女優となる『シスター・キャリイ』、『深刻な問題作』『アメリカの悲劇』をとりあげる。 7. 手工業から大工業へ移り変わる時期にとり残されていく人々を意識の流れと性を通して描いたアンダーソンの『ウィンズバーグ・オハオ』とネブラスカの雄々しい開拓民や華麗な人々の変容を描くキャザーの小説『マイ・アントニア』、『迷える夫人』などを論述。 8. 第一次大戦後の「ジャズ時代」を時代の化身のように生きたフィッツジェラルドの『偉大なるギャツビー』を中心に、戦争で深い心の傷を受けた若者たちの幻滅を語る「失われた世代」の作家像を紹介する。 9. 「歴史の建築家」と自称したドス・パソスの実験小説『USA』を詳説し、彼が捕らえた 20 世紀前半のアメリカを調べてみたい。『三人の兵士』、『マンハッタン乗換駅』にもふれる。 10. 陽はまた昇る』、『武器よさらば』、『誰がために鐘は鳴る』、『老人と海』、『キリマンジャロの雪』など周知の作品を通してヘミングウェイの文学を味わってみたい。 11. 徹底して南部を描いたフォークナーを『響きと怒り』、『八月の光』等の長編小説、「黒衣の道化師」、「ウォッシュ」、「くまつぶらの香り」等にもふれつつ、論じる。 12. 『怒りのぶどう』によってスタインベックの本質を探ったのち、1960 年のはじめに愛犬のブードル「チャーリー」と共にトラック「ロジナンテ」でアメリカ一周をした旅行記『チャーリーとの旅』の特異性を述べたい。
----------------------------	--

科 目 名	英米の小説 a・b	担当者名	北 澤 滋 久
-------	-----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>モダニズム小説論</p> <p>破綻の目に見えてきた現代物質文明下に生きることの意義を、時代を先駆けた仕事をなし、新時代の風土を築いた作家たちの作品と思想のなかに観てゆきたい。20 世紀末のいま、今世紀の主潮は那边に在ったのか、その片鱗を文学に窺うことによって、受講者の人生の指標にいくばくか役立つところがあれば願っている。</p>		
講 義 概 要	<p>モダニズムとはもともと曖昧広義の呼称であるが、ここでは、栄華を誇った西欧の近代文明によろやく亀裂が生じ、そこより新たなものが生まれ出ようとする過渡期の風潮、と一応定義する。また時期としては 1910 年代をピークとして、絵画、演劇、文学は言うに及ばず、風俗を含めた文化全域にわたる事柄であろうが、本講義では英語圏の文学、主としてイギリスの小説中のモダニズムを、その先駆的作家たちより始めて、後期においてはそれを J. ジョイス、D. H. ロレンスに収斂させてやや詳細に分析して行こうと考えている。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>テキストは特に定めない。諸家の参考文献はその都度紹介するが、担当者執筆の Lawrence と Joyce に関する主要文献のみを、本講義選択の参考までに列記しておく。</p>	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・『D・H・ロレンス：その文学と人生』（墨水書房） ・『D・H・ロレンス 生と死のファンタジイ：人と文明の再生をもとめて』（金星堂） ・『ジョイスからジョイスへ』（東京堂出版、共著） ・『ジャコモ・ジョイス』（下井草書房、翻訳・註） ・「話法から意識の流れへ」（『獨協大学外国語教育研究 創刊号』）他 	
評 価 方 法	<p>夏休み直後と 1 月提出の小論文において評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義科目であるから講師の論述が主体となるが、受講者の積極的な質問を歓迎して、理解しやすいように極力努めるつもりでいる。</p>		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1 はじめに モダニズム前夜
	2 .William Blake のまなざし
	3 .Edgar Allan Poe の芸術観
	4 .Edgar Allan Poe の小説 モダニズムの曙 1 : イギリスにおける芸術至上主義
	5 .Walter Pater のまなざし
	6 .Oscar Wilde の耽美主義
	7 .Oscar Wilde の小説 モダニズムの土壌
	8 .Darwin , Nietzsche , Frazer , Freud の仕事 モダニズムの曙 2 : モダニズムを導いた作家たち
	9 .Henry James , THE TURN OF THE SCREW をめぐって
	10 .Joseph Conrad , HEART OF DARKNESS をめぐって
	11 .Virginia Woolf のまなざし
12 . 前期の総括、質疑応答	
(後期)	
James Joyce の文学	
1 . DUBLINERS をめぐって	
2 . A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN をめぐって	
3 . GIACOMO JOYCE をめぐって	
4 . ULYSSES をめぐって	
5 . FINNEGANS WAKE をめぐって	
D. H. Lawrence の文学	
6 . SONS AND LOVERS をめぐって	
7 . THE RAINBOW をめぐって	
8 . WOMEN IN LOVE をめぐって	
9 . THE LADYBIRD をめぐって	
10 . THE MAN WHO DIED をめぐって	
11 . LADY CHATTERLEY'S LOVETR をめぐって	
12 . 後期の総括、質疑応答	

科 目 名	英米の詩a・b	担当者名	(前期) 原 成吉 (後期) 白鳥 正孝
-------	---------	------	-------------------------

前 期

講義の目標	まず第一に詩を楽しむこと。言葉の世界を通して、アメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡をとおして「いまのわたしたち」を考える。		
講義概要	アメリカ先住民の口承詩、ロック・ミュージックのリリック、モダニストの作品、そして同時代の詩人たちの作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、“here and now”の視点から論じる。		
使用教材	テキスト	The American Poetry & Literacy Project ed. <i>101 Great American Poems</i> (New York: Dover Publications, Inc., 1998. なお、このテキストは Barnes & Nobie へ直接担当者がまとめて発注します。テキスト代金は送料込みで1冊2500円位。	
	参考文献	Jay Parini (ed.), <i>The Columbia History of American Poetry</i> (New York: Columbia University Press, 1993) 亀井俊介・川本 嗣 編『アメリカ名詞選』(岩波文庫)『アメリカ現代詩101人集』(思潮社)	
評価方法	授業への参加度とレポート(ワープロで4,000字程度の作品論、または詩人論)で決める。		
受講者に対する要望など	後期イギリス詩と比較しながらアメリカ詩の特徴を探してほしい。その週に取り上げる作品と「対話」してから授業に参加してほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカの大地の歌----Native American のうたをきく。 2. Rock Music の Lyrics を読む----Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ 3. デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人----Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン 4. ミクロコスモスのなかのマクロコスモス----女性詩人 Emily Dickinson の世界 5. モダニズムの起源を探る----(1) Ezra Pound がみた東洋 6. 詩に描かれた現代人の苦悩----T. S. Eliot の“The Love Song of J. Alfred Prufrok” 7. “Here & Now”の詩の世界----William Carlos Williams のみたアメリカの美学 8. 小文字の「わたし」がつくる“typography”の詩----e. e. cummings の詩の「意味」 9. postmodern の詩(1)----Allen Ginsberg の作品 10. postmodern の詩(2)----Gary Snyder の作品 11. postmodern の詩(3)----Sylvia Plath の作品 12. postmodern の詩(4)----Robert Creeley の作品 		

後 期

講義の目標	ワーズワス (W. Wordsworth 1770-1850) の「水仙」などの易しい英語を導入して、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やゝ古い英詩についても鑑賞し得る能力を身につけることを目的とする。扱う題材はすべてイギリス詩である。				
講義概要	初めは、導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。ついで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェイクスピアの代表的な詩について管見する。なるべくカセットテープ、video などの視聴覚教材を利用する。				
使用教材	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">テキスト</td> <td>『マザーグースと美しい英詩』 北星堂 1987</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>教室でそのつど指示する。</td> </tr> </table>	テキスト	『マザーグースと美しい英詩』 北星堂 1987	参考文献	教室でそのつど指示する。
テキスト	『マザーグースと美しい英詩』 北星堂 1987				
参考文献	教室でそのつど指示する。				
評価方法	テストを課す(詳細は教室にて指示する)。他に数回の video はリスニング・テストを兼ね、平常点として組入れる。(100%の理解は求めない、努力具合もみる)				
受講者に対する要望など	受身でなく、自ら参加する気持で臨んでほしい。				
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 詩形について 英詩を学ぶ場合には、ある程度詩形について学んでおいた方が理解しやすい。但し(外国人には最も難しい分野であって)、それ自体脇役でもあり、深入りは禁物。 2. マザーグース いわゆる伝承童謡について学ぶ。英米国の人々が幼児の頃から親しみ、肌に染み込み、聖書やギリシャ神話同様バックボーンの一つとなっていると言われる。 3. マザーグース 続きを読んだ後、video 鑑賞、メロディーやジェスチャーがこれによって一目瞭然となり、且つ、ビデオ自体夢のある美しい映像である。 4. 現代英詩アラカルト S. Sassoon(1886-1967) \ P. Larkin(1922-1985) \ E. Jennings(1926-) \ T. Hughes (1930-1998) \ Seamus Heaney (1939-) 等の小品を各一篇づつ読む。 5. ロマン派の曙 W. Blake (1757-1827) の小品を読んだ後、小伝と朗読を video で学ぶ (字幕なし、以下同じ) 6. ロマン派の詩 ワーズワスの代表的な小品を幾つか読み、小伝と朗読を video で学ぶ。 7. ロマン派の詩 S. T. Colerige (1772-1834) と G. G. Byron (1788-1824) の小品を読む。 8. ロマン派の詩 P. B. Shelley (1792-1822) と J. Keats (1795-1821) の小品を読む。 9. ロマン派の詩 総括. ロマン派の詩人群像を2本の video (各30分) で学ぶ。 (先立って簡潔な解説をする) 10. 古典詩 Thomas Gray (1716-1771) の代表的な詩、“Elegy Written in a Country Churchyard”(1751) を中心に講ずる。 11. 古典詩 J. Milton (1608-1674) の『失樂園』(Paradise Lost 1667) のさわり、ソネット23番について講じた後、video 鑑賞 12. 古典詩 W. Shakespeare (1564-1616) の詩を主に劇中に挿入された歌やソネットなどを中心に若干読んだ後、video 鑑賞 				

科 目 名	英米の演劇 a・b	担当者名	(前期) 児嶋 一男 (後期) 山田 玲子
-------	-----------	------	--------------------------

前 期

講 義 の 目 標	最近に上演・再演された(または予定されている)現代の英米の戯曲やミュージカルの台本を読み、作品の背景にある文化・時代風潮を考え、芝居はおもしろいライブ・パフォーマンスであることを知る。		
講 義 概 要	各作品を読んでいく。受講生は班ごとに分担で、本読みのパフォーマンス(約 15 分)を最低一回行い、舞台の雰囲気味わえるようにする。 取り上げる作品は実際の上演情報に合わせて、その都度指定する。		
使 用 教 材	テキスト	プリント	
	参 考 文 献	授業中に言及。	
評 価 方 法	定期試験、観劇レポート、本読みのパフォーマンス		
受 講 者 対 する 要 望 等	プリントの英文と実際の作品を読むこと。舞台公演を見ること。		

後 期

講義の目標	演劇が他のジャンルの文学と異なる点、即ちそれが複合的な芸術である面を強調した上で、戯曲を読むことから得られるよろこびを、理解出来るように努める。受講者が観劇をひとりひとりの生活の中で味わい楽しむとすることが出来るように心掛けたい。	
講義概要	演劇とは何かを考えることから始め、中世の戯曲の特色から多くを得たシェイクスピア、現代の私たちとは少し違った風土にいた作家であったことに注目した後、彼の戯曲の特色を主に言葉の面から考察する。戯曲の言葉としての詩と散文について述べ、なぜシェイクスピアがこれほどにもてはやされるのかという事を考える。	
使用教材	テキスト	特に使用しない。
	参考文献	授業中に述べる。
評価方法	定期試験期間中のテストと、観劇レポートによる。	
受講者に対する要望など	2000年4月から6月にかけて蜷川幸雄演出の『夏の夜の夢』、『テンペスト』が上演される予定なので観て欲しい。研究室(613)に指示する。高価だが、英国の『マクベス』を4月8日まで観劇できる。	
年間授業計画	<p>13. 演劇とは何か</p> <p>14. 演劇のもつ特色について『Hamlet』から引用し、そのプリントをもとに話す。</p> <p>15. 戯曲におけるストーリーの問題と登場人物の性格の問題を考える。</p> <p>16. 戯曲の構成について。すぐれた劇は注意深い選択であるということ。</p> <p>17. 戯曲の構成について</p> <p>18. 戯曲における言葉について。特に『Macbeth』から引く。</p> <p>19. 戯曲における言葉について、詩と散文。</p> <p>20. シェイクスピアの劇の分類</p> <p>21. シェイクスピアの劇の分類</p> <p>22. シェイクスピアの二つの戯曲の比較</p> <p>23. <i>Antony and Cleopatra</i> の一場面の観察</p> <p>24. <i>Antony and Cleopatra</i> の一場面の観察</p>	

科 目 名	英語圏文学特殊講義 a・b	担当者名	高 橋 雄一郎
-------	---------------	------	---------

講 義 の 目 標	パフォーマンス研究への誘い。パフォーマンス研究は 1980 年代にアメリカ合州国で始まった新しい研究領域です。この授業は、パフォーマンス研究とは何かを問う入門的な講座ですが、同時にパフォーマンス研究の視座を持つことで、現在の地球社会が抱えるどのような問題を明示することができるか、また私たちがどのような形で変革への一歩を踏み出していけるかを考えていきたいと思えます。		
講 義 概 要	人間は日々さまざまな演技 = パフォーマンスをしながら生活しています。この授業では、日常生活で習慣的におこなわれる演技から、旅行、宗教儀礼、演劇、ダンス、サーカスや大道芸、メディア、博物館の展示、テーマパーク、国家が催す式典などを広く視野に収め、パフォーマンスが個人の主体や文化の生成にどのように関わっているかを、演劇研究、批評理論、文化研究、文化人類学、社会学などの成果を踏まえて学際的に考察します。前期はパフォーマンス研究の理論的基盤とさまざまなアプローチの方法を概観し、後期には明治以降の日本を例に、パフォーマンスが公共の記憶を形成するプロセスを考えます。		
使 用 教 材	テキスト	リチャード・シェクナー 『パフォーマンス研究』(人文書院, 1998) ほか、初回の授業で指示します。	
	参考文献	初回の授業で指示します。	
評 価 方 法	前期にテストを 1 回実施し、後期には 4000 字程度のレポートを 1 回提出してもらう予定です。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	受動的に授業を聞くだけの学生は歓迎されません。背景や関連する領域についても積極的に調べ、自分の考えで批判的に発言できる学生を希望します。		

年間授業計画	<p>詳しいシラバスを初回の授業で配布しますが、次のようなトピックが扱われることになるでしょう。</p> <p>(前期)</p> <p>パフォーマンスとは何か パフォーマンスと非日常化 パフォーマンスとアイデンティティ パフォーマンスとジェンダー 行動の再現 パフォーマンスと民族誌学 パフォーマンスとイデオロギー 儀礼 / 祝祭 / スペクタクル / 文化的パフォーマンス ダダ / ハプニング / パフォーマンス・アート 1960年代の文化と実験演劇 ポストコロニアリズムとパフォーマンス その他</p> <p>(後期)</p> <p>「蝶々夫人の変容」その1、『唐人お吉』の受容 「蝶々夫人の変容」その2、『ミスサイゴン』と日本 天皇 / 国家 / パフォーマンス 巡幸 / 教育勅語 / 御真影 大葬の礼 / 即位の礼 / 即位 10 周年式典 博覧会の政治学 オリンピックと国民国家 戦争博物館と公共の記憶 その他</p>
--------	---

科 目 名	英米文学文献研究 a・b	担当者名	園 部 明 彦
-------	--------------	------	---------

講 義 の 目 標	さまざまな文献を正確に読む英語力の養成とこれまでの文芸批評のおおまかな流れを理解してもらうことにある。		
講 義 概 要	印象批評から心理、マルクス批評を経て元型批評、さらに K. Burk の象徴主義的行動に至るさまざまな批評方法を文献を通して改めて捉え直して見る。		
使 用 教 材	テキスト	プリント	
	参考文献	<i>The Armed Vision</i> (S.E. Hyman) , <i>Practical Criticism</i> (I.A. Richards) , <i>Seven Types of Ambiguity</i> (W. Empson) , <i>The World's Body</i> (J.C. Ransom) , <i>The Well Wrought Urn</i> (C. Brooks) , <i>Archetypal Patterns in Poetry</i> (M. Bodkin) , <i>Language as Symbolic Action</i> (K. Burke) , 「元型論」(ユング, 紀伊国屋書店) etc .	
評 価 方 法	飽くまで読解力の養成が主眼であるため、年一、二回の試験あるいはレポートではこの目的は達せられない。従って、毎時間、必ず受講者全員に一定の箇所の翻訳、あるいは内容の解説を試みてもらう。その答案を一回につき 10 点満点とし、次回までに添削・評価し、その合計が成績となる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	上記のような授業形式であるため、時間厳守を特にお願いする。遅刻しての入室は迷惑であるばかりか、無意味である。また、言うまでもないが、欠席は非常に不利になる。		

- 1 . 印象批評について (Dryden)
- 2 . " " (S.Johnson)
- 3 . " " (S.Johnson)
- 4 . (S.Johnson)
- 5 . 実践的批評 : I.A.Richards の試み
- 6 . 心理批評 : *Seven Types of Ambiguity* より
- 7 . マルクス主義批評 : *Armed Vision* より
- 8 . New Criticism について : *The Well Wrought Urn* より
- 9 . " "
- 10 . " "
- 11 . 元型批評について : *Archetypal Patterns in Poetry* より (章)
- 12 . " " (章)
- 13 . " " (章)
- 14 . " " (章)
- 15 . " " (章)
- 16 . " " (章)
- 17 . " " (章)
- 18 . *Language as Symbolic Action* より *Mind , body , and the Unconscious*
- 19 . " "
- 20 . " "
- 21 . *Mind , body , and the Unconscious* より *The Five Dogs*
- 22 . *The Five Dogs* より *Mother Goose* について
- 23 . " "
- 24 . まとめ

科 目 名	英米の社会と思想 a・b	担当者名	荻 間 寅 男
-------	--------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ジェントルマンとアマチュア主義により代表される宗教改革・科学革命・市民革命・産業革命・消費革命と近代西欧を精神・物質世界の両面において先導してきたアングロ・サクソン思想の特質を、ヨーロッパ大陸における思潮に留意しつつその起源から歴史的に展望することにより、英米における分ち難く結びついた社会と思想との一層の理解をはかるとともに、そこに潜む古典への憧憬の根底を検討したい。</p>		
講 義 概 要			
使 用 教 材	テ キ ス ト	荻間寅男『イギリス精神史』	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイリー『十八世紀の自然思想』みすず書房 ・マッキンタイア『美德なき時代』みすず書房 ・マッキンタイア『西洋倫理思想史』上・下 九大出版会 ・ブルーム『アメリカン・マインドの終焉』みすず書房 ・マクファーレン『イギリス個人主義主義の起源』リプロポート ・吉田健一『英国に就て』ちくま文庫 ・吉田健一『英国の文学』岩波文庫 	
評 価 方 法	<p>学期末の指定した文献についてのレポートを基本とするが、学期中に数点の小レポートを課し、読解・論理・構成力の増進をはかる。</p> <p>自分の考えを論理的かつ説得的に示すレポート、すなわち、よくアーギュメントされたレポートを優とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎回英文資料を配布するゆえ、積極的に、問題意識をもって参加して欲しい。</p>		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. 英米思想と西欧精神
	2. 先住民とローマ人
	3. アングロ・サクソン人の来島
	4. キリスト教の渡来と普及
	5. ノルマン人の王朝
	6. ルネッサンスと宗教改革
	7. イギリス宗教改革 中道の教会へ
	8. エリザベス朝文化
	9. フランシス・ベーコンと科学革命
	10. トマス・ホッブス
	11. ジョン・ロックと社会契約説
	12. まとめ
	(後期)
	1. ニュートンと王立協会
	2. ヒュームとスミス
	3. 産業革命と功利主義
	4. 18-9世紀の宗教運動
	5. 初期社会主義・進化論・パブリック・スクール
	6. 消費社会と唯美主義
	7. 世紀末 アイルランドと南アフリカ
	8. 大衆社会と分析哲学
	9. アメリカ植民地 トクヴィルとデモクラシーの逆説
	10. プラグマティズムと工業文明の勃興
11. 膨張するアメリカと亡命知識人	
12. まとめ	

科 目 名	英米の政治と経済 a・b	担当者名	宮 川 淑
-------	--------------	------	-------

講 義 の 目 標	科目名は「英米の経済」だが、本講では、近代化の始まる 16 世紀から現代までのイギリスの政治と経済が対象となる。		
講 義 概 要	1、近代化の始期（中央集権国家体制へ、市場経済の時代へ）2、市民革命の時代（国家主権をめぐる内乱、資本主義経済へ）3、市民社会（ホブズ・ロックの市民社会論、スミス経済学、アメリカ植民地の独立）4、産業革命当時の政治と経済（民衆の生活状態、政治改革）5、労働党政権の時代（産業国有化と福祉国家の展開、イギリス病へ）6、サッチャー政権、7、労働党ブレア政権の順で講義する。前期 a は 18 世紀前半まで、b はそれ以後。		
使 用 教 材	テキスト	特定のテキストは使用せず、授業のつど資料を配付する。	
	参考文献	世界歴史体系『イギリス史』2、3、（山川出版社） 中村英勝『イギリス議会史』（有斐閣） 宮川淑『西洋経済史』（法学書院） 宮川淑『地元利益定数は憲法違反』（同上） 小笠原欣幸『衰退国家の政治経済学』（勁草書房）	
評 価 方 法	前・後期の 2 度の定期試験に平常の出席状況を加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日までのイギリスは、数度の転換期を経ている。最初にその全過程の概略を説明する。 2. 第1章 近代化の始期、ジェントルマンの台頭、英国国教会の成立、チューダー朝までの議会などを扱い、中央集権国家体制の成立について。 3. 第2週の後半部分を扱う。 4. 重商主義について、16、17、18世紀の貿易中心の重金主義、貿易差額主義、産業保護主義の3段階の説明。 5. エンクロウジャーについて、その意義、進展状況、世論の反応等。次週へ継続する。 6. 先週からの継続で、エンクロウジャーに対する農民の対応、政府のエンクロウジャー対策について。 7. 近代化過程のうち工業部門の説明に入る。具体的にはイギリスの国民産業となる毛織物工業の成立過程と政府の統制政策について説明する。 8. マニユファクチャー（工場制手工業）の特徴と16～17世紀当時のイギリス経済全般について。 9. 第2章 市民革命の時代。国家主権をめぐる内乱、前期スチュアート朝と議会。 10. 政体論争 - 混合王制か議会主権かの論争、インディペンデントとレヴェラーズの選挙権論争について。 11. 市民革命期の経済問題を扱う。私有財産制の成立、営業の自由の原則成立等。先週からの継続。 12. 先週からの継続。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 第3章 市民社会。トマス・ホッブズ、ジョン・ロックの市民社会論について説明する。 14. アダム・スミスの経済学の解説。 15. イギリス領アメリカ植民地の独立が、本国イギリスにとってもつ政治的・経済的意味を考える。 16. イギリス議会の改革とエマンド・パークの政治思想について。 17. 第4章 産業革命当時の経済と政治。民衆の生活状態、労働者階級の対応等。 18. 労働組合の成立、工場法による労働者保護等の説明。 19. 政治改革としてのチャーティスト運動、女性参政権要求運動、小選挙区制と政治腐敗防止法の成立等。 20. 先週からの継続。 21. 第5章 労働党政権の時代。産業国有化と福祉国家政策の展開、イギリス病の分析。 22. 第6章 サッチャー政権以後。第一期（1979～83）第二期。 23. サッチャー政権第三期およびメイジャー政権。 24. 労働党ブレア政権の新基軸。
----------------------------	---

科 目 名	英米事情 a・b	担当者名	(前期) E.カーニイ (後期) N.H.ジョスト
-------	----------	------	------------------------------

前 期

講義の目標	This series of lectures aims to offer as much background cultural material to the British and their way of life as is possible in the time provided.		
講義概要	History, religion, geographical and climatic factors, are some of the things that will introduce this course. We will go on to look at the law system, education, the Irish peace initiatives, the character of the individual, humour, sport, and the legacies of history (Empire and the Victorian Period). We shall also check the modern situation of youth, drugs, and unemployment.		
使用教材	テキスト	Text will be in the form of prints selected for each lecture. Pieces from John Farman's 'Very Bloody History of Britain', and the HMSO are some examples. Also there will be a series good class cartoons used that will help highlight and explain the material covered as background.	
	参考文献	Students should be willing to read up the relevant background material to the items introduced during the lectures. Students who can submit intelligent comments on the material will be awarded bonus points that can supplement and improve their grade.	
評価方法	Grading will be in the form of quizzes and a final term test.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introductory lecture to explain procedures and scheduling. A list of books and recommended reading will be given. 2 . Geographical and climatic coverage of the British Isles. Effects on life and character of the people. Plant and animal life...comparisons with Japan. 3 . Historical outlines 1. Introduction of historical landmarks around Britain. Relevant cartoon stressing Roman, Druid, and modern attitudes to vandalism. 4 . Religion and the relevant wars. Education and Religion. Civil war and the divide in religious practice. Relevant cartoon. 5 . Education and the legacy of a class culture. Class and the nation. Relevant cartoon. 6 . Language and dialect around Britain. Introduction of the functions of the canal system through to the present day. Relevant cartoon. Mid-term quiz. 7 . Humour and the British character. The media's use of humour and the various levels and qualities of world humour. Relevant cartoons. 8 . Daily life, leisure and sport. Introduction of some major festivals like Guy Fawkes night Relevant cartoon. 9 . Youth and the trends in music and the drug culture. The ghettos and police problems. The homeless and the welfare state. Relevant cartoons. 10 . The law and its various levels and systems. Justice and the modern scene. Attitudes to the police and pressures of a multi-racial Britain. Relevant cartoons. 11 . The Royal Family, its pros and cons for a modern Britain. Pomp and circumstance and the relevance of a class culture. Relevant cartoons. 12 . Final coverage of the modern scene; money, property decline Final testing preparations and review. 		

後 期

講義の目標	This course aims to provide an overview of the themes and ideas that help create the/an American identity, the American character. It will look at how the American political system developed, and how it works, commenting on what Americans think/feel about it. It will provide an overview of some of the more important historical events of the United States. It will look at American culture from different several perspectives. Finally, it will look at some of the great industrial who help build America.	
講義概要	This lecture series will look the elements that help create the American identity . Several main themes that run through American history will be introduced and pointed out during the course. It will be suggested that while America is very diverse country Americans have certain values in common, and that those values shape the American character.	
使用教材	テキスト	Material will be provided by instructor. Prints. A listening list.
	参考文献	
評価方法	Grades will be based on attendance, quizzes, and a final report or test.	
受講者に対する要望など		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Course introduction. An overview of the geography of the United States. 2 . A look at the political system at the national, state and local level. 3 . The Bill of Rights, the Constitution. The Gettysburg Address. Class recital. 4 . The three branches of government: The elective, judicial, presidential. 5 . The establishing of the original colonies. 6 . Westward Expansionism and its implications for American thought. 7 . Aspects of American culture. 8 . Fine arts in America. 9 . Modern culture. 10 . Current American ideals. 11 . Some great events in American history. 12 . Challenges for the 21 century. 	

科 目 名	英語圏文化特殊講義 a・b	担当者名	福 井 嘉 彦
-------	---------------	------	---------

講義の目標	キリスト教との出会いによって形成された欧米文化の基本を理解する		
講義概要	キリスト教化されることによって生じた欧米文化の様相を、時代に即して語る。		
使用教材	テキスト	殊になし	
	参考文献	講義の際取り上げる	
評価方法	授業への積極的参加による出席。身体だけ教室に在る場合は評価しない。レポート等の提出物の内容評価。2回の筆記試験による評価等。		
受講者に対する要望など	第一回目の授業は必ず出席し、その際要求された課題を修めて履修許可を受けること。ただしその場合も二回目以後の授業を欠席した時は許可は取り消す。		
年間授業計画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明。日本人にとっての宗教と一神教とについて。 2. パルテノン神殿とエルサレムの神殿 3. コンスタンチヌスとケルト 4. アルフレッドの時代 5. カロリング・ルネッサンス 6. ハインリッヒ四世とグレゴリウス七世 7. ウィリアム一世からヘンリー二世まで 8. ドナティスト論争とグレゴリウス改革 9. 異端者たちの群 10. 百年戦争と異端者ジャンヌ 11. レコンキスタとリチャード王 12. 聖地を求める巡礼達 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教皇の栄光と下降 2. インターメッツォ 3. インターミッション 4. 人文主義者たち 5. ここに立つルター 6. ジュネーブの人 7. ヘンリー父子 8. チューダー王家の三君主 9. 国王の処刑 10. 国王の交替からオーガスタン時代へ 11. 友愛の森を求めて 12. エピローグ 		

科 目 名	英米文化文献研究 a・b	担当者名	町 田 喜 義
-------	--------------	------	---------

講 義 の 目 標	コミュニケーションと文化に係わる様々な要因の連鎖を学習する。		
講 義 概 要	<p>著者の前書きには次のように書かれている。</p> <p>This book is intended for those whose professional or private life is likely to include encounters with people from cultures or co-cultures different from their own. We therefore deal with both communication among international cultures and communication among co-cultures in the United States.</p>		
使 用 教 材	テキスト	Samovar, L. A. and R. E. Porter, <i>Communication Between Cultures</i> , 2d. ed. (Wadsworth Pub. Comp. 1995)、全 3 3 3 ページ	
	参考文献	多数あるので、読み進めながらその都度明示する。	
評 価 方 法	前・後期それぞれ：出席（20%）発表（40%）レポート（40%）		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	この科目は受講生数が 35 名と上限人数が決められているので、希望者が多数の時は（まずあり得ないと思うが）抽選によって受講を決定するので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. プロローグ：概要説明、各自の自己紹介、その他
	2. Intercultural Communication: Summary
	3. Discussion
	4. Communication: Summary
	5. Discussion
	6. Culture: Summary
	7. Discussion
	8. Cultural Diversity in Perception: Summary
	9. Discussion
	10. The Deep Structure of Culture: Summary
	11. Discussion
	12. エピローグ：前期まとめ
	(後期)
	1. プロローグ：夏休みの体験談など
	2. Language and Culture: Summary
	3. Discussion
	4. Nonverbal Communication: Summary
	5. Discussion
	6. Cultural Influences on Context: Business; Summary
	7. Discussion
	8. Cultural Influences on Context: Education; Summary
	9. Discussion
	10. Accepting Differences and Appreciating Similarities; Summary
11. Discussion	
12. エピローグ：後期まとめ	

科 目 名	国際政治論 a1・b1	担当者名	(前期) 有賀 貞 (後期) 永野 隆行
-------	-------------	------	-------------------------

前 期

講義の目標	国際政治を歴史的理論的に考察することで、現代国際政治の特徴とそれから生じる問題についての理解を助けることを目指す。		
講義概要	1 主権国家体制の成立から国際政治の歴史的発展を国際政治論の授業に相応しく、整理して講義し、関連する国際政治理論、とくに古典的著作を紹介する。 2 現代の国際政治の主要な問題の歴史的背景を述べ、それに関連する理論を紹介する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	山本吉宣ほか(編)『国際政治の理論』(講座国際政治 1) 東京大学出版会、高坂正堯・公文俊平(編)『国際政治経済の基礎知識』有斐閣、入江昭『新・日本の外交』中央公論社(新書)、梶田孝道『統合と分裂のヨーロッパ』、田中昭彦『新しい「中世」』日本経済新聞社など。	
評価方法	学期末の試験のほか、授業期間中に中間試験(持ち帰り試験)を行う。成績表価は双方を総合して行う。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. ヨーロッパにおける主権国家国際システムの成立 2. 西洋世界の拡大と非西洋世界 3. ナショナリズムと国際主義 4. 自由主義的民主主義と対抗思想 5. 冷戦期の国際政治 6. 植民地の独立 7. ソ連圏の崩壊と政治経済体制の変化 8. 近現代における外交 9. 近現代における戦争 10. 資本主義の世界化と情報化 11. 人権をめぐる国際的な合意と対立 12. 現代の国際機構：国連および世界的国際機構 (以上のテーマについては若干の変更の可能性あり)		

後 期

<p>講 義 の 目 標</p>	<p>これまでわが国では様々な要因からあまり関心が払われてこなかったが、国際政治研究においてはきわめて重要、かつ中心的な問題である「安全保障(security)」についての講義を行う。 本講義では、次に挙げる 4 つの疑問点について、学生諸君がそれぞれ自分なりの答えを見出し出してもらいたい。 国際関係における安全保障とは、主体では誰で、その主体の何を、どんな脅威から、どんな手段によって守ることなのか？ 国家の安全保障と、個々の人間の安全保障、さらには国際社会全体にとっての安全保障は、どのように結びついているのか？国家の安全が守られることは、自動的にそこに住む個人の安全も守られていることを意味するのか？ 冷戦期とポスト冷戦時代ではどのように安全保障概念が変化を遂げたのか？現代における安全保障概念の特質とは何か？ 現代国際関係において、日本の安全保障をどのように考えるべきなのか？そのときに重要な視点は何か？</p>				
<p>講 義 概 要</p>	<p>使用するテキストはタイトルが示すとおり「安全保障」に関する論文集である。タイトルに「新」という言葉を冠しているのは、「伝統的な」安全保障問題を議論するのではなく、冷戦後に登場、もしくは認識されるようになってきた安全保障問題の「新しい領域」を扱うからである。本講義では、そもそも伝統的な安全保障観、安全保障問題とは何かを理解してもらった上で、冷戦後に顕著となってきた新しい安全保障問題について、テキストに沿って解説を加えていく。当然のことながら講義の中心は安全保障問題になるが、テキストの内容把握に必要と思われる国際政治の基本的項目・用語について、その都度説明を加えていくので、国際政治全般の基礎知識についても十分学べることと思う。なおビデオ教材も積極的に利用したいと考えている。 下記に示す「年間授業計画」にある 10 項目を 12 (13) 回の授業にわたって行う。ただし、学生の理解度、関心にあわせて、予定を変更する場合もある。なお講義は学生諸君がテキスト該当部分を事前に読んできていることを前提に進める。<u>テキストを読まずに、ろくな予習をせずに講義が理解できるなどとは思わないで欲しい。</u>時に応じて、ブックレポートを要求する。</p>				
<p>使 用 教 材</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="266 998 312 1112"> <p>テキスト</p> </td> <td data-bbox="312 998 1233 1112"> <p>納家正嗣、竹田いさみ編『新安全保障論の構図』勁草書房、1999 年。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="266 1112 312 1425"> <p>参考文献</p> </td> <td data-bbox="312 1112 1233 1425"> <p>江畑謙介『安全保障とは何か 脱・幻想の危機管理論』平凡社新書、1999 年。 『外交フォーラム 1999 年特別篇～21 世紀の安全保障・岐路に立つ日本外交』(1999 年 11 月)。 なお第一回目の授業時に参考文献リストを配布する。</p> </td> </tr> </table>	<p>テキスト</p>	<p>納家正嗣、竹田いさみ編『新安全保障論の構図』勁草書房、1999 年。</p>	<p>参考文献</p>	<p>江畑謙介『安全保障とは何か 脱・幻想の危機管理論』平凡社新書、1999 年。 『外交フォーラム 1999 年特別篇～21 世紀の安全保障・岐路に立つ日本外交』(1999 年 11 月)。 なお第一回目の授業時に参考文献リストを配布する。</p>
<p>テキスト</p>	<p>納家正嗣、竹田いさみ編『新安全保障論の構図』勁草書房、1999 年。</p>				
<p>参考文献</p>	<p>江畑謙介『安全保障とは何か 脱・幻想の危機管理論』平凡社新書、1999 年。 『外交フォーラム 1999 年特別篇～21 世紀の安全保障・岐路に立つ日本外交』(1999 年 11 月)。 なお第一回目の授業時に参考文献リストを配布する。</p>				
<p>評 価 方 法</p>	<p>数回のブックレポート、学期末の試験による総合評価。なお出欠は一切とらない。</p>				
<p>受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど</p>	<p>授業中に私語をし、まじめに講義を聞こうとしている学生に迷惑をかける学生は、国際関係研究でたとえていうならば、「平和に対する脅威」を与える国家のようなものであり、国際社会はあらゆる措置を講じてそういった脅威を取り除こうとする。本講義においても私語をする学生は、国際社会と同様の厳しい制裁が加えられることを覚悟しておいて欲しい。</p>				

年 間 授 業 計 画	講義タイトル	テキスト対象箇所
	1. 安全保障とは何か～安全保障概念の変容	なし
	2. 国際政治における「力」、勢力均衡論	序章
	3. 内戦の頻発と国際社会の対応	第一章
	4. 人道的介入の是非～ビデオ上映	第一章
	5. デモクラティックピース	第二章
	6. 経済安全保障とは	第四章
	7. 集団安全保障、共通の安全保障、協調的安全保障	第六章
	8. ヨーロッパの安全保障	第七章
	9. NATOの形成と発展～ビデオ上映	第七章
	10. 東アジアの安全保障	第八章

科 目 名	国際政治論 a2・b2	担当者名	(前期)永野 隆行 (後期)有賀 貞
-------	-------------	------	-----------------------

前 期

講 義 の 目 標	<p>これまでわが国では様々な要因からあまり関心が払われてこなかったが、国際政治研究においてはきわめて重要、かつ中心的な問題である「安全保障(security)」についての講義を行う。本講義では、次に挙げる 4 つの疑問点について、学生諸君がそれぞれ自分なりの答えを見出してほしい。</p> <p>国際関係における安全保障とは、主体では誰で、その主体の何を、どんな脅威から、どんな手段によって守ることなのか？</p> <p>国家の安全保障と、個々の人間の安全保障、さらには国際社会全体にとっての安全保障は、どのように結びついているのか？国家の安全が守られることは、自動的にそこに住む個人の安全も守られていることを意味するのか？</p> <p>冷戦期とポスト冷戦時代ではどのように安全保障概念が変化を遂げたのか？現代における安全保障概念の特質とは何か？</p> <p>現代国際関係において、日本の安全保障をどのように考えるべきなのか？そのときに重要な視点は何かなのか？</p>				
講 義 概 要	<p>使用するテキストはタイトルが示すとおり「安全保障」に関する論文集である。タイトルに「新」という言葉を冠しているのは、「伝統的な」安全保障問題を議論するのではなく、冷戦後に登場、もしくは認識されるようになってきた安全保障問題の「新しい領域」を扱うからである。本講義では、そもそも伝統的な安全保障観、安全保障問題とは何かを理解してもらった上で、冷戦後に顕著となってきた新しい安全保障問題について、テキストに沿って解説を加えていく。当然のことながら講義の中心は安全保障問題になるが、テキストの内容把握に必要と思われる国際政治の基本的項目・用語について、その都度説明を加えていくので、国際政治全般の基礎知識についても十分学べることと思う。なおビデオ教材も積極的に利用したいと考えている。</p> <p>下記に示す「年間授業計画」にある 10 項目を 12 (13) 回の授業にわたって行う。ただし、学生の理解度、関心にあわせて、予定を変更する場合もある。なお講義は学生諸君がテキスト該当部分を事前に読んできていることを前提に進める。<u>テキストを読まずに、ろくな予習をせずに講義が理解できるなどとは思わないで欲しい。</u>時に応じて、ブックレポートを要求する。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>納家正嗣、竹田いさみ編『新安全保障論の構図』勁草書房、1999 年。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>江畑謙介『安全保障とは何か 脱・幻想の危機管理論』平凡社新書、1999 年。 『外交フォーラム 1999 年特別篇～21 世紀の安全保障・岐路に立つ日本外交』(1999 年 11 月)。 なお第一回目の授業時に参考文献リストを配布する。</td> </tr> </table>	テキスト	納家正嗣、竹田いさみ編『新安全保障論の構図』勁草書房、1999 年。	参考文献	江畑謙介『安全保障とは何か 脱・幻想の危機管理論』平凡社新書、1999 年。 『外交フォーラム 1999 年特別篇～21 世紀の安全保障・岐路に立つ日本外交』(1999 年 11 月)。 なお第一回目の授業時に参考文献リストを配布する。
テキスト	納家正嗣、竹田いさみ編『新安全保障論の構図』勁草書房、1999 年。				
参考文献	江畑謙介『安全保障とは何か 脱・幻想の危機管理論』平凡社新書、1999 年。 『外交フォーラム 1999 年特別篇～21 世紀の安全保障・岐路に立つ日本外交』(1999 年 11 月)。 なお第一回目の授業時に参考文献リストを配布する。				
評 価 方 法	数回のブックレポート、学期末の試験による総合評価。なお出欠は一切とらない。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業中に私語をし、まじめに講義を聞こうとしている学生に迷惑をかける学生は、国際関係研究でたとえていうならば、「平和に対する脅威」を与える国家のようなものであり、国際社会はあらゆる措置を講じてそういった脅威を取り除こうとする。本講義においても私語をする学生は、国際社会と同様の厳しい制裁が加えられることを覚悟しておいて欲しい。				

年 間 授 業 計 画	講義タイトル	テキスト対象箇所
	1. 安全保障とは何か～安全保障概念の変容	なし
	2. 国際政治における「力」、勢力均衡論	序章
	3. 内戦の頻発と国際社会の対応	第一章
	4. 人道的介入の是非～ビデオ上映	第一章
	5. デモクラティックピース	第二章
	6. 経済安全保障とは	第四章
	7. 集団安全保障、共通の安全保障、協調的安全保障	第六章
	8. ヨーロッパの安全保障	第七章
	9. NATOの形成と発展～ビデオ上映	第七章
	10. 東アジアの安全保障	第八章

後 期

講義の目標	国際政治を歴史的理論的に考察することで、現代国際政治の特徴とそれから生じる問題についての理解を助けることを目指す。	
講義概要	<p>1 主権国家体制の成立から国際政治の歴史的発展を国際政治論の授業に相応しく、整理して講義し、関連する国際政治理論、とくに古典的著作を紹介する。</p> <p>2 現代の国際政治の主要な問題の歴史的背景を述べ、それに関連する理論を紹介する。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	山本吉宣ほか（編）『国際政治の理論』（講座国際政治 1）東京大学出版会、高坂正堯・公文俊平（編）『国際政治経済の基礎知識』有斐閣、入江昭『新・日本の外交』中央公論社（新書）、梶田孝道『統合と分裂のヨーロッパ』、田中昭彦『新しい「中世」』日本経済新聞社など。
評価方法	学期末の試験のほか、授業期間中に中間試験（持ち帰り試験）を行う。成績表価は双方を総合して行う。	
受講者に対する要望など		
年間授業計画	<p>1. ヨーロッパにおける主権国家国際システムの成立</p> <p>2. 西洋世界の拡大と非西洋世界</p> <p>3. ナショナリズムと国際主義</p> <p>4. 自由主義的民主主義と対抗思想</p> <p>5. 冷戦期の国際政治</p> <p>6. 植民地の独立</p> <p>7. ソ連圏の崩壊と政治経済体制の変化</p> <p>8. 近現代における外交</p> <p>9. 近現代における戦争</p> <p>10. 資本主義の世界化と情報化</p> <p>11. 人権をめぐる国際的な合意と対立</p> <p>12. 現代の国際機構：国連および世界的国際機構</p> <p>（以上のテーマについては若干の変更の可能性あり）</p>	

科 目 名	国際関係史 a・b	担当者名	有 賀 貞
-------	-----------	------	-------

講 義 の 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 20世紀国際関係史全般に関する基本的知識を提供し、国際関係の歴史の変遷の理解に役立てる。 2 履修者が国際関係史に関連する基本的語彙を習得できるようにする。 3 いくつかの英文外交文書を読み、その意味を検討する。 				
講 義 概 要	<p>前期には19世紀国際関係の概観から太平洋戦争の始まりまでを、後期にはそれ以後近年に到るまでを扱う。講義は主として英語で行い、日本語で補足する。講義の英文概要は前もって配布する。年間計画の中の諸項目の題には若干の変更があるかもしれない。</p>				
使 用 教 材	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">テキスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> <p>参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起原』（みすず書房）カー『両大戦間における国際関係史』（弘文堂）入江昭『太平洋戦争の起源』（東京大学出版会）ハレ『歴史としての冷戦』（サイマル出版）細谷千博『日本外交の軌跡』（NHKブックス）W.R Keylor, <i>The Twentieth-Century World</i> (Oxford university Press, 3rd edition)など。</p> </td> </tr> </table>	テキスト		参 考 文 献	<p>参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起原』（みすず書房）カー『両大戦間における国際関係史』（弘文堂）入江昭『太平洋戦争の起源』（東京大学出版会）ハレ『歴史としての冷戦』（サイマル出版）細谷千博『日本外交の軌跡』（NHKブックス）W.R Keylor, <i>The Twentieth-Century World</i> (Oxford university Press, 3rd edition)など。</p>
テキスト					
参 考 文 献	<p>参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起原』（みすず書房）カー『両大戦間における国際関係史』（弘文堂）入江昭『太平洋戦争の起源』（東京大学出版会）ハレ『歴史としての冷戦』（サイマル出版）細谷千博『日本外交の軌跡』（NHKブックス）W.R Keylor, <i>The Twentieth-Century World</i> (Oxford university Press, 3rd edition)など。</p>				
評 価 方 法	<p>前期後期とも、期末に試験を行うほか、レポートを1回提出する。評価は試験とレポートとを総合して行う。レポートへの配点は40%程度であるから、レポートを提出しないで合格の評価を得ることは事実上不可能である。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど					

(前期)

- 1 . Introduction
- 2 . The Characteristics of 19th-Century International Relations
- 3 . Politics of Imperialism around the Turn of the Century
- 4 . The Outbreak of the First World War
- 5 . The Entry of the United States and the Bolshevik Revolution
- 6 . The Versailles Treaty and Postwar Confusion in Europe and the Middle East
- 7 . The Washington Conference and the Asia-Pacific International Order
- 8 . The Return of Relative Stability in Europe
- 9 . The Great Depression and the Collapse of International Political Stability
- 10 . The Berlin-Rome Axis and the Failure of the Appeasement Policy
- 11 . The Outbreaks of the Sino-Japanese War and the Second World War
- 12 . The Road to Pearl Harbor

(後期)

- 1 . Wartime Diplomacy of the Three Major Allied Powers
- 2 . The End of the War and the Development of the Cold War
- 3 . Stabilized Europe and Turbulent East Asia
- 4 . Post-WW South and Southeast Asia
- 5 . The Foreign Policy of the Post-Stalin Soviet Union
- 6 . The Retreat of European Imperialism from the Middle East and Africa
- 7 . Progress in Economic Integration in Western Europe
- 8 . The Vietnam War and the Reorientation of US Foreign Policy
- 9 . The Fourth Middle Eastern War and After
- 10 . The "New Cold War" and the Prosperity of the Capitalist World
- 11 . The Collapse of the Old Order in Eastern Europe and the Soviet Union
- 12 . International Relations in the post-Cold War Era

科 目 名	国際関係論特殊講義 a・b	担当者名	森 健
-------	---------------	------	-----

講 義 の 目 標	<p>世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もこのような固有性を反映する。しかし、経済活動の本質的な部分には各国に共通する法則（普遍的な法則）が働いていることを実感させられる例が多い。この講義の目的は、対象とする国の経済発展の歴史と現状を前記の観点、即ち、固有性と普遍性の発見に努めることにある。今期の授業では、オーストラリアを中心として取り上げ、オーストラリアとの関連において、日本を含むアジア諸国の経済を取り上げる。</p>		
講 義 概 要	<p>オーストラリアは近年、極めてユニークかつ大胆な政策転換を行った。現在、同国は、アジア太平洋経済協力（APEC）会議を提唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化推進に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れている国として知られている。しかし、同国は、かつては、名だたる保護貿易国であり、有色人種の移民を排除していた国でもある。何故このような政策変換がなされたのか。この変換はどのようになされてきたのか。97年以降のアジア経済危機はオーストラリアにどのような影響を与えているのか。この講義では、このような問題を様々な切り口（自然条件、歴史的条件、マクロ経済、ミクロ経済、対外取引、政治・社会体制など）から解明する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>竹田いさみ、森 健（編）『オーストラリア入門』（東京大学出版会、1998年6月刊） その他：ビデオ、ハンドアウト（教室で配布）を使用する。</p>	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>定期試験を中心とし、時折上映するビデオに関して提出して貰うコメント等も参考とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>自国以外の国の事情を知ることによって、複眼的な思考ができるようになって貰いたい。</p>		

科 目 名	国際関係論文献研究 a・b	担当者名	阿 部 純 一
-------	---------------	------	---------

講義の目標	英語文献を通じて、米ソ冷戦期からポスト冷戦の現在にかけて生じてきた国際関係の構造変化を検討する。		
講義概要	米ソ冷戦が終結して十年を経過した現在、政治・経済・軍事のあらゆる点でアメリカが突出した状況が定着しつつある。しかし、アメリカのリーダーシップがヨーロッパや日本、中国などの協調を必要としていることも事実である。かかる現実を踏まえ、冷戦後の国際関係の構造変化をどう捉えるべきか、また現実に起きている国際関係の諸問題への対処の仕方がどう変化してきているか、等の問題について最新の文献をもとに議論する。		
使用教材	テキスト	アメリカの外交専門誌記事、政府機関・関連シンクタンクのレポートなどのコピーを配布する。	
	参考文献	必要に応じて紹介する。	
評価方法	成績は授業時の学生による報告（詳細なレジュメを必ず用意すること）と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。そのためには授業への出席が最低条件となる。		
受講者に対する要望など	受講上限人数 35 名。これを超えた場合、関連科目（国際関係論、専門講読）受講者を優先する。出席率 70%以下は不可。		
年間授業計画	テキストとして使用する文献が未定のため、開講時に通知する。		

科 目 名	異文化間コミュニケーション論 a1・b1	担当者名	石 井 敏
-------	----------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>本講義は、異文化間コミュニケーションに関する諸問題を多面的に認識し、解決策を学際的に講ずることを目標とする。異文化間コミュニケーション活動においては、当該の外国語の発音・語彙・文法に関する言語的知識と技能に加えて、異文化間の平等性に基づいて自分と相手の文化の特性を相互に理解し、相互に適したコミュニケーション行動をすることが不可欠である。そこで、人間・文化・コミュニケーションの相関関係を理論と実際の両面から体系的に明らかにすることを目指す。</p>		
講 義 概 要	<p>講義は、入門、基礎、そして応用の3部より成る。入門の部では、異文化間コミュニケーションの基礎概念と研究目的を明らかにする。基礎の部では、異文化間コミュニケーションの研究手法、言語及び非言語メッセージとコミュニケーションのレベル区分、そして日本社会と異文化間コミュニケーションについて解説する。応用の部では、教育と異文化間コミュニケーション、企業・組織と異文化間コミュニケーション、そして国際場面での異文化間コミュニケーションの諸問題について述べる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	石井敏他編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』(有斐閣)	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・石井敏他『異文化コミュニケーション』(有斐閣) ・石井敏他『異文化コミュニケーション・キーワード』(有斐閣) 	
評 価 方 法	<p>多数の受講者が予想されるので、前期末と後期末の試験の成績による。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>学生は英語でノートを取ることが多いので、教科書の指定の箇所を十分に読み、テーマについて予備知識を得てから授業に出席すること。万一欠席する場合には、友人の協力を得て、欠けた部分を早目に補っておくこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講上の一般的注意。文化とコミュニケーションの相関関係について。教科書 - 1 文化とコミュニケーション。 2. 異文化間コミュニケーションの定義と概念について。教科書 - 2 異文化コミュニケーション。 3. 異文化間の相互理解の重要性と異文化間コミュニケーション能力について。教科書 - 3 異文化相互理解、 - 4 異文化コミュニケーション能力の向上。 4. 異文化共生の概念と実情について。教科書 - 5 異文化が共生できる社会。 5. 異文化間コミュニケーション研究の理論と方法について。教科書 - 1 異文化コミュニケーション研究の歩み、 - 2 異文化コミュニケーションの理論と研究方法。 6. 異文化間コミュニケーションの研究領域と関連諸問題について。教科書 - 3 異文化コミュニケーションの領域、 - 4 異文化コミュニケーションの諸問題。 7. 異文化間コミュニケーションにおける言語メッセージと非言語メッセージについて。教科書 - 5 言語メッセージと記号、 - 6 非言語メッセージ。 8. 異文化間コミュニケーションと対人関係について。教科書 - 7 対人コミュニケーション。 9. 異文化間レトリカル・コミュニケーションについて。教科書 - 8 公的な場でのコミュニケーション。 10. 集団・組織における異文化間コミュニケーションについて。教科書 - 9 集団・組織とコミュニケーション。 11. 文化とマス・コミュニケーションについて、教科書 - 10 マス・コミュニケーション。 12. 文化の概念と特性について。教科書 - 11 文化の独自性と普遍性、 - 12 文化変化と創造性。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人レベルの異文化接触と異文化適応について。教科書 - 13 個人レベルの文化接触。 2. 国家レベルの異文化接触と異文化交流について。教科書 - 14 国家レベルの異文化接触、 - 15 日本の異文化交流史。 3. 日本人のコミュニケーションと日本社会における異文化間コミュニケーションについて。教科書 - 16 日本人のコミュニケーション特性、 - 17 日本社会の特徴と異文化間コミュニケーション。 4. 多文化社会と異文化間摩擦について。教科書 - 18 多文化社会としての日本、 - 19 文化摩擦の諸側面。 5. コミュニケーション教育と言語教育について。教科書 - 1 スピーチ・コミュニケーション教育、 - 2 語学教育(外国語教育と日本語教育) 6. 日本における国際理解教育の目的・方法について。教科書 - 3 国際理解教育。 7. 日本人の海外留学と在日外国人留学生の諸問題について。教科書 - 4 海外留学とカウンセリング、 - 5 外国人留学生の受入れ。 8. 海外子女の異文化適応と帰国子女の帰国ショックについて。教科書 - 6 海外子女と帰国子女。 9. 企業と組織における異文化間コミュニケーションの問題について。教科書 - 7 異文化経営、 - 8 異文化交渉(経済・ビジネス) 10. 異文化間コミュニケーション教育・訓練について。教科書 - 9 異文化コミュニケーション研修。 11. 国際文化交流活動と国際協力における異文化間コミュニケーション。教科書 - 10 国際文化交流、 - 11 国際協力。 12. 会議通訳における異文化間コミュニケーションと先端メディアによる国際コミュニケーションについて。教科書 - 12 国際会議におけるコミュニケーション、 - 13 先端通信メディアと国際コミュニケーション。
----------------------------	---

科 目 名	異文化間コミュニケーション論 a2・b2	担当者名	町 田 喜 義
-------	----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	異文化間コミュニケーション・プロセスに関わる複雑な要因の連鎖を理解し、自文化（あるいは自己）と異文化（あるいは他者）を客観的・相対的に分析し、説明できる能力を養い、各自のコミュニケーション行動の客観的指標の確立を図る。		
講 義 概 要	前記は『異文化間コミュニケーション論入門』とし、1960年代以降の異文化間コミュニケーション研究の成果をマクロに考察する。主として、文化（社会）とコミュニケーション - そこから派生する様々な概念とその連鎖 - を日本の文化に軸足を置きながら講義する。後期は『異文化間コミュニケーション論特殊講義』とし、カナダとの比較文化論的内容にする。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	印刷物、ビデオ、その他を使用。後期使用テキストは、開講後明示する。	
	参 考 文 献	開講時に別紙配布する	
評 価 方 法	前記：論述試験；50％ 後期：グループ・リサーチ・プレゼンテーション（後期）：20％ グループ・リサーチ・ペーパー（後期）：30％ 詳細は、4月開講後明示する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	グループ活動には各自の「責任」と「義務」が要求される。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ：担当者自己紹介、講義概要の説明、「異文化間コミュニケーション」とは何かを考える＝受講生の「異文化」体験の発表など。 2. 「文化」、「異文化」、「コミュニケーション」の概念 3. グループ討議の為に班編成、および討議（トピックはヒ・ミ・ツ?） 4. ビデオ映画 'Gung Ho' 5. 討議：日・米文化のコミュニケーション・ギャップについて 6. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（1） 7. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（2） 8. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（3） 9. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（4） 10. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（5） 11. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（6） 12. 前記のまとめ：比較文化論への誘い 12. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（1）- 政治 13. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（2）- 経済 14. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（3）- 女性 15. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（4）- 家族 16. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（5）- 宗教 17. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（6）- 民族 18. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（7）- メディア 19. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（8）- 教育 20. 社会事象を読み説く：日本とカナダ（9）- 均衡・問題解決・義務責任・コミュニケーション 21. グループ・リサーチ・プレゼンテーション 22. グループ・リサーチ・プレゼンテーション 23. グループ・リサーチ・プレゼンテーション 24. エピローグ：今後のコミュニケーション行動について
----------------------------	--

科 目 名	マス・コミュニケーション論 a・b	担当者名	佐々木 輝 美
-------	-------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、且つ、それらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションのモデル及び効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、そして後期は、マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。影響研究については、特に「メディア暴力の視聴者への影響」を中心テーマとして扱う。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>(前期) プリント (後期) 佐々木輝美『メディアと暴力』勁草書房、1996</p>	
	参 考 文 献	<p>・岡崎篤郎他編著『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版、1992 ・H.J.アイゼンク他著 岩脇三良訳 『性・暴力・メディア』新曜社、1982</p>	
評 価 方 法	<p>定期試験、レポート、平常点の総合評価を行う。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	(前期)	
	1. マス・コミュニケーションとは	
	2. コミュニケーションについての基礎知識(1) - プロセスの概念について -	
	3. コミュニケーションについての基礎知識(2) - 意味はどこに存在するか? -	
	4. コミュニケーションについての基礎知識(3) - メディア接触について -	
	5. マス・コミュニケーションのモデルについて(1) - モデルの長所と短所 -	
	6. マス・コミュニケーションのモデルについて(2) - マス・コミュニケーションの要素 -	
	7. ビデオ視聴&解説 (レポートは1000字程度にまとめる)	(レポート課題発表)
	8. マスコミ効果の概念について(1) - 効果とは -	
	9. マスコミ効果の概念について(2) - 順機能と逆機能 -	(レポート提出締切り)
	10. マス・コミュニケーションと教育(1)	
	11. マス・コミュニケーションと教育(2)	
12. 前期のまとめ		
(後期)		
1. マスコミの影響研究について(1) - 弾丸理論 -		
2. マスコミの影響研究について(2) - 限定効果モデル -		
3. マスコミの影響研究について(3) - 適度効果モデルから強力効果モデルへ -		
4. メディア暴力研究について(1) - 研究の背景 -		
5. メディア暴力研究について(2) - カタルシス理論 -		
6. メディア暴力研究について(3) - 観察学習理論 -		
7. メディア暴力研究について(4) - 脱感作理論 -		
8. メディア暴力研究について(5) - カルティベーション理論 -		
9. ビデオ視聴&解説 (レポートは1000字程度にまとめる)	(レポート課題発表)	
10. メディア暴力研究について(6) - 4理論のまとめ(暴力番組の類型化) -		
11. メディア暴力研究について(7) - メディア暴力への対応 -	(レポート提出締切り)	
12. 後期のまとめ		

科 目 名	スピーチ・コミュニケーション論 a・b	担当者名	板 場 良 久
-------	---------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>スピーチ・コミュニケーションとは音声表現のことではありません。スピーチ・コミュニケーションとは、スピーチという発話を投じることによってさらに次の発話が生み出されていく生きたプロセス、すなわち発話の連鎖なのです。発話としてのスピーチとは、政治演説や結婚式での祝辞のようなものばかりではありません。プロモーション・ビデオや何気ない一言、時には意味ありげな仕草や沈黙さえも発話として機能しますので、これらもコミュニケーション・プロセスに投じられるスピーチの一種と言えないことはないでしょう。しかしこの講義では、言葉で構成されたスピーチ、すなわちあるまとまった時間を費やして発せられたスピーチを中心に考えてみたいと思います。その中で、英語スピーチの技術だけでなく、人間が発話をする理由や知恵、あるいは意味ある発話から切り離すことのできない文化的イデオロギーの作用などを学び取っていくことを目指します。</p>		
講 義 概 要	<p>考察するスピーチとしては主に英語スピーチを用います。講義の大半は平易な英語（英検 2 級程度）で行ない、その簡単な要約を日本語で行ないます。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>プリント配布予定。</p>	
	参 考 文 献	<p>『20 世紀の証言』（第 2 巻、アルク）を部分的に使用します。</p>	
評 価 方 法	<p>小テスト（不定期で 2 回）30% 学期末試験 70%</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>この講義で取り上げる問題を、単なる知識としてではなく、自分と深く関係のある問題として捉えるようにしてください。なお、英語での講義のため、集中力が普段よりも必要となります。したがって、聞き取りに集中している受講生の妨げとなる私語は厳しく取り締まります。</p>		

・ 前期テーマ スピーチ・コミュニケーション教育

スピーチ・コミュニケーション教育の意義

スピーチ教育

a. 英検のスピーチを考える

b. 英語スピーチ・コンテストを考える

ディベート教育

ディスカッション教育

オーラル・インタープリテーション教育

・ 後期テーマ スピーチ・コミュニケーション研究

各スピーチ・コミュニケーション教育法の有効性と問題点

スピーチ・コミュニケーションの理論

スピーチの分析法

スピーチの批評法

(さらに詳しい授業計画を初回の講義で配布します。)

科 目 名	コミュニケーション論文献研究 a・b	担当者名	佐々木 輝 美
-------	--------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>以下を講義の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) プレゼンテーションを効果的に行うことができる。 2) コミュニケーションの領域の専門雑誌を自分で検索できる。 3) 実証的な調査研究の計画、実施および分析ができる。 4) 異文化コミュニケーションの文献をよみこなすことができる。 				
講 義 概 要	<p>およそ次の順序で講義を進めて行く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 効果的なプレゼンテーションを身につけるために、スピーチ・コミュニケーションの文献を読み、実際にスピーチの練習を行う。 2) コミュニケーションの領域にはどのような英文専門雑誌があるのかを学習し、それぞれの専門雑誌の特徴を理解する。 3) 学術論文の構成、調査票の作り方、統計分析の方法について学び、模擬的な実証研究を行う。 4) よいコミュニケーターになるためにはどうしたらよいのかをテーマに異文化コミュニケーションの文献を読んで行く。 				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>Samovar, L.A. & Porter, R. E., <i>Communication between cultures</i>, (3rd ed.) Wadsworth Publishing Company, 1998.</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>古田暁 監修、石井敏 他著『異文化コミュニケーション(改訂版)』(有斐閣選書、1996)</td> </tr> </table>	テキスト	Samovar, L.A. & Porter, R. E., <i>Communication between cultures</i> , (3rd ed.) Wadsworth Publishing Company, 1998.	参考文献	古田暁 監修、石井敏 他著『異文化コミュニケーション(改訂版)』(有斐閣選書、1996)
テキスト	Samovar, L.A. & Porter, R. E., <i>Communication between cultures</i> , (3rd ed.) Wadsworth Publishing Company, 1998.				
参考文献	古田暁 監修、石井敏 他著『異文化コミュニケーション(改訂版)』(有斐閣選書、1996)				
評 価 方 法	定期試験、レポート、グループ発表、平常点の総合評価を行う。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	発表が多い授業なので、十分な準備と積極的な参加を希望します。尚、この科目は受講者の上限(35名)が決まられていますので、第1回目の授業で抽選を行います。				

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. オリエンテーション
	2. プレゼンテーションとしてのスピーチ (1) 構成方法
	3. プレゼンテーションとしてのスピーチ (2) 各自プレゼンテーションを行う
	4. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について (1)
	5. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について (2)
	6. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について (3) (グループ発表)
	7. 研究方法について (1) 学術論文の構成、仮説の立て方、調査票の作り方 (グループ分け)
	8. 研究方法について (2) 統計分析の方法 (a)
	9. 研究方法について (3) 統計分析の方法 (b)
	10. 研究方法について (4) コンピュータによる分析
	11. 研究方法について (5) 調査の実施
	12. グループ別実証研究の発表
	(後期)
	1. 異文化コミュニケーション (1) 文化について (a)
	2. 異文化コミュニケーション (2) 文化について (b)
	3. 異文化コミュニケーション (3) モデルと要素について (a)
	4. 異文化コミュニケーション (4) モデルと要素について (b)
	5. 異文化コミュニケーション (5) モデルと要素について (c)
	6. 異文化コミュニケーション (6) 非言語コミュニケーション (a)
7. 異文化コミュニケーション (7) 非言語コミュニケーション (b)	
8. 異文化コミュニケーション (8) 非言語コミュニケーション (c)	
9. 異文化コミュニケーション (9) 良いコミュニケーターとは (a)	
10. 異文化コミュニケーション (10) 良いコミュニケーターとは (b)	
11. 異文化コミュニケーション (11) 良いコミュニケーターとは (c)	
12. まとめ	